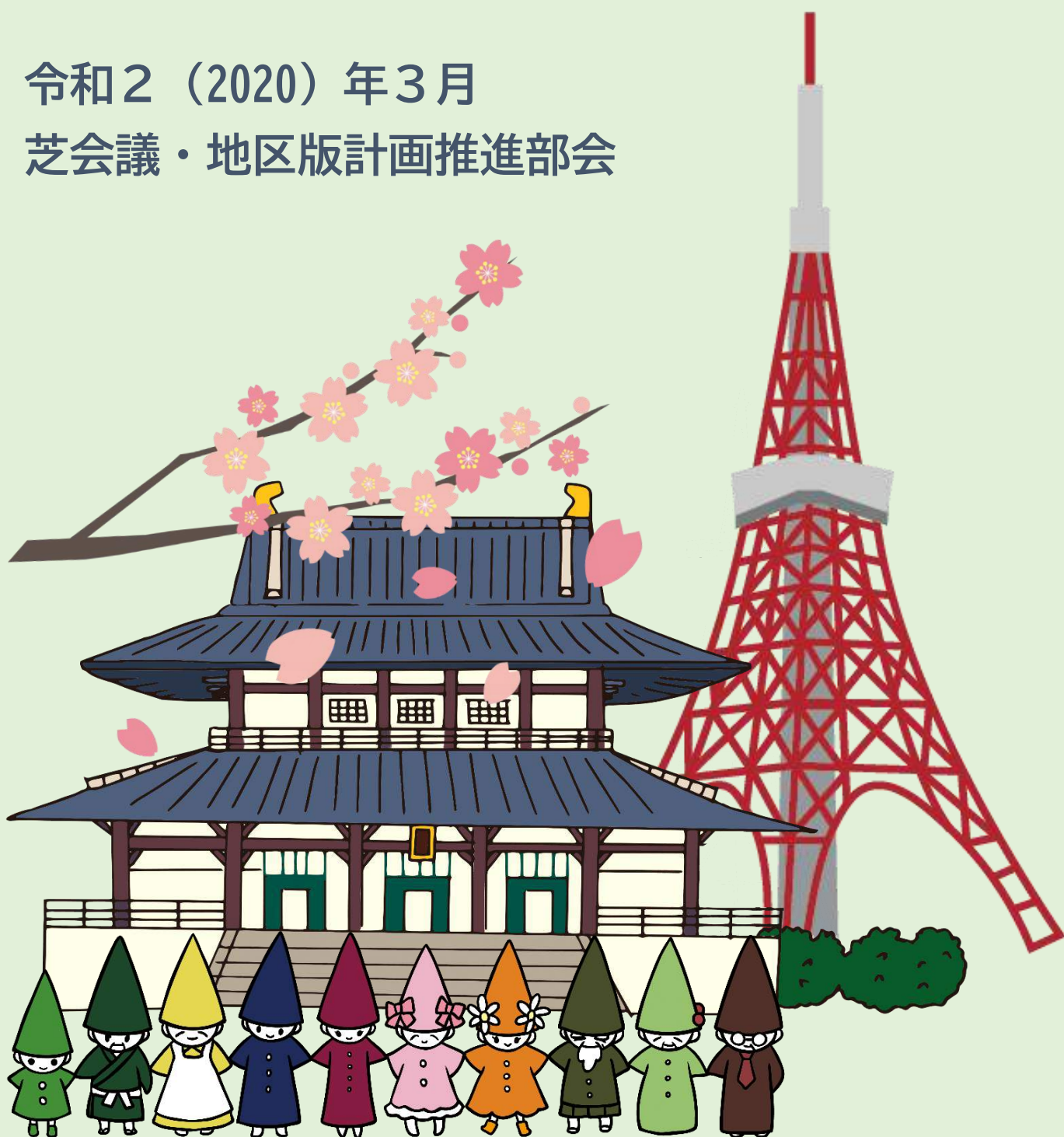


港区基本計画・ 芝地区版計画書 策定に向けた提言書

令和2（2020）年3月

芝会議・地区版計画推進部会



目次

1. 提言書の概要	1
1 提言書について	2
2 提言一覧	3
1) 分野別施策	3
2) 地域事業	4
2. 部会からの提言	7
3. 提言書の作成過程	37
1 地区版計画推進部会の趣旨	38
2 地区版計画推進部会のメンバー	38
3 地区版計画推進部会の開催経過	39
4 メンバーからのコメント	40
4. 参考資料	43
1 地区版計画に関する区民意識調査結果	44
2 検討会記録	56

提言書の概要

1 提言書について

港区芝地区総合支所では、6年ごとに、芝地区の独自の行政計画である「港区基本計画・芝地区版計画書（以下、芝地区版計画書という）」を策定しています。

芝地区版計画書は芝地区総合支所が目指す芝地区の将来像“互いに支え合うぬくもりと安心に包まれたまち「芝」”の実現に向けた方向性と具体的な取組を示しています。

令和3年度から8年度を計画期間とする新たな芝地区版計画書の策定に向けて、現行の芝地区版計画書を見直し、区民の意見を取りまとめたものがこの提言書です。



無作為抽出による公募に応諾された方及び芝地区総合支所が設置する区民参画組織「芝会議」の3部会から推薦された方で構成された区民参画組織「芝会議・地区版計画推進部会」が、平成31年4月からの約10か月間議論を重ねてきました。芝地区版計画書に計上された10の施策及び芝地区総合支所で独自に取り組む事業（以下、「地域事業」という）について、丁寧に評価・検証を行い、区民の目線で様々な意見やアイデアを出し合い、まとめたものが提言内容となっています。

< 「提言書(本書)」と「芝地区版計画書」の関係 >

【令和元年度作成】

提言書	
次期芝地区版計画書の策定に向けた区民意見をまとめたものです。芝地区総合支所の施策と地域事業を中心に検討しました。	
No.	地域事業名
1	芝地区事業者向け防災セミナー
2	地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト
3	もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議
4	ご近所イノベーション学校～芝に幸せをよぶ人づくり～
5	地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト
6	芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～
7	アロマからはじまる～高齢者セーフティネットワーク
8	高齢者の買い物支援
9	芝 BeeBee's プロジェクト
10	芝・ネイチャー大学校

【令和2年度作成】

芝地区版計画書		
芝地区総合支所が目指す芝地区の将来像“互いに支え合うぬくもりと安心に包まれたまち「芝」”の実現に向けた施策の方向性と具体的な取組を示した計画書です。計画期間は6か年で、中間年に当たる3年目に見直しを行います。		
年度	計画期間	計画関連作業
H27 (1年目)	前期 	—
H28 (2年目)		提言書作成
H29 (3年目)		後期計画書作成
H30 (4年目)	後期 	—
H31/R1 (5年目)		提言書作成
R2 (6年目)		次期計画書作成

2 提言一覧

1) 分野別施策

I かがやくまちへの提言

P8

- 提言： 1. 安全・安心な歩行空間の確保
2. 災害別（震災・風水害・二次災害等）の対応策の検討と自助のための防災に関する情報提供の強化
3. 区民ニーズに合わせた公園の利用方法の検討と周知
4. プラスチックごみを含めたごみ全体の減量への意識を高めるとともに、まちの緑化と美化を推進

II にぎわうまちへの提言

P10

- 提言： 1. 既存コミュニティの改革や新しいコミュニティの形成支援を推進
2. 地区内や他地区との多様な交流の推進
3. 愛着の持てるまちづくりと地域資源の発信力の強化

III はぐくむまちへの提言

P12

- 提言： 1. 全ての子どもたちがのびのびと健やかに育つ環境づくりの推進
2. 若い人から高齢者まで健康でいきいきと暮らせる環境づくりの推進
3. 誰もが気軽に学び楽しめる環境づくりの推進

2) 地域事業

1 「芝地区事業者向け防災セミナー」への提言 P16

- 提言：1. 受講希望者が全員受講できるような対応策の検討
2. BCP 未策定事業者の策定意欲を喚起する仕掛けづくりの検討
3. 「事業者の責務」であることが伝わるようなプログラムの検討

2 「地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト」への提言 P18

- 提言：1. 具体的な目標の設定
2. 事業対象者の拡大の検討
3. 対象者が参加したくなる環境づくり

3 「もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議」への提言 P20

- 提言：1. 様々な世代が興味を持ち、参加しやすいテーマ設定の検討
2. 活動が多くの人目に留まるような工夫

4 「ご近所イノベーション学校～芝に幸せをよぶ人づくり～」への提言 P22

- 提言：1. 地区内参加者の増強
2. 活動内容の可視化による地域への PR
3. 芝地区内で活躍するご近所イノベータ（修了生）への支援

5 「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」への提言 P24

- 提言：1. 今の時代にあったコミュニティづくりを行える実験の場であるべき
2. 地域の人が施設に気軽に来訪できる環境づくりをすべき

6 「芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～」への提言

P26

- 提言：1. 芝地区の市民文化としてアートを定着させる
2. 多くの人々が関われるような取組の検討
3. 作品が多くの人々の目に触れるような情報提供の推進

7 「アロマからはじまる～高齢者セーフティネットワーク」への提言

P28

- 提言：1. アロマのボランティア養成講座における対象者の拡大
2. アロマのボランティア養成講座における取組内容の検討
3. 事業者に向けたセーフティネット構築のための取組の強化

8 「高齢者の買い物支援」への提言

P30

- 提言：1. 買い物環境の改善により、現在の方法による事業の必要性の再検討
2. 既存の民間サービスを利用できない層への新しい支援方法の検討
3. 高齢者の買い物支援以外での物産展の継続

9 「芝 BeeBee's プロジェクト」への提言

P32

- 提言：1. 多世代交流以外の多様な可能性の検討
2. 学校と連携し、特に子どもの参加者の増加の推進

10 「芝・ネイチャー大学校」への提言

P34

- 提言：1. 活動内容の拡充の検討
2. 身近な場所での自然学習の実施可能性の検討
3. 参加の機会の拡大

部会からの提言

分野 I かがやくまち

かがやくまち分野では道路・公園等の公共空間の安全性・快適性の確保及び防災・生活安全等、地域の安全・安心に関する取組、みなとタバコルール等の地域の環境美化やごみの削減等、環境保全に関する取組について検討しました。

かがやくまち分野への提言

1. 安全・安心な歩行空間の確保

道路の段差解消や不特定多数の人が集まる場などのバリアフリー化、置き看板対策、歩行者と自転車の通行空間の分離、通行不可の場所などの情報提供を進め、安全な歩行空間の確保が求められます。

また、ながらスマホ等、自転車や歩行者の通行マナーの改善に向け警察と協力するなど、啓発活動の強化が必要です。

2. 災害別（震災・風水害及びそれに伴う二次災害）の対応策の検討と自助のための防災に関する情報提供の強化

災害別に周辺企業や公園等不特定多数の人が集まる場所と連携した帰宅困難者（通勤・通学者、買物客、観光客）対策や、安否確認のための環境整備対応策の検討が求められます。

また、災害時に自分の命を守る行動をとるため、防災に関する情報（防災知識、セミナー、避難場所等）の提供が必要です。

3. 区民ニーズを踏まえた公園の利用方法の検討

公園の利用方法について、区民のニーズを把握し、区民ニーズに応じた公園の利用方法の検討が求められます。

4. プラスチックごみを含めたごみ全体の減量意識の向上とまちの緑化と美化の推進

新たな環境問題として注目されているプラスチックごみの減量に向けた取組の強化を進めるとともに、繁華街も含めごみの捨て方のルールを徹底するなど、マナー啓発の推進も必要です。

また、快適な公共空間をつくるために、みなとタバコルールを見直し、受動喫煙防止対策を強化することが求められます。

さらに、まち並みの景観向上のため、緑化の推進が必要です。

◇検討会での議論内容

テーマ	出された意見
防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・効果のある防犯対策が必要だ ・警備のパトロール強化が必要だ
放置自転車	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺に限らず道路上などにある放置自転車の対策が必要だ ・レンタル自転車が放置自転車とされない対策をすべきだ
交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者や自転車のながらスマホ等、通行マナーが悪い ・歩道上の歩行空間と自転車の通行空間を分離すべきだ ・通行不可の場所を随時確認できるように情報提供が必要だ
バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・不特定多数の人が集まる場のバリアフリー対応が必要だ ・道路の段差解消などのバリアフリー化が必要だ
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・災害別（震災・風水害等）に対応策をきちんと示すことが必要だ ・防災に関する情報提供は適切に行われるべきだ ・安否確認のための環境整備が必要だ
帰宅困難者対策	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅困難者数の把握など周辺企業と連携した帰宅困難者対策が必要だ ・不特定多数の人が集まる場所では、災害時の帰宅困難者の受け入れ可能人数を情報提供すべきだ
公共施設の利用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の運営には、区民との意見交換等によるニーズの把握が必要だ ・区民ニーズに合った公園の利用方法の検討が必要だ ・区有施設の場所や利用方法についての周知が必要だ
みなとタバコルール	<ul style="list-style-type: none"> ・みなとタバコルールと都基準について比較検討し、受動喫煙防止対策の強化が必要だ ・みなとタバコルールについて見直しが必要だ ・クリーンキャンペーンの目的を明確にすべきだ
緑化	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりの増加を全面に打ち出した政策を進めるべきだ ・「都市とみどりの共存」を将来の目標として示すべきだ
ごみ減量	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量意識の普及啓発を推進し、新たな環境問題となるプラスチックごみの減量意識を高めることが必要だ ・ごみの捨て方のルールの徹底や罰則化など事業系のごみ対策が必要だ

◇プラスチックごみとは？

プラスチックごみはポイ捨て等により、回収されずに河川等を通じて海に流れ込み海洋を汚染する「海洋プラスチックごみ」として問題になっています。

世界全体で日々大量に発生する「海洋プラスチックごみ」は長期にわたり海に残存し、このままでは2050年までに魚の重量を上回ることが予測される等、地球規模での環境汚染による生態系、生活環境、漁業、観光等への悪影響が懸念され、国連をはじめとする様々な国際会議において、重要かつ喫緊の課題として議論が行われています。持続可能な開発目標（SDGs）においても、目標14において、「あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する」とされています。

（出典：環境省「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」）
<https://www.env.go.jp/press/files/jp/111753.pdf>



分野 II にぎわうまち

にぎわうまち分野では、地域コミュニティの形成、人々の交流の場・機会の創出、地域の人材発掘・育成や芝地区の魅力発信等について検討しました。

にぎわうまち分野への提言

1. 既存コミュニティの改革や新しいコミュニティの形成支援を推進

ご近所付き合いの活性化や時代に合った地域コミュニティを形成するため、既存のコミュニティにおいて、新たな活動の誘発や町会・自治会への多様なツールを用いた情報発信の支援、参加しやすいイベントの企画などが必要です。

また、新しいコミュニティを形成しやすくするため、多様な主体が交流できる機会づくりなどの支援が求められます。

2. 地区内や他地区との多様な交流の推進

町会・自治会同士、事業者や大使館と町会・自治会、外国人と町会・自治会など、地域内の各種団体同士が地区全体で取り組めるコンテンツを通して交流していくことが求められます。

また、他自治体との連携・交流を深める全国連携の取組をさらに充実させることが必要です。地域内の交流を深め活気あふれるまちにすることや、外部から人を呼び込み経済効果を生み出すことなど、多様な交流を進めることが必要です。

3. 愛着の持てるまちづくりと地域資源の発信力の強化

より多くの人々が地域に愛着を持つためには、歴史、アートなどの地域資源を地域の魅力として発信していくことが必要です。

また、地域の魅力を伝えるイベントの企画や多様な媒体を用いた情報発信により、発信力を強化していくことが必要です。

◇検討会での議論内容

テーマ	出された意見
新しいコミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・住民・企業・様々な活動団体などがご近所付き合いによるイノベーションを誘発するような取組を実施すべきだ ・新しいコミュニティの形をつくっていく必要がある
既存のコミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・町会・自治会と既存のコミュニティをつなぐような新たなコミュニティの形成方法が必要だ ・地域住民が町会・自治会をはじめとした地域コミュニティにおける地域活動に参加しやすくする工夫が必要だ ・地域活動の参加者数が少ないのではないか ・地域活動の参加者の満足度が低いのではないか ・様々な手段を用いて町会・自治会への加入方法を周知した方が良い ・地域内でコミュニティの形成、交流することのメリットをわかりやすく示した方が良い
地域内交流	<ul style="list-style-type: none"> ・町会・自治会や地域コミュニティ同士の交流が必要だ ・芝地区内の事業者と地域住民が交流できる機会があると良い ・外国人も参加しやすいコミュニティづくりが必要
地域外交流	<ul style="list-style-type: none"> ・事業で連携をしている阿見町・いわき市との連携をさらに強化していくべきだ
歴史まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な手段を用いて、芝地区の魅力を発信した方が良い ・地域の歴史等の案内板の整備が必要だ ・芝地区は歴史ある地区であり、その歴史を活かしたまちづくりを行うことが必要だ
アート	<ul style="list-style-type: none"> ・芝地区でアートを根付かせるために、アートに関するイベントをもっと増やすことが必要だ

分野Ⅲ はぐくむまち

はぐくむまち分野では、地域で子どもを見守り、育てる環境づくり、高齢者がいきいきと安全・安心に過ごすための取組等について検討しました。

はぐくむまち分野への提言

1. 全ての子どもたちがのびのびと健やかに育つ環境づくりの推進

一人ひとりの子どもの状況にかかわらず、全ての子どもたちがのびのびと健やかに成長できる環境づくりを進めていくことが必要です。

子どもの貧困対策をはじめ、子どもの食事難や孤食などの問題に対応するため、子ども食堂のような地域コミュニティを中心に、地域全体で子どもたちを育む取組が求められています。

2. 若い人から高齢者まで健康でいきいきと暮らせる環境づくりの推進

若い人から高齢者まで地域でいきいきと暮らせるように、いきがいとなる趣味の拡充や健康的な生活を送るためのアドバイスの提供、子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい施設の整備などが求められます。

また、家に引きこもりがちな高齢者や一人暮らしの高齢者、デイサービスを利用する高齢者など、多様な生活形態やニーズに合わせた高齢者施策を引き続き推進していくことが必要です。

3. 誰もが気軽に学び楽しめる環境づくりの推進

心のバリアフリーやLGBTへの対応について正しい理解を深めるなど、様々な状況・世代の人々が多様性を認め合い交流することができる機会を充実させ、誰もが気軽に学び楽しめる環境をつくる必要があります。

◇検討会での議論内容

テーマ	出された意見
子育て	・年少人口の増加に伴い、全ての子どもたちの成長を支えるための施策を継続していくべきだ
心身の健康	・高齢者が地域でいきいきと暮らすための支援が必要だ ・若い人から高齢者まで健康寿命を延ばすための取組が必要だ
区民ニーズの高齢者施策	・高齢者施策の継続は重要だ ・区民目線の高齢者施策とすることが必要だ ・多様な生活形態に合わせた高齢者施策が必要だ
地域に開かれた施設運営	・区有施設の利用基準の見直しが必要だ
世代間交流	・世代間交流をもっと広げる必要がある
生産年齢人口を対象とした施策	・生産年齢人口をターゲットとする施策が必要だ
心のバリアフリー	・心のバリアフリーについての対応が必要だ ・LGBT（性的少数者）への正しい対応・配慮が必要だ ・様々な障害を持つ人への対応も必要だ

◇「心のバリアフリー」とは？

「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです。そのためには、一人一人が具体的な行動を起こし継続することが必要です。各人がこの「心のバリアフリー」を体現するためのポイントは以下の3点とされています。

- ①障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること。
- ②障害のある人（及びその家族）への差別（不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供）を行わないよう徹底すること。
- ③自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと。

障害のある人やLGBT、高齢者、外国人等への社会的障壁を取り除いて「心のバリアフリー」を推進し、障害の有無にかかわらず、すべての人が助け合い、共に生きていく社会を実現させることが求められています。



（出典：「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画（2017年2月ユニバーサルデザイン 2020 関係閣僚会議決定）」
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/ud2020kkkaigi/pdf/2020_keikaku.pdf）

横断的な取組

■分野Ⅰ～Ⅲに共通すること

◇次計画で改善してほしい点

- ・芝地区の特性を踏まえた施策の検討
- ・行政と区民のわかりやすい役割分担の提示
- ・事業の効果測定の実施と費用対効果の面からの評価
- ・デジタル機器を使用しない（できない）方などを含めた情報格差への対応と多様なツールによる情報発信の推進

◇検討会での議論内容

テーマ	出された意見
【地区の特徴】	<ul style="list-style-type: none">・芝地区の特徴、他地区との違い、地区での一番の課題などを明確にすべきだ・通勤通学者と居住者の連携が必要だ
【行政と区民の役割】	<ul style="list-style-type: none">・区民参画型の事業は行政と区民の役割分担を明確にすべきだ
【事業の効果測定】	<ul style="list-style-type: none">・事業の評価・検証を定量的に行うべきだ
【情報提供】	<ul style="list-style-type: none">・デジタル機器を使用しない（できない）方などを含めた情報格差への対応が必要だ・SNSにより情報を発信すべきだ

■事業概要

芝地区は港区内で最も事業所数が多く、昼間人口も多い地区です。事業者を含め、地域が一体となった防災対策を推進するため、芝地区の事業者を対象にBCP（事業継続計画）の策定・見直し等を支援するセミナーを開催します。セミナーを通じて事業所内備蓄の推進や震災時における一斉帰宅の抑制等、地区内事業者の災害対応力を高め、地域全体での防災活動が有効に機能するまちをめざします。

全体計画目標 R2(2020)年度末	現状 H29(2017)年度見込	事業計画			
		H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	計
防災セミナーの 実施18回	2回/年	実施2回	実施2回	実施2回	実施 12回
事業費(千円)		4,000	4,000	4,000	12,000

■事業実績

◇実績（事業開始年度：H19年度）

	H28		H29		H30	
対象	BCP 未策定 事業者	BCP 策定済 事業者	BCP 未策定 事業者	BCP 策定済 事業者	BCP 未策定 事業者	BCP 策定済 事業者
定員	各回40名	20名	各回40名	20名	各回40名	20名
実施回数	3回	1回	3回	1回	3回	1回
参加者数	101名 (91社)	20名 (18社)	129名 (106社)	24名 (19社)	135名 (105社)	23名 (17社)

- ・地区内の各事業者がBCPの策定を通じて防災対策を推進することで、災害時の一斉帰宅の抑制等に向けた取組が進み、地域の災害対応力が向上しています。
- ・各回とも募集に対して応募者の方が多く（約2倍）、セミナーのニーズは高いです。
- ・セミナー後の追跡調査によると、受講した事業者の約5割がBCP策定に着手しており、セミナーを契機に実際の行動につながっています。

◇H30年度の様子



■事業に対する部会の評価

◇評価できる点

- ・毎年申し込みが多く、BCPを策定する事業者も増えているので需要がある。
- ・セミナー自体は有効であり、充実を図るべきである。

◇改善すべき点

- ・セミナーのレベルアップには、効果測定が必要である。
- ・事業見通しや事業対象者の明確化が必要である。
- ・セミナーを受講できなかった事業者への対応が必要である。
- ・受講を希望した事業者全てが受講できるようにするために区の体制を強化する必要がある。
- ・BCPを策定していない事業者の策定を促す仕掛けが必要である。

次計画への提言

1. 受講希望者が全員受講できるような対応策の検討

- ・事業実施体制の強化
需要の多いセミナーであるため、実施回数を増やす等、参加を希望する全事業者に対応できる事業実施体制の拡充を図る必要がある。
- ・動画・ネット配信等の検討
受講できなかった（できない）事業者のため、セミナーの内容を収録したDVDを配布したり、オンラインで動画を配信すべきである。
- ・効果測定の実施
セミナーのレベルアップのため、アンケートやヒアリング等による効果測定が必要である。
- ・事業目標の設定
測定した効果に基づき、BCPの策定あるいはブラッシュアップのどちらかに重点をおくべきである。また、策定率〇%といった具体的な目標を設定することが必要である。

2. BCP未策定事業者の策定意欲を喚起する仕掛けづくりの検討

- ・策定事例集の紹介等の検討
未策定事業者に対して参考となるような具体的なBCP（港区のBCPや災害のあった地域の事例等）の内容を例示することが必要である。
- ・BCP策定の必要性を認識する呼びかけの検討
未策定事業者に対してBCP策定の必要性を認識してもらうようなPRをすべきである。

3. 「事業者の責務」であることが伝わるようなプログラムの検討

企業トップを対象としたセミナーの企画や、区の提唱する「事業者の責務」（帰宅困難者対策、地域への貢献、施設設備の安全確保等）をプログラムに盛り込み、「事業者の責務」として取り組むべきであることを伝えることが必要である。

■BCPとは？

BCP（事業継続計画）とは、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

※BCPは事業継続計画(Business Continuity Plan)の頭文字を取った言葉です。

(出典：中小企業庁「中小企業BCP策定運用指針」)
(https://www.chusho.meti.go.jp/bcp/contents/bcpgl_09_p.html)



■事業概要

町会・自治会等の地域団体と事業者とが地域の防災に関する課題を把握し、情報を共有するため意見交換会を実施します。災害時に自助・共助による対応が求められるため、意見交換会を通して地域団体と事業者が連携し、地域全体での共助による防災まちづくりを推進します。

全体計画目標 R2(2020)年度末	現状 H29(2017)年度見込	事業計画			
		H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	計
地域団体と事業者との連絡会の実施	地域団体と事業者との意見交換会の実施	実施	実施	実施	実施
事業費(千円)		100	100	100	300

■事業実績

◇実績(事業開始年度:H27年度)

年度	H29年度	H30年度
実績	<意見交換会の実施>1回 芝新堀町会・事業者との意見交換会を実施。	避難所運営訓練等の防災活動に取り組む町会に対し、事業者との意見交換会の実施を提案。2町会に打診したが準備に時間を要したため、実施に至らなかった。
予算額	100(千円)	100(千円)

- ・意見交換会は区が実施する町会・自治会を募り、実施する町会・自治会が加入事業者に参加を呼びかけ調整の上、開催します。
- ・避難所運営訓練を実施する等、日ごろから防災活動に積極的に取り組んでいる町会・自治会を対象としています。
- ・参加した事業者からは、町会・自治会の活動を知り、関係を構築する良いきっかけになったという意見が寄せられています。

◇H29年度の様子



■事業に対する部会の評価

◇評価できる点

- ・防災をテーマに町会・自治会と事業所がつながりを深めることはとても良い。

◇改善すべき点

- ・事業の実績を増やす必要がある。
- ・意見交換会の目的がわかりにくい。
- ・重要な事業のため、区が主導で事業を推進すべきである。
- ・事業費が少なすぎるので、十分な取組ができていない。
- ・町会が参加したいと思える環境づくりが必要である。

次計画への提言

1. 具体的な目標の設定

意見交換会によって町会・自治会と事業者の共助関係の構築が期待される。関係を構築した先に、防災訓練の実施や避難所運営マニュアルの作成など具体的な目標を設定することが必要である。

2. 事業対象者の拡大の検討

- ・町会・自治会と事業者の協力関係の構築及び事業対象者の拡大

《町会・自治会と事業者》町会・自治会と事業者の関係構築の促進

災害時だけでなく、日常的に町会・自治会と事業者の協力関係を構築することが重要である。

《事業者と事業者》地域内の事業者同士の協働の促進

災害時に共助し合える関係構築のため、同じ町会・自治会に属する事業者同士を結び付けることが必要である。

《町会・自治会と就業者》町会・自治会と就業者（個人）の協働の促進

地域の防災底力を向上させるため、芝地区の昼間人口が多いことに目を向け、町会・自治会と就業者が協働すべきである。

- ・協働関係構築のルール、システムづくり

地域の町会・自治会・事業者・就業者（個人）が協働関係を構築していくための仕組みづくりを検討する必要がある。

3. 対象者が参加したくなる環境づくり

- ・取組対象へ参加を促すインセンティブの検討

対象となる参加者を増やすために、町会費への補助や事業者への区の施設利用の優遇等のインセンティブを検討すべきである。

- ・取組対象の町会・自治会の活性化の促進

災害時の共助を円滑にするため、町会・自治会自身の活性化が必要である。

■事業概要

芝地区戦略会議（芝会議）は地域の特性を生かした魅力ある地域社会を形成するため、芝地区の魅力や課題について考え、話し合い、行動する場として設置された区民参画組織です。芝会議では、それぞれのテーマに分かれ3つの部会が活動しています。各部会は毎月1回、定例部会（会議）を開催しているほか、独自企画の実施や地域のイベントへの出展等、精力的に活動しています。

全体計画目標 R2(2020)年度末	現状 H29(2017)年度見込	事業計画			
		H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	計
芝の語り部養成講座・語り部ツアーの実施・魅力発信ツールの作成	実施	実施	実施	実施	実施
環境啓発活動・まちづくり/防災出前講座の実施	実施	実施	実施	実施	実施
交流の場の推進	実施	実施	実施	実施	実施
部会連携事業の実施	-	実施	実施	実施	実施
事業費（千円）		2,400	2,400	2,400	7,200

■事業実績

◇実績（事業開始年度：H18年度）

◆まちの魅力発掘部会

- ・歴史的な名所や旧跡等といった芝地区の魅力を内外に発信するため、まち歩きツアーや勉強会（座学）を実施しています。まち歩きツアーの開催は計41回、延べ703人が参加し、座学の開催は計14回、延べ368人が参加しました。（H30年度実績）
- ・毎年「芝の語り部養成講座」を開催し、芝地区の魅力を発信する人材の育成にも努めています。

◆まちづくり部会

- ・防災と環境をテーマとした啓発・学習活動を行っています。地域のイベントに出展し、啓発を行うとともに、防災・環境に関するアンケートを実施し、広く意見を集めることで、身近な問題の解決方法を検討しています。

◆地域コミュニティ部会

- ・地元意識を高め、地域での生活を充実させる内容の活動を展開しています。芝地区に興味を持ち、愛着を持ってもらうために、芝地区について学ぶイベント「芝を楽しむ会」（「芝エビ」についての学習や芝地区の酒蔵訪問等）を企画しています。

◇H30年度の様子



■事業に対する部会の評価

◇評価できる点

- ・活動はとても良いと思う。ボランティアで50人も集まるというのは評価できる。
- ・企画したイベントの内容やターゲットが良く、地域に貢献している。
- ・何かの時に絶対に必要な貴重なボランティア組織である。

◇改善すべき点

- ・芝会議が取り組んでいる内容は、部会ごとの活動の違いがわかりづらい。また、地域事業として位置付ける必要があるのか疑問である。
- ・芝会議の各部会が実施する取組はターゲットに偏りがある。高齢者・子どもだけでなく多様な世代へのアプローチが必要である。
- ・閉鎖的なイメージを払拭すべきである。
- ・区民、区外の人、外国人などそれぞれの対象に届くような情報発信が必要である。
- ・歴史だけがまちの魅力ではなく、例えば子育てしやすい環境等もまちの魅力のひとつになる。このような様々な「まちの魅力」を把握すべきである。

次計画への提言

1. 様々な世代が興味を持ち、参加しやすいテーマ設定の検討

- ・ニーズに合わせたテーマ設定
多様な世代が関心を持ち、参加しやすくするため、現状のニーズに合わせて取組テーマを整理する必要がある。
- ・部会の見直し
芝会議の各部会の活動の違いがわかりにくい。また、現状の社会課題と取組内容にずれが出てきているため、部会の見直しを検討する必要がある。
- ・ターゲットの拡大
芝地区は労働人口が多いが、取組の対象が高齢者か子どもであることが多いため、多様な世代、特に若者世代へターゲットの拡大を検討すべきである。
- ・将来像の設定
現状や課題を解決するだけでは活動に限界があるため、将来像を設定し、地区の未来について考えるような活動をすべきである。

2. 活動が多くの人目に留まるような工夫

- ・インターネット等の活用による参加者募集の検討
若い人や活動に興味を持った人が参加しやすく、かつ応募しやすくするために、インターネット等を活用して、募集方法を改善することが必要である。
- ・活動内容を見える化し、参加者の増加を図る
閉鎖的なイメージを払拭し、多くの人参加しやすくなるよう、各部会の取組内容を区のホームページで公開したり、部会ごとにホームページやSNSを立ち上げ情報発信する等の工夫が必要である。

■事業概要

全 10 回からなる講義・ワークショップ、地域で実践するプロジェクトの企画や芝の家でのコミュニティ体験等を通じて「自分のやりたいことをまちにつなげる」技法を学ぶ「ご近所イノベータ養成講座」を開催し、地域で活躍する人材を育成しています。また、講座修了生が講座で学んだことを活かし、地域での活動を実践し、継続していくための支援も行っています。

全体計画目標 R2(2020)年度末	現状 H29(2017)年度見込	事業計画			
		H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	計
ご近所イノベータ養成講座実施 6 回	1 回/年	実施 1 回	実施 1 回	実施 1 回	実施 3 回
修了生フォロープログラム実施	—	実施	実施	実施	実施
事業費 (千円)		3,400	3,400	3,400	10,200

■事業実績

◇実績 (事業開始年度：H24 年度)

- ・毎年定員の 20 名を上回る応募があります。
(H30 年度は 42 名、R1 年度は 35 名応募)
受講者は書類審査と面接によって選考しています。
- ・芝地区外の参加者が多かったため、講座が終了すると関係が切れてしまうという課題がありました。
平成 29 年度より、継続性を高めるため、芝地区在住の方に多く参加してもらえるよう無作為抽出によるダイレクトメールの発送を実施しました (500 件)。
- ・平成 26 年には第 1 の地域交流拠点「芝の家」に続き、第 2 の地域交流拠点「ご近所ラボ新橋」が開設され、修了生の活動の場が広がりました。

◇H30 年度の様子



◇修了生の主な活動

【Sunny' s Café】

20～40 代で、身近な人の看病や介護のために誠心誠意頑張っている皆さんに、身体に優しい手作りのランチと、ひとりではないと実感できるような温かいくつろぎの場を用意しています。毎月第 3 金曜日に芝の家等で開催しています。

【ボードゲーム部】

世界のボードゲームを使って世代を超えた交流の場づくりを行います。
ご近所ラボ新橋にて第 1 火曜日の夜に「ボードゲーム部」、第一土曜日の午後に親子で楽しめる「キッズポップ」を開催しています。

【港区パパ友の会】

港区に地縁がない人も地元の人でも、飲み会などのゆるやかな集いからママや子どもも喜ぶイベントまで様々なことに取り組んでいます。港区パパ友の会は、港区パパとともに地域への一歩を踏み出します。

【みなと BOUSAI 女子会】

「防災を女性らしくしなやかに」をコンセプトに女性防災士ネットワーク・みなと BOUSAI 女子会を運営し、女性防災士が自信を持って地域活動に参加するためのステップをめざしています。地域活動意見交換会や防災座談会などを定期的に開催しています。

■事業に対する部会の評価

◇評価できる点

- ・ 講座の内容は面白く、10年近く継続しているので需要があると考えられる。
- ・ 地区の居住者の中でリーダーを育成するのは良いことだ。
- ・ イノベータの取り組む内容は先進的で良い。

◇改善すべき点

- ・ 参加募集のダイレクトメールを500人に送付して、反応した応募者が10人未満であったという結果は、住民の参加意識が低いことを示す一つのバロメータであり、参加意識を高めることの検討が必要だ。
- ・ 修了生のまちへの関わり方が見えず、修了生の活動が続いているのか疑問だ。また、事業の運営に係る地域の人には育っていないのではないか。
- ・ 講座の案内チラシからは講座の内容がわかりにくいので、SNSで詳細に案内したり、修了生の活動内容を見えるようにすべきだ。
- ・ 地域の課題に合った活動内容であるべきだ。
- ・ 地域の課題に対してイノベータに活躍してほしいが、そのイノベータが活動しやすくなるよう、ニーズに応じた支援が必要だ。

次計画への提言

1. 地区内参加者の増強

- ・ 地区内からの参加者を増やすことが必要

芝地区内住民の参加意向が低い状況にあるため、これまでの参加者の実態を調査し、どのような立場の人が講座に興味を持っているのか把握すべきである。

ホームページやSNSを活用して講座の案内や参加募集をするなど、講座や活動の内容をわかりやすく伝えることで地区内住民の参加意識を向上させ、参加者を増やすことが必要である。

また、昼間人口が圧倒的に多い芝地区では、在勤・在学者の参加者を増やすことも必要である。

2. 活動内容の可視化による地域へのPR

講座の修了生の活動が見えにくく、若い人や活動に興味を持ってもらうためには、WEBやSNS等を積極的に活用して修了生の活動内容を可視化する等、わかりやすい情報発信が必要である。

3. 芝地区内で活動するご近所イノベータ（修了生）への支援

芝地区内で活動する修了生に対し、地区内で活動できる機会を増やし、活動の輪を広げてもらうために、修了生のニーズに応じた支援をする必要がある。また、修了生同士のつながりができるよう支援が必要である。

■事業概要

人と人とのあたたかいつながりづくりを目的に、芝地区総合支所と慶應義塾大学が協働し、地域の誰もが気軽に立ち寄り、集い、交流することができる拠点「芝の家」と「ご近所ラボ新橋」を運営しています。交流の場を通じて、支え合いによる地域の見守りを促進し、子どもから高齢者まで安心して暮らすことができる地域づくりを進めます。

全体計画目標 R2(2020)年度末	現状 H29(2017)年度見込	事業計画			
		H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	計
芝の家の運営	実施	実施	実施	実施	実施
ご近所ラボ新橋の運営	実施	実施	実施	実施	実施
事業費(千円)		13,000	13,000	13,000	39,000

■事業実績

◇来場者数(事業開始年度:H20年度)

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30
芝の家	8,878	9,186	9,587	9,045	7,681
ご近所ラボ新橋	614	1,984	4,219	3,126	3,119

- ・子どもから高齢者まで世代も目的も問わず、誰もが気軽に立ち寄って利用できる施設で読書やゲーム、ワーキング作業等、自由な過ごし方ができます。
- ・常駐スタッフ(業務委託)と学生や地域の方で構成されるボランティアで運営されています。
- ・初めての人が利用しやすいように様々なイベントを開催しています。
- ・ご近所イノベータ養成講座の修了生が、学んだことを実践することができる場所として、修了生によるイベントも開催されています。

◇H30年度の様子



■事業に対する部会の評価

◇評価できる点

- ・短時間でも利用しやすく、ちょっとした作業もできて良い。
- ・事業が継続していることは評価できる。

◇改善すべき点

- ・他の事業に比べて予算が3~4倍あるので稼働状況等から効果の測定が必要である。
- ・「芝の家」と「ご近所ラボ新橋」の特長に合った使い方をすべきである。
- ・平日夜間と休日の稼働率向上や、貸切に対応するなど、利用しやすくすべきだ。
- ・芝の家は入口がわかりにくく、間口も狭いので、空間的な改善が必要である。
- ・何かきっかけがないと初めての人は入りづらいので、敷居を下げる工夫が必要である。

次計画への提言

1. 今の時代に合ったコミュニティづくりを行える実験の場であるべき

今の時代に合った新しいコミュニティ形成のあり方を模索していくために、その実験の場であることが望ましい。地域交流拠点の役割や必要性をわかりやすく示し、効果測定をして、今後の活用の方向性を検討する必要がある。

また、地域での居場所をつくり、安心して暮らせる地域づくりの推進とともに、交流の場を増やすことが求められる。

2. 地域の人々が施設に気軽に来訪できる環境づくりをすべき

・開室時間の延長

一月の3分の1（11日間程度）は休室日であり、開室日の開室時間も午前～夕方までと短いため、平日夜間と休日に地域の人々が利用しやすい環境をつくる必要がある。

・施設の多様な利用方法の検討

利用者を含めて施設の使い方を話し合うなど、居住者や地域コミュニティ団体が利用しやすい多様な利用方法を検討すべきである。

・入りやすい入口や間口の整備

芝の家、ご近所ラボ新橋ともに入り口がわかりにくいので、誰もが入りやすくなるような工夫が必要である。

・活動内容を見える化し、参加しやすい工夫の検討

新規利用者には、既存の利用者の属性や活動内容が見えず敷居が高い印象があるため、参加しやすいイベントの企画や活動のPRをするなど敷居を下げる工夫が必要である。

■事業の様子

◇芝の家



◇ご近所ラボ新橋



■事業概要

アートに親しむ文化があることはまち全体の豊かさにつながります。また、アート作品を展示することでまちの雰囲気明るくなり、治安も良くなります。そのようなアートとふれあえる環境を創出するため、子どもや障がい者とアート作品をつくり、まちの中に展示します。

区民等参加によるワークショップを開催し、アートを通じて多様な主体との連携により芝地区の新たな魅力を発信する取組を実施しています。

全体計画目標 R2(2020)年度末	現状 H29(2017)年度見込	事業計画			
		H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	計
アートの展示・ 発表の場 実施9か所	アートの展示・ 発表の場 実施3か所	実施2か所	実施2か所	実施2か所	実施 6か所
事業費(千円)		3,000	3,000	3,000	9,000

■事業実績

◇実績(事業開始年度：H27年度)

- ・芝地区管内の公共空間や区有施設を活用し、にぎわいやイメージアップにつながるようなアート作品の展示・発表の場を創出しています。
- ・H30年度には、トランスボックスへのアート作品の展示と並行しながら、アートをテーマに人と人とが交流する場を形成し、地域へのコミュニティ意識を高めることを目的として、区民等が参加するワークショップを実施しました。

◇H30年度の様子



■事業に対する部会の評価

◇評価できる点

- ・作品の展示により、落書きが防げるという効果が出ているので意味のある事業だ。
- ・まちにアートがあるのは良いし、アートに親しむ事業は豊かな文化の証明であり、自治体にゆとりがあると感じられる。
- ・ワークショップを通じて人と人とのつながりがあること自体良いことだ。

◇改善すべき点

- ・事業の重点的な目的が不透明なため、目的を整理し、一過性の事業とならないように事業目標を明確にすべきだ。
- ・アートの定義を広げて、より多くの人に関わることが出来る事業にすべきだ。
- ・問題のある場所だけでは展示場所が限られてしまうので、展示場所をパブリックスペースに拡大するべきだ。
- ・制作者の紹介や制作の背景について説明があると、見る人の理解が深まるはずだ。

次計画への提言

1. 芝地区の市民文化としてアートを定着させる

・アート文化の定着化

アートに親しむ事業があることはまち全体の豊かさにつながる。事業のきっかけである落書き対策にも取り組みつつ幅を広げて、アートが市民文化として根付くような長期的な事業展開を検討すべきである。

・テーマ性を持った事業展開

アートによるまちづくりを推進していく上でのテーマを設定するとともに、通りやエリアごとに統一感を持った作品展示を行うなどの配慮が必要である。

2. 多くの人々が関わることができる取組の検討

・多くの人々が関わることができるターゲットの設定

企業等の参加を誘発したり、作者を子ども・障がい者に限定せず幅広く募ったりするなど、アートの定義を広げ、多くの人々が関わることができるようにターゲットの拡大を検討すべきである。

・多様な人々の参加の検討、活動への支援

子ども、障がい者、プロのアーティストに限らず、企業、その他いろいろな人がアートに取り組める環境づくりが必要である。

・展示場所の拡大

現在は展示場所が少ないので、パブリックスペースなど展示場所を拡大すべきである。

3. 作品が多くの人々の目に触れるような情報提供の推進

・作品に関する情報提供の充実

作品の展示場所等の情報提供や事業のPR強化により、作品が多くの人々の目に触れるようにするべきである。また、作者紹介等の情報もあると作品に対する理解が深まるのではないか。

■事業の様子

◇東京タワー通り永井坂付近（H30年度作品） ◇芝大門交差点付近（R1年度作品）



■事業概要

高齢者とその家族が、住み慣れた芝地区で自分らしくいきいきと暮らせるよう、介護予防やいきがづくりの推進につながる『アロマセラピーハンドマッサージボランティア養成講座』を開催しています。また、日頃から高齢者と接する機会の多い介護支援専門員や民間事業者との連携による講座の実施により、認知症への理解を深める等、地域で高齢者を見守る体制づくりを行っています。

全体計画目標 R2(2020)年度末	現状 H29(2017)年度見込	事業計画			
		H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	計
アロマセラピー講座の実施 3 回	-	実施 1 回	実施 1 回	実施 1 回	講座の実施 3 回
フォローアップ講座の実施 12 回	-	実施 4 回	実施 4 回	実施 4 回	講座の実施 12 回
介護技術講座 高齢者見守り講座の実施 11 回	-	実施 2 回	実施 4 回	実施 5 回	講座の実施 11 回
事業費 (千円)		1,500	2,000	2,500	6,000

■事業実績

◇H30 年度実績 (事業開始年度 : H22 年度)

講座名	実施回数	受講者数 (人)
①アロマセラピーハンドマッサージボランティア養成講座	実施 3 回	第 1 回 : 15 名 第 2 回 : 12 名 第 3 回 : 12 名
②アロマセラピーハンドマッサージフォローアップ講座	実施 4 回	延 89 名
③介護支援専門員及び介護職員のための介護アロマ技術講座	実施 2 回	第 1 回 : 14 名 第 2 回 : 5 名
④地域高齢者見守り講座 (事業者向け)	実施 2 回	郵便局 : 21 名 警備会社 : 29 名

- ・ ボランティア養成講座は、受講者の約 9 割が女性で、高齢者の交流を促進し、いきがづくりや認知症への理解を深める機会になっています。
- ・ 講座修了生のうち、ボランティアの登録者数は 40 名で、4 グループに分かれ、4 高齢者施設でボランティア活動を継続しています。
- ・ フォローアップ講座を通じてハンドマッサージの技術向上、ボランティアとして活動するためのスキル向上や参加者同士の交流を行う機会が確保されています。
- ・ 介護支援専門員を対象とした講座では、アロマセラピーを医学的見地から解説するなど、より専門的な講座内容となっています。
- ・ 地域高齢者見守り講座では、高齢者と関わりが多い事業者を対象に講座を実施し、認知症への理解を深めるなど、より多くの人々が地域の中で見守りに関わる仕組みづくりを推進しています。

◇H30 年度の様子



■事業に対する部会の評価

◇評価できる点

- ・ハンドマッサージ講座は良い雰囲気で行われており、高齢者向けの事業として参加者の評判も良いので、継続すべきである。また、受講者が増えれば地域の人とのつながりができる点も良い。
- ・ハンドマッサージは、家族や他人と直接触れ合うことができるという点で、ボランティア活動の取り掛かりとして最適である。

◇改善すべき点

- ・受講後に個人で継続するには費用が高いため、参加者は減少傾向にあるのではないかと。
- ・男性が参加しやすい講座内容とすることが必要である。
- ・受講者が受講後にどのような活動をしているかを調査する必要がある。
- ・地域の高齢者数に対し、事業者の受講者数が少ないので、受講者を増やし高齢者のセーフティネットを構築するため、他の高齢者向け事業と合わせて総合的に実施する必要がある。

次計画への提言

1. アロマボランティア養成講座における対象者の拡大

- ・受講対象者の拡大
ハンドマッサージ講座に興味を持った幅広い世代の人が参加できるように、受講対象となる範囲を拡大すべきである。
- ・男性参加者を増やす工夫
受講者の約9割が女性という実態があるため、男性が興味を持ちやすい内容を取り入れるなど、参加しやすくなるような工夫が必要である。

2. アロマボランティア養成講座における取組内容の検討

- ・受講後のフォローアップが必要
受講後の活動人数を増やすため、受講者の追跡調査を行い、活動状況を把握するとともに、受講後のフォローアップなど、区からの支援が必要である。
- ・多様な取組内容の検討
受講対象者ごとに講座の内容を変えるなど、アロマハンドマッサージに限らず多様な取組を取り入れるべきである。

3. 事業者に向けたセーフティネット構築のための取組の強化

- ・見守り講座の対象者の拡大
高齢者数は年々増加しているため、日頃から高齢者と関わることの多い事業者を中心に、見守り講座の対象者の拡大が必要である。
- ・セーフティネットの拡大
セーフティネットの構築に着目した事業内容のため、まだ見守りを実施していない企業や様々な専門職の方々と協力し、高齢者のセーフティネットを総合的に検討し、拡大すべきである。

■事業概要

近所に買い物できるお店が少ない、購入品を運ぶことが難しいなど、買い物に困っている地域のひとり暮らし高齢者等に対して、気軽に利用できる買い物支援サービスを実施しています。また、登録者には、予約注文品の受け渡しや購入品を自宅まで運ぶ同行運搬も行っています。

全体計画目標 R2(2020)年度末	現状 H29(2017)年度 見込	事業計画			
		H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	計
買い物支援の 実施2か所	実施2か所	実施2か所	実施2か所	実施2か所	実施2か所 (虎ノ門・神明)
物産展の 実施12回	実施2回/年	実施2回	実施2回	実施2回	実施6回
事業費(千円)		2,800	2,800	2,800	8,400

■事業実績

◇実績(事業開始年度:H24年度)

買い物 支援	虎ノ門いきいきプラザ				神明いきいきプラザ				登録者数
	実施 回数	予約 販売	当日販売	代行 運搬	実施 回数	予約 販売	当日販売	代行 運搬	
H28	48回	15件	1,185件	15件	48回	1件	1,166件	0件	94人
H29	48回	14件	1,284件	14件	48回	0件	1,351件	0件	93人
H30	47回	7件	1,299件	7件	47回	0件	1,116件	0件	93人

物産展	実施回数	実施場所
H28	実施2回(7月/12月)	神明いきいきプラザ
H29	実施2回(7月/12月)	神明いきいきプラザ
H30	実施2回(6月/12月)	神明いきいきプラザ

- ・毎週水曜日に虎ノ門いきいきプラザと神明いきいきプラザに商品を搬入し販売を行っています。
- ・商品の事前予約や、購入品の同行運搬を依頼する場合(要登録)、利用料として1回につき50円ずつかかります。
- ・当日販売の主な購入者は、高齢者を対象とした施設であるいきいきプラザの利用者で、購入目当ての来所者は少ない状況です。
- ・商品の予約と同行運搬を利用している人は1名で、不定期で利用しています。
- ・物産展は本事業から独立し、年2回神明いきいきプラザの事業として実施しています。

◇H30年度の様子



■事業に対する部会の評価

◇評価できる点

- ・買い物支援という考え方自体は良いことだ。
- ・物産展の企画は面白いので続けてほしい。

◇改善すべき点

- ・実際に買い物に困っている人がどの程度いるのか不透明であり、対象エリアの買い物環境が改善されている中で、現在の買い物を支援する方法は需要がないのではないか。
- ・来店できる高齢者ではなく、来店できない高齢者を対象とした支援にするべきだ。
- ・民間の買い物支援サービスを利用できるように支援するなど、現在の取組内容とは別の方法を検討した方が良い。

次計画への提言

1. 現在の方法による事業の必要性の再検討

対象地域周辺は開発が進み、日用品を扱う店舗も増加傾向にあり、買い物環境は好転している。また、家事援助サービスなど類似のサービスもあり、この事業の需要が低下しているため、事業の必要性について再検討すべきである。

2. 既存の民間サービスを利用できない層への新しい支援方法の検討

実際に外に出て買い物に行けない人、インターネットなどを使えない人への支援が今後必要となるため、現在のやり方以外の新たな支援方法を検討する必要がある。

3. 高齢者の買い物支援以外での物産展の継続

物産展は買い物支援を必要とする人以外の利用も多い。買い物支援の枠組みではなく、分離独立したイベントとして実施を継続することが望ましい。

■事業概要

芝地区内で区民との協働による養蜂事業を実施しています。

ミツバチの飼育を通して、自然に触れ、自然について考える機会を創出するとともに、地域の人と人とのつながりや世代間交流を促進します。

また、事業の副産物として採取されるはちみつを活用して多様な主体と連携し、芝地区の魅力をもっとPRしていきます。

全体計画目標 R2(2020)年度末	現状 H29(2017)年度 見込	事業計画			
		H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	計
芝地区内での 養蜂事業の実施	実施	実施	実施	実施	実施
事業費(千円)		3,190	3,190	3,190	9,570

■事業実績

◇実績(事業開始年度：H27年度)

- ・区民参画の養蜂チーム「芝 BeeBee' s」を結成し、毎週木曜日の午後と日曜日の午前中に、専門家による業務支援を受けながら、2群のミツバチを飼育しています。
- ・芝 BeeBee' s のメンバーは現在約 80 名。小学生から高齢者まで幅広い世代の区民や、区外や地区内の事業者が参加しています。
- ・事業の副産物として、年間約 70 kg のはちみつを採取し、地域のイベント等に提供するなど、地域交流のツールとして活用しています。

◇H30 年度の様子



■事業に対する部会の評価

◇評価できる点

- ・事業の趣旨に合った成果が出ており、多世代交流や環境学習として意味のある事業で評価できる。
- ・個々の能力や技量等に合った作業ができ、多くの人が関わることのできる事業である。
- ・芝地区は公園も緑も多い地区なので、地域交流を通じて、芝地区を代表する事業として展開すべきである。

◇改善すべき点

- ・子どもの参加人数が多い方が良いので、チラシを小学校に配布するなど、小学生の参加者が増えるように、募集方法を工夫すべきである。
- ・ミツバチの世話だけでなく、自然について考える学習機会や、環境問題等が学べるような内容に取組内容を拡充すべきである。
- ・はちみつの収穫量を増やし、規模を拡大するとともに、はちみつの商品化を進め、活動の幅を広げるべきである。

次計画への提言

1. 多世代交流以外の多様な可能性の検討

- ・既存目標の多世代交流に加えて、自然や環境の学習を加える
事業の趣旨や目的に適った実績が出ており、多世代交流にとどまらずさらなる事業の展開が求められる。ミツバチの飼育による自然体験学習だけでなく、自然や環境（特に芝地区）について考えることを目標に加えるべきである。
- ・ミツバチの育成から緑化活動まで活動内容を拡大
ミツバチ育成だけではなく、ミツバチの習性などを学び、ミツバチに必要な草木や花を増やしていくことで、芝地区の緑化活動につなげていくべきである。
- ・はちみつの商品化
事業の副産物であるはちみつを地域イベント等で提供するだけでなく、参加者の募集に用いたり、はちみつの収穫量を増やし、芝地区内の事業者と提携して商品化すべきである。他自治体の類似プロジェクトと比べて良い点を取り入れるべきである。

2. 学校と連携し、特に子どもの参加者の増加を図る

子どもたちが生き物を育むことや、自然との関わりを学ぶのに良い事業であるため、学校と連携し、子ども（特に小学生）の参加者を増やすことが必要である。また、より多くの人に参加してもらい、目的の世代間交流を促進するため、活動を広くPRし多くの人に活動を知ってもらうべきである。

■事業の様子

◇内検作業の様子



◇MINATO シティーフマラソン 2019 出展の様子



■事業概要

芝地区の子どもたちに自然への理解を深めてもらうため、農業や漁業などを通して自然体験学習を実施しています。

港区では経験できない豊かな自然環境のもと、様々な体験を通して、自然や環境への理解及び地域交流を深めています。

全体計画目標 R2(2020)年度末	現状 H29(2017)年度 見込	事業計画			
		H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	計
阿見町での 自然体験実施	農作業体験の 実施4回/年	実施4回	実施4回	実施4回	実施15回
事業費(千円)		3,600	3,600	3,600	10,800

■事業実績

◇実績(事業開始年度：H27年度)

- ・農作業体験は茨城県稲敷郡阿見町、漁業体験(令和元年度より開始)は福島県いわき市で実施しています。
- ・対象は芝地区在住・在学の小・中学生とその保護者で、定員は20組40名程度です。5回の活動は全て日帰りで行います。
- ・募集は前年度の3月に広報、ホームページ、芝地区内の区立小学校等へのチラシ配布により行い、抽選で参加者を決定します。(応募倍率約2倍)
- ・参加費は1組6000円です。(5回分の活動費や交通費)
- ・受け入れを担当する農家等への連絡や学習プログラムのコーディネートは現地の事業者等に委託しています。

◇R1年度の様子(写真)



■事業に対する部会の評価

◇評価できる点

- ・農業体験や漁業体験等を通して自然に触れ合う貴重な体験ができるので、子どもには良いことだと思う。

◇改善すべき点

- ・一人あたりの費用が他事業と比較して高額なので、募集条件を変更したり、予算を増やして定員を増枠するなど、多くの人に参加できるようにすべきである。
- ・港区内で自然に触れるプログラムを検討し、身近な場所で自然学習が行えると良い。
- ・阿見町で宿泊を伴う体験の企画や、阿見町の子どもを芝地区に招待するなど、相互交流を推進すべきである。
- ・漁業体験でいわき市まで行くのは遠いのではないかと。東京湾で実施してはどうか。

次計画への提言

1. 活動内容の拡充の検討

- ・宿泊体験による農業・漁業への理解の深化

農業や漁業についての理解を一層深めるため、農家や漁師のお宅で宿泊を伴う体験を検討すべきである。

- ・他自治体との連携による相互交流の推進

農業体験や漁業体験で連携している自治体の子どもたちを港区に招き、お互いのまちを紹介し合うなど、相互交流を進めるべきである。

- ・林業体験の追加を検討

港区で経験できない豊かな自然環境での体験として、林業体験の追加を検討すべきである。

種まきから収穫までのワンセット（全5回）になっている現在の農業体験中心のプログラムでは、漁業、林業を含めた全ての体験を行うことは難しいので、漁業、林業は単発プログラムで実施するなどし、体験できる業態を広げるべきである。

2. 身近な場所での自然学習の実施可能性の検討

港区内でも自然に触れることのできる場所はあるため、公園や東京湾といった身近な場所で自然学習を行うプログラムを検討すべきである。

3. 参加の機会の拡大

参加要件の再検討、募集案内先の拡大、募集時期の配慮など、多様な立場の人が事業に参加できるよう検討すべきである。

また、毎年抽選となっていることから、定員の増枠も検討すべきである。

■事業の様子

◇阿見町で調理の様子(R1 年度第2回)



◇いわき市で漁業体験の様子(R1 年度第3回)



提言書の作成過程

1 地区版計画推進部会の趣旨

芝会議「地区版計画推進部会」（以下、「部会」という。）は、令和3（2021）年度に策定する「港区基本計画・芝地区版計画書」に区民の意見を反映することを目的に設置された区民参画組織です。

部会のメンバーは、無作為抽出による公募に応諾された方及び芝地区総合支所が設置する区民参画組織「芝会議」の3部会から推薦された方で構成されています。

平成31年4月から活動を開始し、部会のメンバーが意見を出し合い、検討結果を「提言書」として取りまとめ、区長に提出します。

2 地区版計画推進部会のメンバー

1	阿部 節彌
2	安藤 靖代
3	伊藤 杏里
4	岡田 格朗
5	勝原 健市
6	加藤 美枝子
7	川上 利春
8	小石 未菜
9	小林 道生
10	佐野 靖夫
11	田中 裕二郎
12	丹上 雄紀
13	程 萌
14	中原 晃治
15	中村 隆太
16	信國 太郎
17	藤野 孝一
18	増岡 忠洋
19	増田 由明
20	宮本 廣樹
21	森田 友子
22	山下 広平
23	山田 芳行
24	米原 剛

（五十音順・敬称略）



3 地区版計画推進部会の開催経過

	開催日	検討内容
第1回	平成31年 4月17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・芝地区版計画書の概要 ・年間スケジュール ・自己紹介
第2回	令和元年 5月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・部会で検討する内容・進め方の説明 ・芝地区版計画書の体系と芝地区の現況と課題
第3回	令和元年 6月25日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.1 「芝地区事業者向け防災セミナー」 -No.2 「地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト」 -No.3 「もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議」
第4回	令和元年 7月23日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.4 「ご近所イノベーション学校～芝に幸せをよぶ人づくり～」 -No.5 「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」 -No.6 「芝 de Meet The Art～アートに親しむまち、芝～」
第5回	令和元年 8月26日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.7 「アロマからはじまる～高齢者セーフティネットワーク」 -No.8 「高齢者の買い物支援」 -No.9 「芝 BeeBee's プロジェクト」 -No.10 「芝・ネイチャー大学校」
第6回	令和元年 9月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・芝地区版計画の体系（3分野）について提言の検討 「Ⅰかがやくまち」「Ⅱにぎわうまち」「Ⅲはぐくむまち」
第7回	令和元年 10月29日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域事業の提言書案の検討 -No.1 「芝地区事業者向け防災セミナー」 -No.2 「地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト」 -No.3 「もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議」
第8回	令和元年 11月26日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域事業の提言書案の検討 -No.4 「ご近所イノベーション学校～芝に幸せをよぶ人づくり～」 -No.5 「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」 -No.6 「芝 de Meet The Art～アートに親しむまち、芝～」
第9回	令和元年 12月17日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域事業の提言書案の検討 -No.7 「アロマからはじまる～高齢者セーフティネットワーク」 -No.8 「高齢者の買い物支援」 -No.9 「芝 BeeBee's プロジェクト」 -No.10 「芝・ネイチャー大学校」
第10回	令和2年 1月21日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書案の確認
第11回	令和2年 2月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書の確定
提言式	令和2年 3月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・区民参画組織提言式 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

4 メンバーからのコメント

今回の提言書の最終原案を何度か読みかえしてみました。
そして最大の感想は、本書はこれまでに多く重ねてきた
提案書の集大成版であると受け止めることができました。
それは、芝地区を更に良くして行きたいと願う意欲と目線に
満ちた文章によく盛り込まれています。
この地区を愛する人々の気持が、早く、地区全体に伝わり更に発展
する芝地区、そして、港区を見たいと感じます。
今回都合で余り多く出席できなかった私でしたが、ここまで
熱心に纏めた部会全員のご尽力に感謝致します。

岡田 格朗

前回地区版に参加させていただき、自分で作ったものを再評価させていただきました。
時代の流れの速さはものすごく、前回良かったことは陳腐化し、新たな問題がた
くさん現れてきました。SDGsやプラスチックごみの問題は今手を打たなければな
らないことと思いますし、従来とは違った差別、コロナウイルス問題や男女差別な
ど、気が付かないところで人と人を分けて考えてしまいます。東京オリンピックを控
える港区だからこそ、想いが膨れるのやもしれません。好き放題を言ってしまったか
もしれませんが、より良いものを作る一助になればと考えております。

佐野 靖夫

芝地区をよりよいものにするための様々な意見提案にふれることができました。

丹上 雄紀

芝地域特有の課題や本質的な問題点を目に見える形でディスカッションすることが体
験でき、有意義な時間となりました。今後、具体的な実行施策を通じて、社会参加し
ていきたいと考えています。

中原 晃治

何回か欠席してしまい、話についていけない場面もあったが、自分の話をもとに皆さんで話し合い、地元を良くしていくことには非常にやりがいを感じました。楽しかったです。

中村 隆太

約1年間ありがとうございました。実際に参加して、初めてこのような地区の取組の存在をすることができました。勉強になりました。

増岡 忠洋

年代・人生経験・生活環境の差を越えての多くの議論は楽しかった。我々の区民目線の提言が今後の区の行政に反映されることを願っています。

増田 由明

やはり短時間で（事前に資料の照会があっても）の議論は十分な意見提起できない。議論は思い切って権限委譲し、グループ別に分割して、最後のトータル部分での自由意見で調整してはどうでしょうか。

川上 利春

參考資料

1 地区版計画に関する区民意識調査結果

1. 調査概要

調査対象：港区芝地区内に住所登録する満18歳以上の人

標本数：1,500 標本

標本抽出：住民基本台帳からの無作為抽出

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査期間：令和元年7月12日（金）～8月2日（金）

有効回収数（回収率）：338 票（22.5%）

調査項目：1. 回答者の属性について

性別、年齢、国籍、職業、居住地、家族構成、居住年数等

2. 芝地区の事業について

地域事業の認知度、満足度、重要度、参加意向等

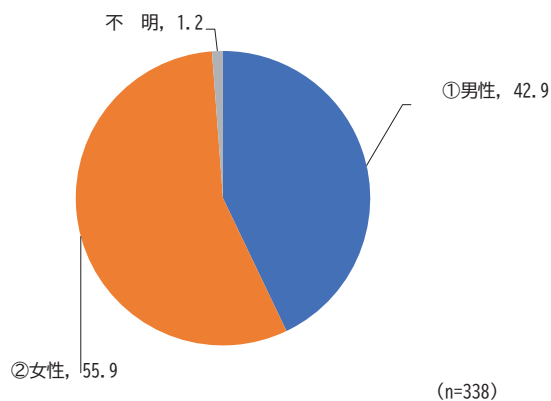
3. 芝地区の暮らしについて

防災、ご近所づきあい、地域コミュニティ、地域課題等

2. 調査結果

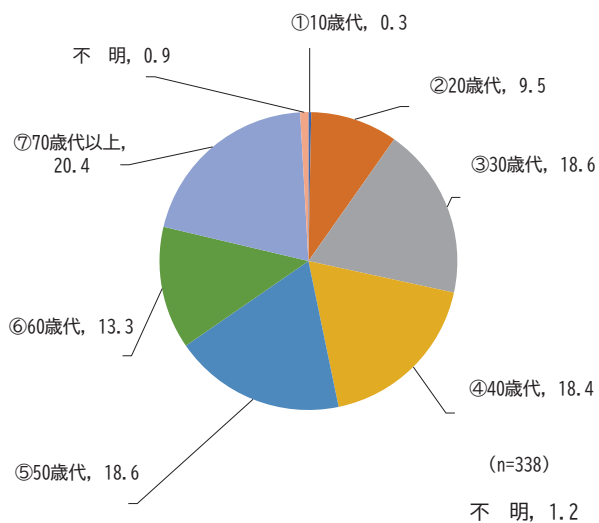
問1. あなたの性別についてお答えください。

選択肢	件数	構成比
①男性	145	42.9
②女性	189	55.9
不明	4	1.2
全体	338	100.0



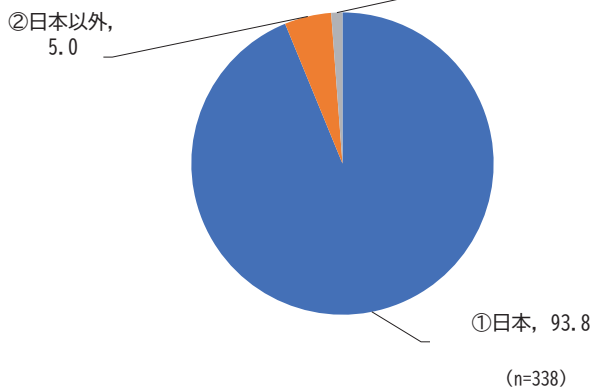
問2. あなたの年齢をお答えください。

選択肢	件数	構成比
①10歳代	1	0.3
②20歳代	32	9.5
③30歳代	63	18.6
④40歳代	62	18.4
⑤50歳代	63	18.6
⑥60歳代	45	13.3
⑦70歳代以上	69	20.4
不明	3	0.9
全体	338	100.0



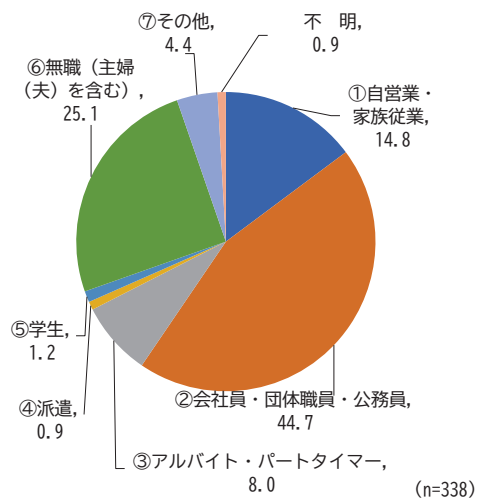
問3. あなたの国籍をお答えください。

選択肢	件数	構成比
①日本	317	93.8
②日本以外	17	5.0
不明	4	1.2
全体	338	100.0



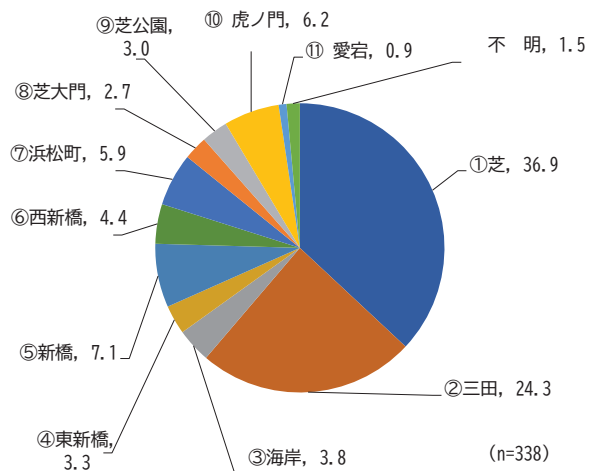
問4. ご職業についてお答えください。

選択肢	件数	構成比
①自営業・家族従業	50	14.8
②会社員・団体職員・公務員	151	44.7
③アルバイト・パートタイマー	27	8.0
④派遣	3	0.9
⑤学生	4	1.2
⑥無職（主婦（夫）を含む）	85	25.1
⑦その他	15	4.4
不明	3	0.9
全体	338	100.0



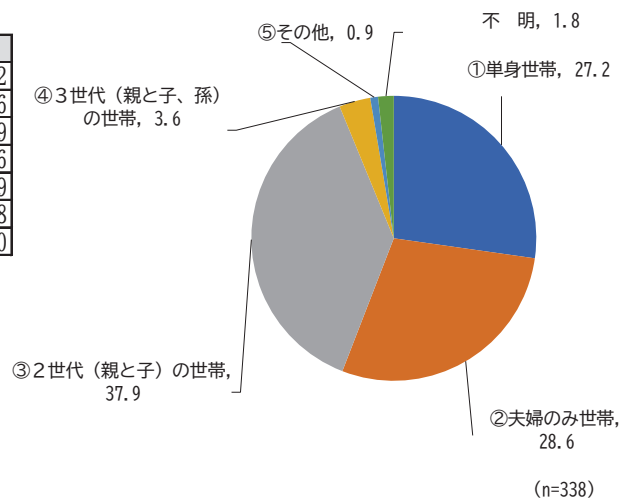
問5. 現在お住いの地域をお答えください。

選択肢	件数	構成比
①芝	125	36.9
②三田	82	24.3
③海岸	13	3.8
④東新橋	11	3.3
⑤新橋	24	7.1
⑥西新橋	15	4.4
⑦浜松町	20	5.9
⑧芝大門	9	2.7
⑨芝公園	10	3.0
⑩虎ノ門	21	6.2
⑪愛宕	3	0.9
不明	5	1.5
全体	338	100.0



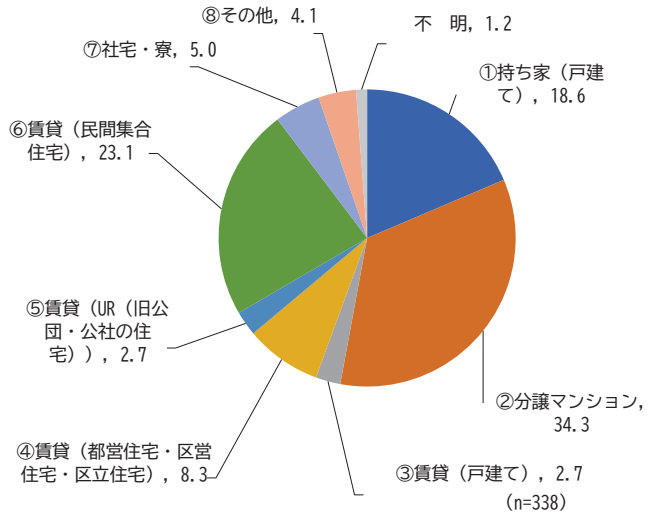
問6. 家族構成についてお答えください。

選択肢	件数	構成比
①単身世帯	92	27.2
②夫婦のみ世帯	97	28.6
③2世代（親と子）の世帯	128	37.9
④3世代（親と子、孫）の世帯	12	3.6
⑤その他	3	0.9
不明	6	1.8
全体	338	100.0



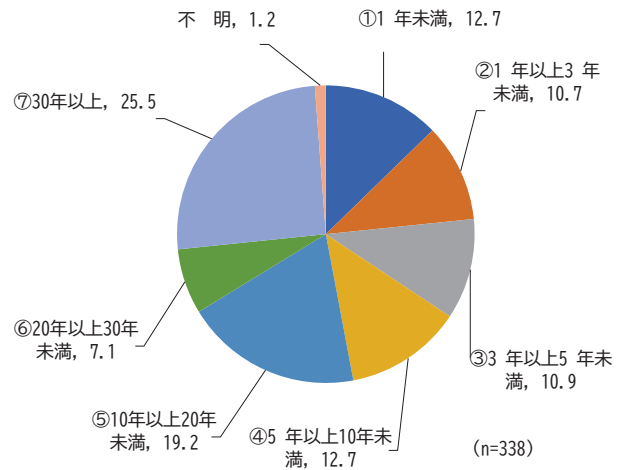
問7. 現在のお住まいについてお答えください。

選択肢	件数	構成比
①持ち家（戸建て）	63	18.6
②分譲マンション	116	34.3
③賃貸（戸建て）	9	2.7
④賃貸（都営住宅・区営住宅・区立住宅）	28	8.3
⑤賃貸（UR（旧公団・公社の住宅））	9	2.7
⑥賃貸（民間集合住宅）	78	23.1
⑦社宅・寮	17	5.0
⑧その他	14	4.1
不明	4	1.2
全体	338	100.0



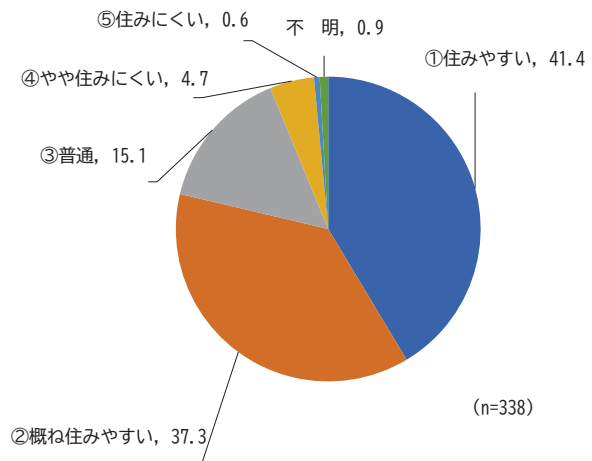
問8. 現在の芝地区への通算居住年数についてお答えください。

選択肢	件数	構成比
①1年未満	43	12.7
②1年以上3年未満	36	10.7
③3年以上5年未満	37	10.9
④5年以上10年未満	43	12.7
⑤10年以上20年未満	65	19.2
⑥20年以上30年未満	24	7.1
⑦30年以上	86	25.5
不明	4	1.2
全体	338	100.0



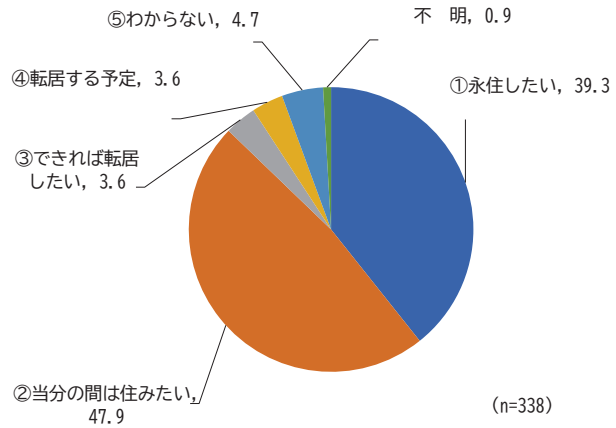
問9. 芝地区の住みやすさについてどのようにお考えですか。

選択肢	件数	構成比
①住みやすい	140	41.4
②概ね住みやすい	126	37.3
③普通	51	15.1
④やや住みにくい	16	4.7
⑤住みにくい	2	0.6
不明	3	0.9
全体	338	100.0



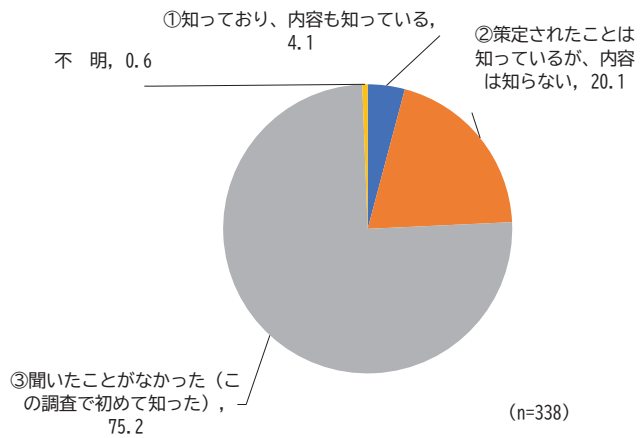
問10. 今後の定住意向についてどのようにお考えですか。

選択肢	件数	構成比
①永住したい	133	39.3
②当分の間は住みたい	162	47.9
③できれば転居したい	12	3.6
④転居する予定	12	3.6
⑤わからない	16	4.7
不明	3	0.9
全体	338	100.0



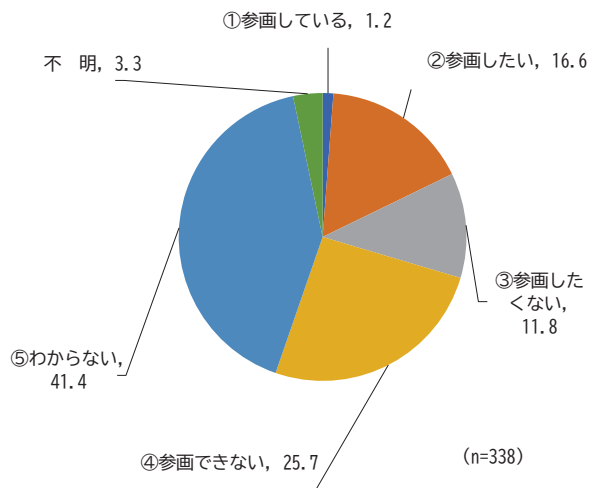
問11. 港区では、平成26(2014)年度に「芝地区版計画書(2015年度～2020年度)」を策定しています。あなたは芝地区版計画書をご存知でしたか。

選択肢	件数	構成比
①知っており、内容も知っている	14	4.1
②策定されたことは知っているが、内容は知らない	68	20.1
③聞いたことがなかった(この調査で初めて知った)	254	75.2
不明	2	0.6
全体	338	100.0



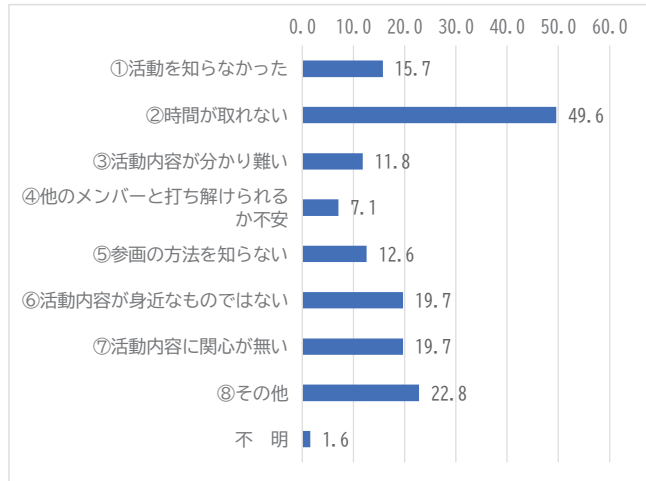
問12. 芝地区の地域事業に関する計画づくりや実施について参画のご意向はお持ちですか。

選択肢	件数	構成比
①参画している	4	1.2
②参画したい	56	16.6
③参画したくない	40	11.8
④参画できない	87	25.7
⑤わからない	140	41.4
不明	11	3.3
全体	338	100.0



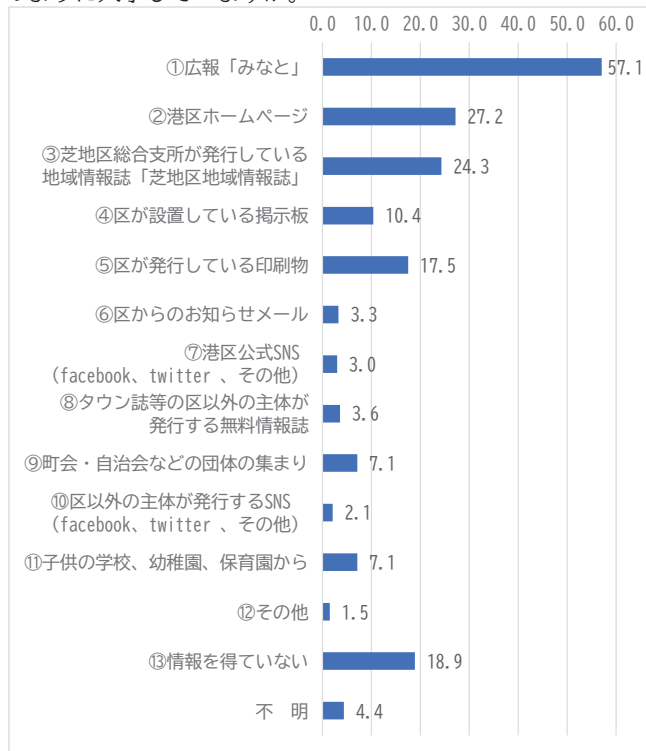
問13. 問12で、「参画したくない」「参画できない」とお答えになった方にお聞きします。
その理由はどのようなものですか。

選択肢	件数	構成比
①活動を知らなかった	20	15.7
②時間が取れない	63	49.6
③活動内容が分かり難い	15	11.8
④他のメンバーと打ち解けられるか不安	9	7.1
⑤参画の方法を知らない	16	12.6
⑥活動内容が身近なものではない	25	19.7
⑦活動内容に関心が無い	25	19.7
⑧その他	29	22.8
不明	2	1.6
合計	204	-
全体	127	-



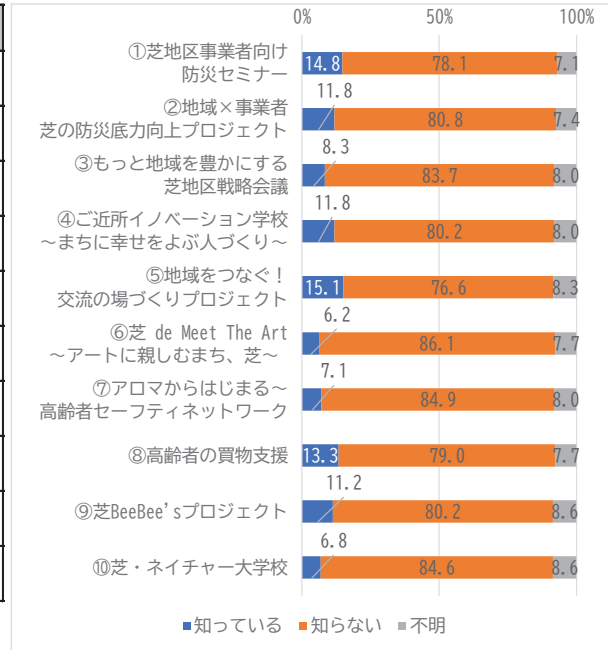
問14. あなたは、区や芝地区総合支所からの情報をどのように入手していますか。

選択肢	件数	構成比
①広報「みなと」	193	57.1
②港区ホームページ	92	27.2
③芝地区総合支所が発行している地域情報誌「芝地区地域情報誌」	82	24.3
④区が設置している掲示板	35	10.4
⑤区が発行している印刷物	59	17.5
⑥区からのお知らせメール	11	3.3
⑦港区公式SNS (facebook、twitter、その他)	10	3.0
⑧タウン誌等の区以外の主体が発行する無料情報誌	12	3.6
⑨町会・自治会などの団体の集まり	24	7.1
⑩区以外の主体が発行するSNS (facebook、twitter、その他)	7	2.1
⑪子供の学校、幼稚園、保育園から	24	7.1
⑫その他	5	1.5
⑬情報を得ていない	64	18.9
不明	15	4.4
合計	633	-
全体	338	-



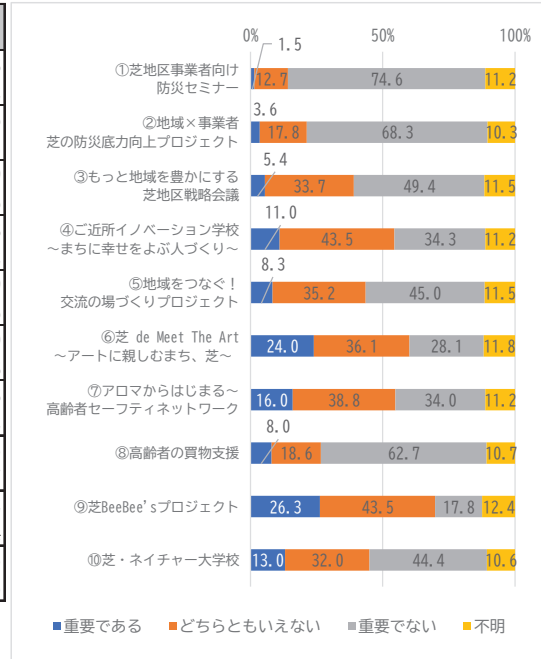
問16-1. 地域事業の認知度

選択肢	知っている	知らない	不明
①芝地区事業者向け防災セミナー	50 14.8	264 78.1	24 7.1
②地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト	40 11.8	273 80.8	25 7.4
③もっと地域を豊かにする 芝地区戦略会議	28 8.3	283 83.7	27 8.0
④ご近所イノベーション学校 ～まちに幸せをよぶ人づくり～	40 11.8	271 80.2	27 8.0
⑤地域をつなぐ！ 交流の場づくりプロジェクト	51 15.1	259 76.6	28 8.3
⑥芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～	21 6.2	291 86.1	26 7.7
⑦アロマからはじまる～ 高齢者セーフティネットワーク	24 7.1	287 84.9	27 8.0
⑧高齢者の買物支援	45 13.3	267 79.0	26 7.7
⑨芝BeeBee'sプロジェクト	38 11.2	271 80.2	29 8.6
⑩芝・ネイチャー大学校	23 6.8	286 84.6	29 8.6



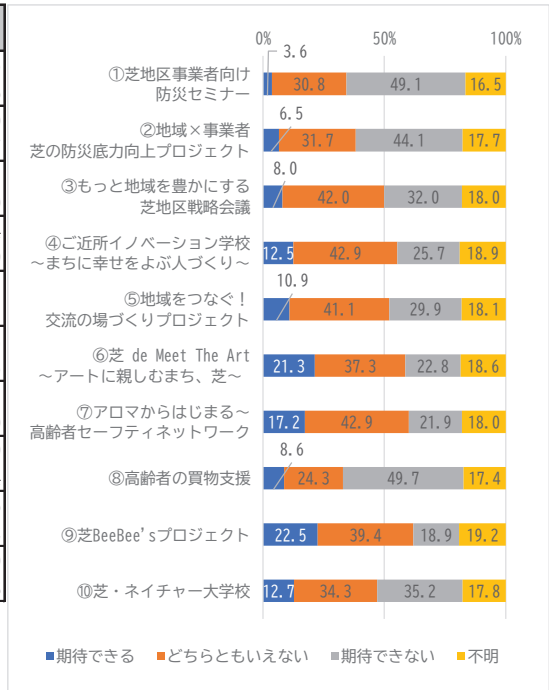
問16-2. 地域事業の重要度

選択肢	重要である	どちらとも いえない	重要でない	不明
①芝地区事業者向け防災セミナー	5 1.5	43 12.7	252 74.6	38 11.2
②地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト	12 3.6	60 17.8	231 68.3	35 10.3
③もっと地域を豊かにする 芝地区戦略会議	18 5.4	114 33.7	167 49.4	39 11.5
④ご近所イノベーション学校 ～まちに幸せをよぶ人づくり～	37 11.0	147 43.5	116 34.3	38 11.2
⑤地域をつなぐ！ 交流の場づくりプロジェクト	28 8.3	119 35.2	152 45.0	39 11.5
⑥芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～	81 24.0	122 36.1	95 28.1	40 11.8
⑦アロマからはじまる～ 高齢者セーフティネットワーク	54 16.0	131 38.8	115 34.0	38 11.2
⑧高齢者の買物支援	27 8.0	63 18.6	212 62.7	36 10.7
⑨芝BeeBee'sプロジェクト	89 26.3	147 43.5	60 17.8	42 12.4
⑩芝・ネイチャー大学校	44 13.0	108 32.0	150 44.4	36 10.6



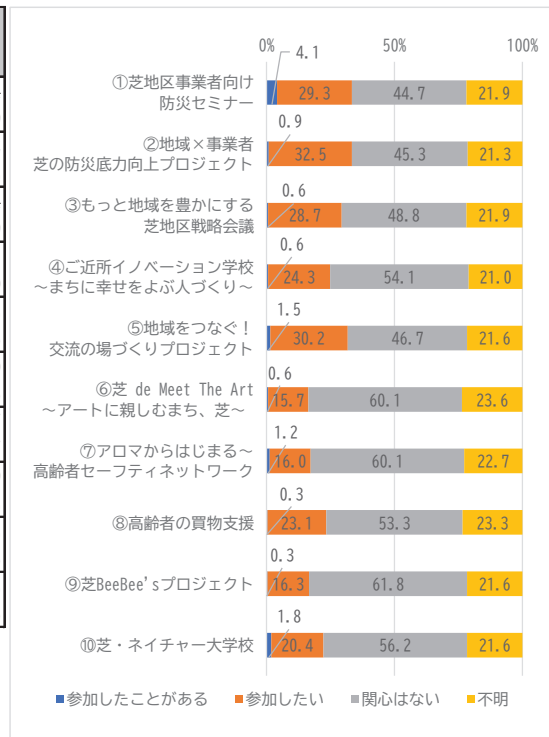
問16-3. 地域事業の期待度

選択肢	期待できる	どちらともいえない	期待できない	不明
①芝地区事業者向け防災セミナー	12 3.6	104 30.8	166 49.1	56 16.5
②地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト	22 6.5	107 31.7	149 44.1	60 17.7
③もっと地域を豊かにする 芝地区戦略会議	27 8.0	142 42.0	108 32.0	61 18.0
④ご近所イノベーション学校 ～まちに幸せをよぶ人づくり～	42 12.5	145 42.9	87 25.7	64 18.9
⑤地域をつなぐ！ 交流の場づくりプロジェクト	37 10.9	139 41.1	101 29.9	61 18.1
⑥芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～	72 21.3	126 37.3	77 22.8	63 18.6
⑦アロマからはじまる～ 高齢者セーフティネットワーク	58 17.2	145 42.9	74 21.9	61 18.0
⑧高齢者の買物支援	29 8.6	82 24.3	168 49.7	59 17.4
⑨芝BeeBee'sプロジェクト	76 22.5	133 39.4	64 18.9	65 19.2
⑩芝・ネイチャー大学校	43 12.7	116 34.3	119 35.2	60 17.8



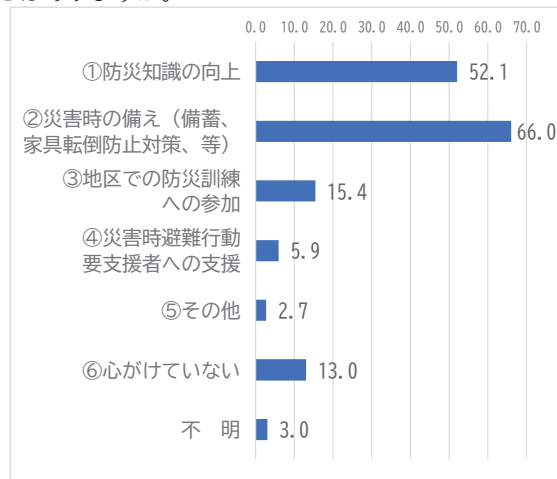
問16-4. 地域事業の参加意向

選択肢	参加したことがある	参加したい	関心はない	不明
①芝地区事業者向け防災セミナー	14 4.1	99 29.3	151 44.7	74 21.9
②地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト	3 0.9	110 32.5	153 45.3	72 21.3
③もっと地域を豊かにする 芝地区戦略会議	2 0.6	97 28.7	165 48.8	74 21.9
④ご近所イノベーション学校 ～まちに幸せをよぶ人づくり～	2 0.6	82 24.3	183 54.1	71 21.0
⑤地域をつなぐ！ 交流の場づくりプロジェクト	5 1.5	102 30.2	158 46.7	73 21.6
⑥芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～	2 0.6	53 15.7	203 60.1	80 23.6
⑦アロマからはじまる～ 高齢者セーフティネットワーク	4 1.2	54 16.0	203 60.1	77 22.7
⑧高齢者の買物支援	1 0.3	78 23.1	180 53.3	79 23.3
⑨芝BeeBee'sプロジェクト	1 0.3	55 16.3	209 61.8	73 21.6
⑩芝・ネイチャー大学校	6 1.8	69 20.4	190 56.2	73 21.6



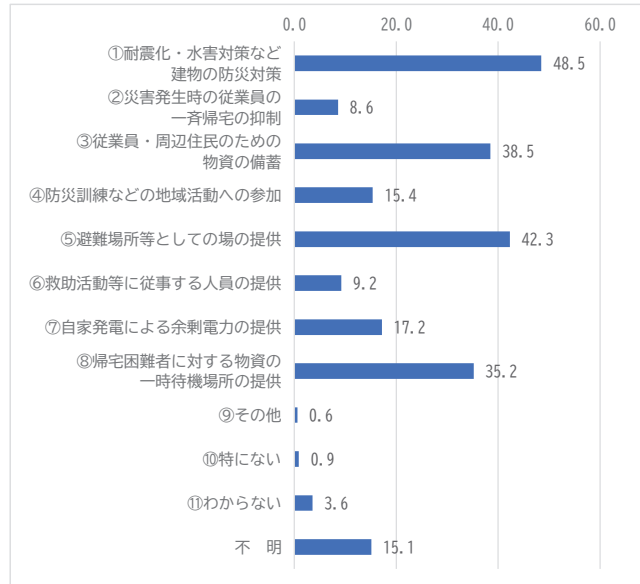
問17. あなたは防災に関して日頃から心がけていることはありますか。

選択肢	件数	構成比
①防災知識の向上	176	52.1
②災害時の備え（備蓄、家具転倒防止対策、等）	223	66.0
③地区での防災訓練への参加	52	15.4
④災害時避難行動要支援者への支援	20	5.9
⑤その他	9	2.7
⑥心がけていない	44	13.0
不明	10	3.0
合計	534	-
全体	338	-



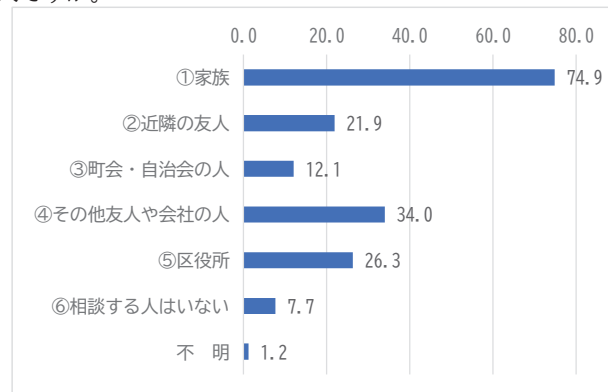
問18. 災害発生時や災害発生に備えて、事業者は地域のためにどのような活動を行うべきとお考えですか。

選択肢	件数	構成比
①耐震化・水害対策など建物の防災対策	164	48.5
②災害発生時の従業員の一斉帰宅の抑制	29	8.6
③従業員・周辺住民のための物資の備蓄	130	38.5
④防災訓練などの地域活動への参加	52	15.4
⑤避難場所等としての場の提供	143	42.3
⑥救助活動等に従事する人員の提供	31	9.2
⑦自家発電による余剰電力の提供	58	17.2
⑧帰宅困難者に対する物資の一時待機場所の提供	119	35.2
⑨その他	2	0.6
⑩特にない	3	0.9
⑪わからない	12	3.6
不明	51	15.1
合計	794	-
全体	338	-



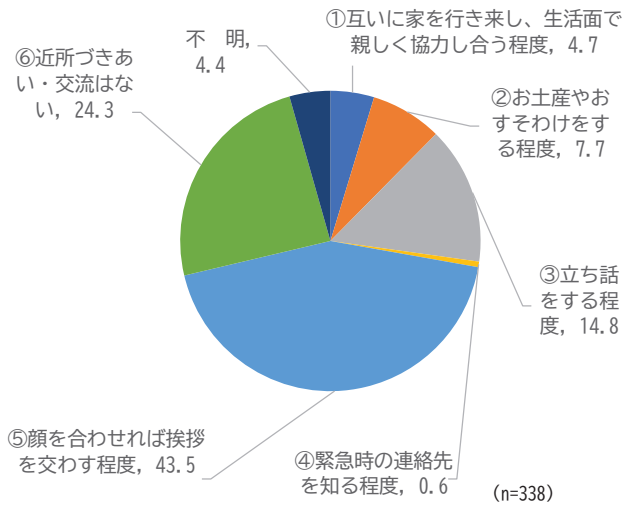
問19. 生活の面で困った時、相談する人はどのような人ですか。

選択肢	件数	構成比
①家族	253	74.9
②近隣の友人	74	21.9
③町会・自治会の人	41	12.1
④その他友人や会社の人	115	34.0
⑤区役所	89	26.3
⑥相談する人はいない	26	7.7
不明	4	1.2
合計	602	-
全体	338	-



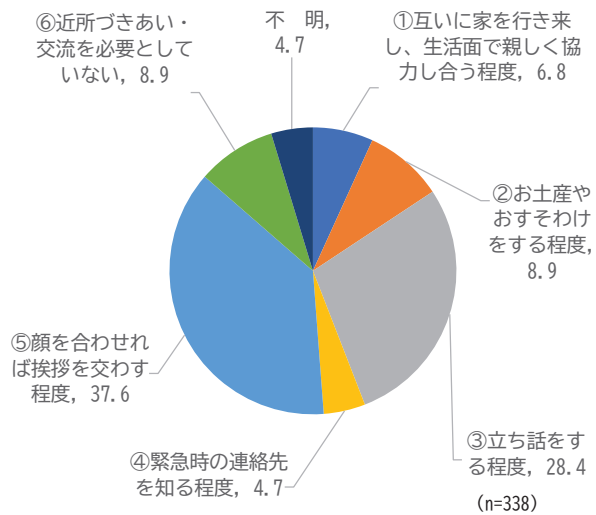
問20. 近所の住民との近所づきあい・交流は現在の程度ありますか。

選択肢	件数	構成比
①互いに家を行き来し、生活面で親しく協力し合う程度	16	4.7
②お土産やおすそわけをする程度	26	7.7
③立ち話をする程度	50	14.8
④緊急時の連絡先を知る程度	2	0.6
⑤顔を合わせれば挨拶を交わす程度	147	43.5
⑥近所づきあい・交流はない	82	24.3
不明	15	4.4
全体	338	100.0



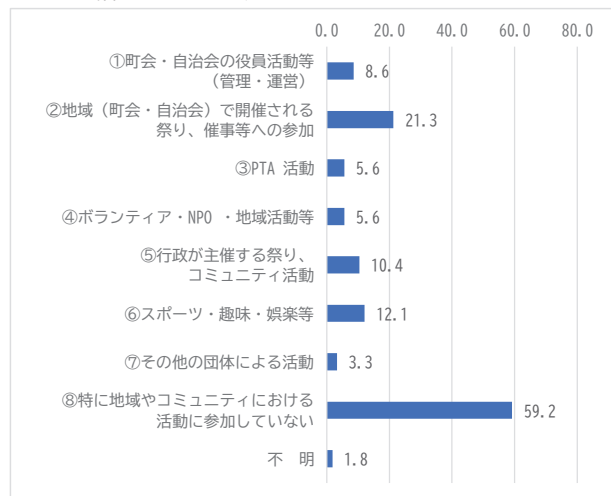
問21. 近所の住民との近所づきあい・交流をどの程度望んでいますか。

選択肢	件数	構成比
①互いに家を行き来し、生活面で親しく協力し合う程度	23	6.8
②お土産やおすそわけをする程度	30	8.9
③立ち話をする程度	96	28.4
④緊急時の連絡先を知る程度	16	4.7
⑤顔を合わせれば挨拶を交わす程度	127	37.6
⑥近所づきあい・交流を必要としていない	30	8.9
不明	16	4.7
全体	338	100.0



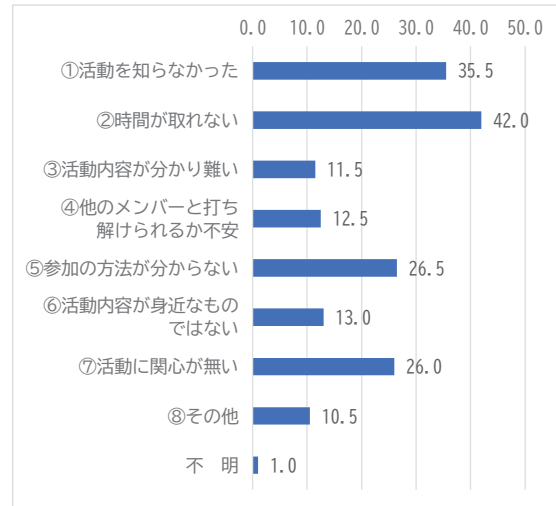
問22. 地域やコミュニティにおける活動のうち、参加している活動はどれですか。

選択肢	件数	構成比
①町会・自治会の役員活動等（管理・運営）	29	8.6
②地域（町会・自治会）で開催される祭り、催事等への参加	72	21.3
③PTA 活動	19	5.6
④ボランティア・NPO・地域活動等	19	5.6
⑤行政が主催する祭り、コミュニティ活動	35	10.4
⑥スポーツ・趣味・娯楽等	41	12.1
⑦その他の団体による活動	11	3.3
⑧特に地域やコミュニティにおける活動に参加していない	200	59.2
不明	6	1.8
合計	432	-
全体	338	-



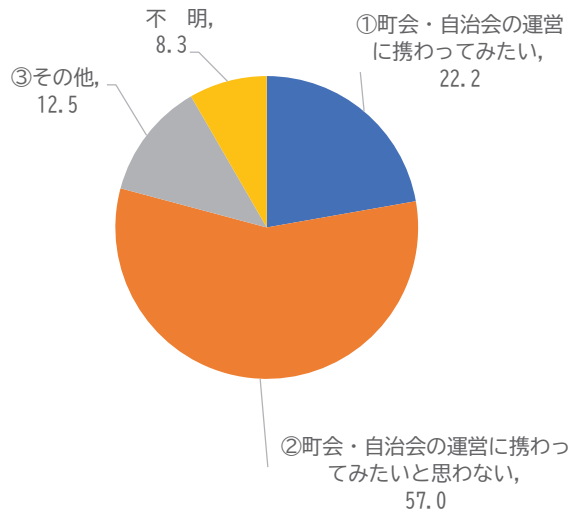
問23. 問22で「⑧特に地域やコミュニティにおける活動に参加していない」とお答えになった方にお聞きします。その理由はどのようなものですか。

選択肢	件数	構成比
①活動を知らなかった	71	35.5
②時間が取れない	84	42.0
③活動内容が分かり難い	23	11.5
④他のメンバーと打ち解けられるか不安	25	12.5
⑤参加の方法が分からない	53	26.5
⑥活動内容が身近なものではない	26	13.0
⑦活動に関心が無い	52	26.0
⑧その他	21	10.5
不明	2	1.0
合計	357	-
全体	200	-



問24. 祭り等への参加だけでなく、役員として町会・自治会の運営に携わることについてどのように思われますか。

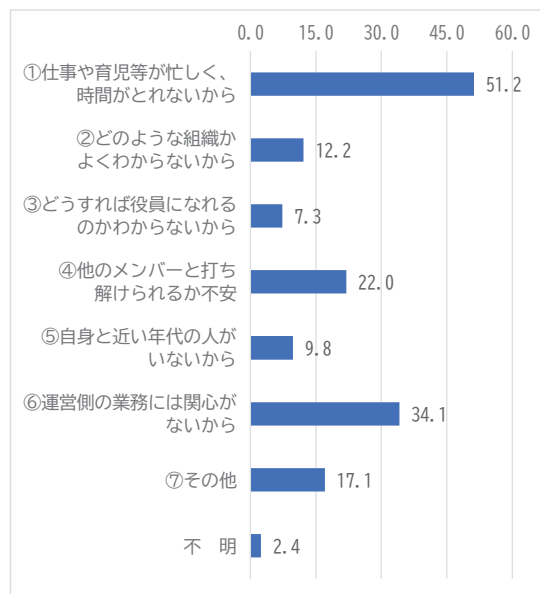
選択肢	件数	構成比
①町会・自治会の運営に携わってみたい	16	22.2
②町会・自治会の運営に携わってみたいと思わない	41	57.0
③その他	9	12.5
不明	6	8.3
全体	72	100.0



問22で「地域（町会・自治会）で開催される祭り、催事等への参加」選択者のみ

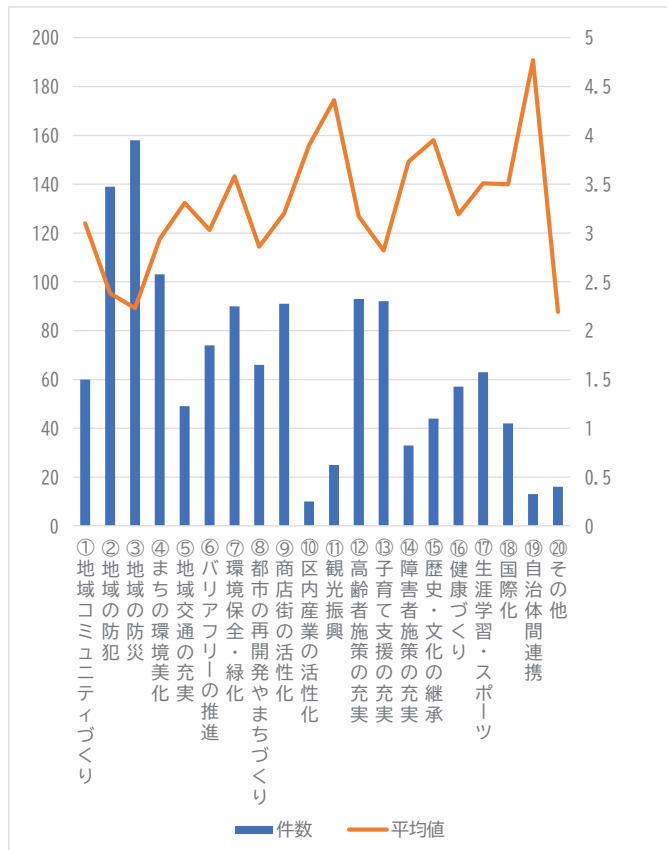
問25. 問24で「②町会・自治会の運営に携わってみたいと思わない」とお答えになった方にお聞きします。その理由は何ですか。

選択肢	件数	構成比
①仕事や育児等が忙しく、時間がとれないから	21	51.2
②どのような組織がよくわからないから	5	12.2
③どうすれば役員になれるのかわからないから	3	7.3
④他のメンバーと打ち解けられるか不安	9	22.0
⑤自身と近い年代の人がいないから	4	9.8
⑥運営側の業務には関心がないから	14	34.1
⑦その他	7	17.1
不明	1	2.4
合計	64	-
全体	41	-



問27. お住いの地域にとって課題とお答えになっていること、またお困りになっていること、または必要性が高いとお考えの取組は何ですか。

選択肢	件数	平均値
①地域コミュニティづくり	60	3.1
②地域の防犯	139	2.38
③地域の防災	158	2.23
④まちの環境美化	103	2.94
⑤地域交通の充実	49	3.31
⑥バリアフリーの推進	74	3.03
⑦環境保全・緑化	90	3.58
⑧都市の再開発やまちづくり	66	2.86
⑨商店街の活性化	91	3.2
⑩区内産業の活性化	10	3.9
⑪観光振興	25	4.36
⑫高齢者施策の充実	93	3.17
⑬子育て支援の充実	92	2.82
⑭障害者施策の充実	33	3.73
⑮歴史・文化の継承	44	3.95
⑯健康づくり	57	3.19
⑰生涯学習・スポーツ	63	3.51
⑱国際化	42	3.5
⑲自治体間連携	13	4.77
⑳その他	16	2.19



2 検討会記録

	検討内容
第2回	・芝地区版計画書の体系と芝地区の現況と課題の検討
第3回	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.1 「芝地区事業者向け防災セミナー」 -No.2 「地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト」 -No.3 「もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議」
第4回	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.4 「ご近所イノベーション学校～芝に幸せをよぶ人づくり～」 -No.5 「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」 -No.6 「芝 de Meet The Art～アートに親しむまち、芝～」
第5回	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.7 「アロマからはじまる～高齢者セーフティネットワーク」 -No.8 「高齢者の買い物支援」 -No.9 「芝 BeeBee' s プロジェクト」 -No.10 「芝・ネイチャー大学校」
第6回	・芝地区版計画の体系（3分野）について提言の検討 「Ⅰかがやくまち」「Ⅱにぎわうまち」「Ⅲはぐくむまち」
第7回	・地域事業の提言書案の検討 -No.1 「芝地区事業者向け防災セミナー」 -No.2 「地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト」 -No.3 「もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議」
第8回	・地域事業の提言書案の検討 -No.4 「ご近所イノベーション学校～芝に幸せをよぶ人づくり～」 -No.5 「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」 -No.6 「芝 de Meet The Art～アートに親しむまち、芝～」
第9回	・地域事業の提言書案の検討 -No.7 「アロマからはじまる～高齢者セーフティネットワーク」 -No.8 「高齢者の買い物支援」 -No.9 「芝 BeeBee' s プロジェクト」 -No.10 「芝・ネイチャー大学校」
第10回	・提言書案の確認 -芝地区版計画の体系（Ⅰ～Ⅲ） -地域事業（No.1～10）
第11回	・提言書の確定

●分野Ⅰ かがやくまち

- (1) 人にやさしい安全・安心なまちづくり
- (2) 地域防災力の向上
- (3) 区民との協働によるまちづくり
- (4) 地球環境に配慮したまちづくり

●分野Ⅱ にぎわうまち

- (1) 地域をつなぐ多様な主体の支援
- (2) 地域をつなぐ機会と場の充実
- (3) 地域の魅力の発掘・発信

●分野Ⅲ はぐくむまち

- (1) 子どもがのびのびと健やかに育つ環境づくり
- (2) いつまでも健康的な生活を送ることのできる環境づくり
- (3) 誰もが気軽に学び楽しめる環境づくり

●Ⅳ 横断的なこと・その他

●意見の分類

- ア 興味を持ったこと・期待
- イ 疑問に思ったこと・懸念

分野Ⅰ かがやくまち

A グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
A	I	(1)	イ	【放置自転車対策】	芝地区では放置自転車対策はすすんでいないと思われる。もっと放置自転車対策に力を入れてほしい。
A	I	(1)	イ	【放置自転車対策】	レンタル自転車が放置自転車になっていないか懸念する。
A	I	(2)	イ	【防災セミナー】	芝地区は企業が多いこともあって、「事業者向けの防災セミナー」が毎年継続的に行われており、また「地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト」も取り込まれているが、どうしても事業者に焦点が当てられた取組のように思える。住んでいる人への防災セミナー等の取組が必要と思う。
A	I	(3)	イ	【みなとタバコルール】	東京都も条例で受動喫煙に対して厳しい基準を設けている。みなとタバコルールの基準はどのようになっているのか。都条例より緩い基準では意味がないと思う。
A	I	(4)	ア	【廃棄プラスチック】	地球環境の新たな問題として、海に漂う廃プラスチックによる海洋動物などへの被害がある。ごみ減量の意識の普及・啓発と関連して特に廃プラスチックへの取組を強調することがこれからは大切である。
A	I	(5)	ア	【都市化とみどり】	かがやくまちとして”快適なまち芝地区”を将来像としているが、将来像にみどりをもっと増やすことを打ち出すことを期待する。「(4)地球環境に配慮したまちづくり」にも緑化の推進が掲げられているが、芝地区は近年一層高層の建物が増え、都市化が進んでいる。その割にはみどりが増えていないように思う。建物が建つこと等による都市化とみどりと共生は大事な将来の目標と思う。

B グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
B	I	(1)	イ	【放置自転車】	・ 駅周辺に限らず、道路上に放置自転車がが多く、気になっていた。 ・ 駐輪場を増やしてほしい。
B	I	(1)	イ	【公園のバリアフリー】	公園のバリアフリーが進んでいないので、バリアフリーになると良い。
B	I	(1)	イ	【歩道の安全性】	・ 歩道を通る自転車が危険で歩行者の安全が心配される。 ・ 歩きながらスマートフォンを使用している人をよく見かけるが、前を見て歩いていない人が多く、ぶつかりそうになる。
B	I	(1)	イ	【歩道整備】	ウォーキングコースが減少したのではないか。
B	I	(2)	ア	【防災】	災害別に避難者の動きのシュミレーションが知りたい。
B	I	(2)	イ	【防災】	防災訓練や防災マップを配布しているなど、防災に関する情報提供は適切に行われているのか。
B	I	(3)	イ	【港区指定喫煙場所】	田町駅に指定喫煙場所があり、臭いが漏れているため、近くを通る時とても気になる。

B	I	(4)	ア	【街路樹】	街路樹に区民が名前を付けるという取組はどうか。自分が付けた名前の木があると愛着を持てると思う。
B	I	(5)	ア	【昼夜間人口差】	昼間人口と夜間人口の差が大きいことが面白い特徴だと思った。

C グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
C	I	(1)	イ	【防犯】	パトロールカーを良く見かけるが、成果が上がっているのか。
C	I	(1)	イ	【バリアフリー】	芝地区は増上寺など寺社が多いが、バリアフリーに対応していない。
C	I	(2)	イ	【帰宅困難者対策】	帰宅困難者の算出フローが掲載されているが、周辺企業の帰宅困難者対策を反映させた数字なのか。
C	I	(3)	ア	【公園の使い方】	芝公園でバーベキューなどができるスペースが整備されると良い。
C	I	(3)	ア	【景観】	街並みの美化が必要ではないか。大企業が集まるエリアのように見た目をそろえることが必要ではないか。
C	I	(3)	イ	【みなとタバコルール】	みなとタバコルールの見直しについて検討してほしい。

分野Ⅱ にぎわうまち

A グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
A	Ⅱ	(2)	ア	【企業との交流】	芝地区には多くの企業がある。こうした企業との交流ができることは芝地区に住む人にとってはメリットのあることだと思う。
A	Ⅱ	(3)	ア	【アートの街】	「芝 de Meet The Art～アートに親しむまち、芝～」という事業があるが、芝地区はアートの印象が薄い。六本木ではアートに関するイベントなどが行われていて、アートのまちという印象がある。芝地区でももっとアートに関するイベントなどが行われることを期待する。
A	Ⅱ	(3)	ア	【SNSを活用した情報発信】	これからは情報提供手段としてSNSを大いに活用すべきである。特に芝地区は昼間人口が多い地区でもあり、昼間人口の多い地区であることを活かすためにはSNSの活用が必要である。
A	Ⅱ	(4)	イ	【地域交流】	これまでの付き合いを持った人はほとんどが港区外の人で、芝地区の人々との交流は全くなかった。地域で交流するメリットはどのようにところにあるのか。

B グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
B	Ⅱ	(1)	イ	【ご近所イノベーション学校】	ご近所イノベーター養成講座を受講した経験があるが、講座修了生は芝地区で地域と人をつなぐ人材として機能しているのか。
B	Ⅱ	(1)	イ	【地域活動】	・地域住民をもっと地域コミュニティに参加しやすくしてほしい。 ・地域活動の参加者数はどのくらいなのか。 ・地域活動の参加者の満足度が知りたい。
B	Ⅱ	(2)	イ	【事業者と区民のつながり】	区民と事業者のお付き合いはどのくらいあるのか。
B	Ⅱ	(2)	イ	【他のコミュニティとの交流】	他のコミュニティとの交流があるのか知りたい。
B	Ⅱ	(3)	イ	【案内板の整備】	地域の歴史等の案内板をきちんと整備してほしい。
B	Ⅱ	(4)	イ	【事業の周知】	事業内容をどのように周知しているのか知りたい。

C グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
C	Ⅱ	(1)	ア	【新しい取組や活動の発生】	多様な資源が集積している芝地区で、ご近所同士の付き合いによるイノベーションが発生したら面白いと感じた。
C	Ⅱ	(1)	ア	【活動ツールの開発】	町会・自治会活動やコミュニティ活動において活用できるアプリがあると良い。
C	Ⅱ	(1)	イ	【町会・自治会のあり方】	・町会・自治会等の地域団体が実際には機能していないのではないかと。 「コミュニティとは何か」を見直し、新しい形をつくっていく必要がある。 ・町会・自治会に入会する方法を区は周知していないのか。
C	Ⅱ	(1)	イ	【町会会員数について】	・正確な会員数を把握するために、町会・自治会の会員数のカウント方法を統一させれば良いのではないかと。 ・平成29年の町会会員数が平成28年よりも減少しているのはなぜか。
C	Ⅱ	(2)	ア	【昼夜間人口比】	昼間人口と夜間人口のギャップを生かした施策があると良い。
C	Ⅱ	(2)	イ	【地域交流について】	交流からにぎわいが生まれるのか疑問である。
C	Ⅱ	(3)	ア	【日本文化の学び】	日本文化の良さを歴史に学んで大切にしたい。

分野Ⅲ はぐくむまち

A グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
A	Ⅲ	(1)	ア	【年少人口の増加】	芝地区で子どもが増えており、増加する子どもたちにしっかり目を向けていくことは良いことだと思う。
A	Ⅲ	(1)	イ	【いじめ・虐待】	芝地区での子どものいじめ・虐待などの実態を明らかにしたい。
A	Ⅲ	(3)	ア	【図書館】	最近はお茶店で勉強する学生が多い。公共の図書館もカフェを併設したり、電源を設けたりすると良いと思う。
A	Ⅲ	(4)	イ	【生産年齢人口を対象とした福祉】	地域の主体はやはり生産年齢人口である。生産年齢人口にしっかり対応した福祉・保健・教育対策が必要である。

B グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
B	Ⅲ	(1)	ア	【年少人口の増加】	国とは逆に年少人口が増加していてすごいと思った。
B	Ⅲ	(2)	イ	【高齢者福祉】	・高齢者施策は区民目線になっているのか。 ・高齢者のいきがづくりが必要だ。 ・「高齢者の買い物支援」事業は、自分で買い物に行くことができる高齢者より、自力で買い物に行けない高齢者の買い物を支援するべきだと思う。
B	Ⅲ	(2)	イ	【健康づくり】	健康づくりの自主活動

C グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
C	Ⅲ	(2)	ア	【高齢者施策】	高齢者施策は常に重要であり、継続してほしい。
C	Ⅲ	(4)	ア	【世代間交流】	世代間交流をもっと広げてはどうか。
C	Ⅲ	(4)	イ	【心のバリアフリー】	心のバリアフリーについても考えていくべきだ。

分野Ⅳ 横断的なこと・その他

A グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
A	Ⅳ		ア	【外国人人口の増加】	近年、外国人が増えており、東京オリンピック・パラリンピックに向けても増えていくことが予想される。今後、芝地区での外国人とのコミュニティの在り方を検討していくことが期待される。
A	Ⅳ		ア	【LGBT】	近年、LGBT（性的少数者）への配慮等が社会的に求められている。今後、芝地区版計画書でもふれていくことが求められる。
A	Ⅳ		イ	【芝地区版計画書】	現行の芝地区版計画書の特徴、他地区との違いはどこにあるのか。
A	Ⅳ		イ	【芝地区版計画書】	現行の芝地区版計画書にはいろいろと施策が記載されているが、それらを実現する”人”、”もの”、”金”の関係はどのようになっているのか。計画実現の方法を知りたい。
A	Ⅳ		イ	【情報弱者への対応】	パソコンやスマートフォンを使わず（使えず）に暮らしている区民もいる。こうした情報弱者に対してどう対応するのが懸念される。

B グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
B	Ⅳ		ア	【芝地区版計画書】	芝地区で何が一番の課題なのかよくわからなかった。

C グループ

グループ	分野	施策	分類	見出し	意見
C	Ⅳ		ア	【協働】	行政（区）と私たち（区民）との役割を再確認してはどうか。
C	Ⅳ		ア	【施設】	区民が使用できる施設は無料化してほしい。
C	Ⅳ		イ	【支所と区の連携】	地区で行うことが難しいことは、全庁的に連携することは可能なのか。
C	Ⅳ		イ	【施策評価】	・ここ何年も施策が似ているという話があったがなぜか。 ・実施された施策への評価基準や方法、改善への対策はどのようになっているのか。
C	Ⅳ		イ	【将来像（基本構想）】	「世界都市」を本気で目指すのか。世界都市の模範例や比較例等のデータはあるのか。

芝地区版計画推進部会 第3回 グループワーク記録

<p>●地域事業</p> <p>1 芝地区事業者向け防災セミナー</p> <p>2 地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト</p> <p>3 もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議</p> <p>20 その他（進め方など）</p>	<p>●意見の分類</p> <p>ア 評価点</p> <p>イ 改善点</p> <p>ウ 重視すべき点</p> <p>エ 次計画の方向性</p> <p>オ その他</p>
--	---

1 芝地区事業者向け防災セミナー

<Aグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見
A	1	ア	【取組は有効】	毎年申込をする地元の事業者が多く、芝地区内でのBCP計画策定事業者が増えていることは評価できる。
A	1	ア	【効果の測定が必要】	毎年申込定員を超える応募者があるということだが、これまでセミナーを受けた事業者の数は、芝地区全体の総事業者数のどれくらいの割合になるのかを明確にして、実績を評価する必要がある。
A	1	イ	【効果を図る手法が必要】	各種の地域事業の効果を、予算との関係で判断する、効果測定を行い、比較判断する必要があると思う。またその結果等を見える化する必要があると思う。
A	1	エ	【事業見通しの明確化】	防災セミナーは、毎年人気があつて需要があるようだが、芝地区内の対象となる事業者数がどれくらいあるかを明らかにして、今後何年で100%を目指すといったような事業の取組の見通しを明らかにする必要があると思う。
A	1	オ	【今後の取組のアイディア】	需要もあつて人気のある事業のようなので、実際のセミナーの様子を動画で流すのも良いと思う。
A	1	オ	【参加費の徴収】	需要もあつて人気のある事業のようなので、セミナー参加費を徴収して、同じ芝地区での防災に取り組む防災底力向上プロジェクトの事業費に回せるようなことが出来たら、良いと思う。
A	1	イ	【事業者に対する地域貢献への啓発】	企業の社員は若くて多様な技能を持つ人的資源なのだから、ただ単に会社の中に留まるのではなく、地域のために共助の精神で、地域の人々が困っている場合に助ける等の働きをするよう、事業の中で啓発をすべきだ。

1 芝地区事業者向け防災セミナー

<Bグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見
B	1	ア	【取組は有効】	防災セミナー自体は有効と考え、強化すべきと思う。
B	1	ア	【取組は有効】	無料ということがすごい。通常は有料である。
B	1	ア	【取組は有効】	参加者数が多く、需要があると感じる。
B	1	ア	【検証をしている点が良い】	セミナー実施後の成果まで、追跡調査を行ったのが良い。
B	1	ア	【今後の展開】	行政と事業者の協働につながると良い。
B	1	イ	【成果が見えない】	芝地区内のセミナーの対象の事業者数のうちBCPを策定しているのが何割あり、これから何社に働きかける必要があるのか、という全体像が見えない。
B	1	イ	【効果を図る手法が必要】	BCPを実際に策定した企業数を把握して、効果を測定する必要がある。
B	1	イ	【効果を図る手法が必要】	セミナーのレベルアップについては、効果測定が必要ではないか。
B	1	イ	【体制の拡充が必要】	需要の多いセミナーなので、支所の体制を強化し回数を増やすべきではないか。
B	1	イ	【未策定企業が必要性を実感できる仕組みが必要】	未策定企業が、どのようなBCPを策定したら良いか分かるよう、実際策定したBCPの内容を公開して、企業間で交換できるようにしてはどうか。
B	1	イ	【策定のインセンティブ必要】	BCP策定のインセンティブ（区の認証制度、税金の減額）等があると策定事業者が増えるのではないか。
B	1	イ	【未策定企業が必要性を実感できる仕組みが必要】	セミナーに参加する企業の規模（従業員数）による問題意識の差を踏まえたセミナーの呼びかけが必要ではないか。

B	1	ウ	【未策定企業が必要性を実感できる取組が必要】	うまくいっている企業の例をPRして、悪い例と比較してはどうか。
B	1	ウ	【希望者全員が受講できる仕組みが必要】	希望者全員が受講できるように体制を変える必要がある。
B	1	ウ	【事業対象者のボリュームの把握が必要】	残りがどのくらいあるか分からないので、策定かブラッシュアップか判断がつかない。ターゲットを明確化すべきだ。
B	1	ウ	【支所のスタンスを明確化】	BCP策定率●%（又は、策定率23区No.1）等サブタイトルを付け、区の立場を明確にする。
B	1	オ	【今後の取組のアイデア】	企業BCPの内容を具体化して、交換できるようにする。事例集を作る。
B	1	オ	【今後の取組のアイデア】	需要の多いセミナーなので、オンライン配信のような手段はとれないのか。

2 地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト

<A グループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見	
A		2	イ	【取組は有効でない】	芝地区の町会数がいくつあるか分からないが、意見交換会の実績が過去二年間で1回という実績は余りにも少ないと思う。
A		2	イ	【PRが必要】	一回、町会と事業所との意見交換会が行われたようだが、地元の人には伝わっていない。せっかくの実績をもっとPRすると良いと思う。
A		2	イ	【ターゲットの変更が必要】	地域住民・町会と地元事業者との共助の関係で地域の防災底力を向上させようとするのは理解はできるが、事業者は地域事業1で取組を既に行っているため、共助の対象を芝地区の屋間人口に目を向けて、プロジェクトを検討し直すことも考えられると思う。
A		2	イ	【町会と事業者の関係構築が必要】	事業の実績が上がらないのは、日常からの事業者と町会との関係が薄いからであり、今後、日常的に地域の事業者と町会との関係を作っていくことの方が大切だと思う。
A		2	イ	【効果を図る手法が必要】	各種の地域事業の効果を、予算との関係で判断する、効果測定を行い、比較判断する必要があると思う。またその結果等を見える化する必要があると思う。
A		2	エ	【事業の廃止もしくは統合】	事業の実績からは事業を廃止するか、他の事業と統合する方向で検討するのが良いと思う。
A		2	イ	【事業の主体は区であるべき】	重要な事業だと感じるため、町会まかせにするのではなく、区が主体的に行う事業として取り組むべきだ。

2 地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト

<B グループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見	
B		2	ア	【着眼点が良い】	防災をテーマに町会と事業所がつながりを深めることはとても良い。
B		2	イ	【参加する町会の数が少ない】	参加町会が少なすぎるのではないかと。この事業を進めるためには、町会の活性化が必要だ。
B		2	イ	【参加する町会の数が少ない】	対象となる町会の数を増やすべきだ。
B		2	イ	【参加する町会の数が少ない】	避難訓練等へ参加しない町会への呼びかけが必要だ。
B		2	イ	【効果を図る手法が必要】	事業実施の効果はあると思われるが、対象となる町会や事業者が何団体いて、そのうち何割が事業対象となったのか等、目標値が見えないので評価しにくい。
B		2	イ	【効果が見えない】	意見交換会のゴールが見えないので、参加率が悪いのではないかと。
B		2	イ	【目的が分からない】	何をしたのか良く分からない。
B		2		【目的が分からない】	町会对事業者ではなく、同じ町会に属する事業者同士を結び付け、防災共助を促すような橋渡しの役割を町会が担うべきではないかと。
B		2	ウ	【実施方法の改善】	ポイントは良いが、実施方法が良くない。
B		2	ウ	【実施方法の改善】	事業者を意見交換会の場に引っ張り出す努力が必要だ。
B		2	ウ	【インセンティブの付与】	町会や事業者が取り組みたくなるようなインセンティブが必要だ。
B		2	ウ	【町会以外の組織との協力】	マンション管理組合との共助も必要だ。
B		2	オ	【町会へのインセンティブ】	参加する町会が少ないので、町会費への補助を出すとインセンティブになるのではないかと。

3 もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議

<A グループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見
A		3ウ	【若者参加が必要】	若い人が参加できるような会議運営にしたい。
A		3オ	【募集方法の改善】	若い人が応募しやすいようにネットを活用する等の、募集方法を改善する必要がある。
A		3イ	【活動方法が限界】	コミュニティ部会では、今のままの活動では限界があるように思う。
A		3ウ	【地区の未来を考える組織とする】	芝地区の未来がこうあってほしいといった芝地区の未来を語るような楽しい企画を考える必要があると思う。
A		3イ	【広報スペースの拡充が必要】	港区の広報での芝地区総合支所の扱いがスペース的にも小さくて、取扱いが不公平に思う。
A		3ウ	【各部会の目的の整理が必要】	現在3つの部会で進めているが、港区内の他の専門（例えば防災関係）との協働事業を企画するなど、3部会を見直し、再構築する必要があると思う。
A		3オ	【効果を図る手法が必要】	各種の地域事業の効果を、予算との関係で判断する、効果測定を行い、比較判断する必要があると思う。またその結果等を見える化する必要があると思う。
A		3オ	【事業の評価と位置付けの明確化】	港区のなかでの芝地区総合戦略会議の評価、立ち位置がよく分からない。

3 もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議

<Bグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見
B		3ア	【イベントが良い】	「芝でお酒が!!」が面白い。
B		3ア	【ターゲットが良い】	タワマンのイベントに区としてアプローチしたのは良い。人口が多いのに内にこもりがちなので。
B		3ア	【地域に貢献している】	プラザ神明のフェスティバルを盛り上げてくれている。
B		3ア	【貴重なボランティア組織】	何かの時に絶対に必要な組織。
B		3ア	【貴重なボランティア組織】	活動はとても良いと思う。50名ものボランティアを維持するのは大変なのではないか。
B		3イ	【対象が偏っている】	芝地区の人口は労働人口が多いが、取組の対象が高齢者か子ども向けである点に違和感を感じる。
B		3イ	【参加しづらい】	一部の区民の方が複数の会に参加し、閉じているイメージがある。
B		3イ	【参加しづらい】	何となく敷居が高そうな気がする。
B		3イ	【成果が見えない】	部会から得られた成果が分からない。
B		3イ	【成果が見えない】	参加者以外のメリットが不明。
B		3イ	【活動内容が見えない】	活動内容と参加者をもっと広がるように工夫が必要だ。
B		3イ	【活動内容が見えない】	活動内容と参加者が広がるように工夫が必要ではないか。
B		3イ	【活動内容が見えない】	どのような活動をしているのかよくわからなかった。
B		3イ	【活動内容が見えない】	外に情報等を発信する部会が無い。
B		3イ	【部会ごとの活動の差が分からない】	部会の差が良くわからなかった。部会を分ける必要があるのか？
B		3イ	【部会ごとの活動の差が分からない】	取組内容の決め方が分からない。
B		3ウ	【多様な区民との協働が必要だ】	地域事業2の議論でも、企業参加を望む意見があったので、芝会議の活動にも企業の参加があれば良いと感じた。
B		3ウ	【PRが必要】	外国人向けの情報発信が必要だ。
B		3ウ	【PRが必要】	ちゃんと区民に届くような情報発信が必要だ。また、目立つところで活動を実施してほしい。
B		3ウ	【ターゲットの整理が必要】	区民なら高齢者・子ども以外の大多数の人へのアプローチ。また、区外の人も呼びたいのかどうか。
B		3ウ	【事業の目的の整理が必要】	事業の目的が分からない。事業を実施する団体を組織化したという意味では成功したと思う。しかし、活動内容は地域事業として実施する意味が良く分からない。
B		3ウ	【他組織との連携が必要】	他の組織等と連携が必要だ。
B		3オ	【実施してほしいイベント内容】	先日六本木ヒルズで行われた防災イベントのようなことを虎ノ門ヒルズでも実施してほしい。
B		3オ	【実施してほしいイベント内容】	芝の歴史が分かる映画の上映会を実施してほしい。
B		3オ	【実施してほしいイベント内容】	オリンピックと関連付けた活動をしてはどうか。

20 その他（進め方など）

グループ	地域事業	分類	見出し	意見
A	20		【事業の予算規模を踏まえた検討】	10個ある地域事業は予算に差がある。事業を2つ一緒に検討するときには、予算規模が同程度のもので検討すべき。

芝地区版計画推進部会 第4回 グループワーク記録

●地域事業	●意見の分類
4 ご近所イノベーション学校	ア 評価点
5 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト	イ 改善点
6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち 芝～	ウ 重視すべき点
	エ 次計画の方向性
20 その他（進め方など）	オ その他

4 ご近所イノベーション学校

<Aグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	4	ア	【事業内容は評価できる】	事業は評価できるし、また講座の内容も面白い。
A	4	ア	【事業内容は評価できる】	事業が10年近く継続していることは評価できる。継続している理由を知りたい。
A	4	ア	【事業内容は評価できる】	先進的な事業で評価できる。
A	4	イ	【修了生の活動の評価が必要】	イノベータとなった人の修了後の活動が紹介されないと意見も述べられない。修了生の活動紹介があると事業の評価もできて良い。
A	4	イ	【事業名の明確化】	事業としては評価できるが、“ご近所イノベーション学校”という事業名が分かりにくい。
A	4	イ	【活動内容の可視化】	ご近所イノベータの説明会のチラシは一般の人には分かりにくい。誰もが分かるような案内書にして、幅広い人が参加できるようにすることが必要である。
A	4	イ	【地域の課題に合った活動内容であるべきだ】	地域の本質的課題にあった講座のテーマ設定やそれに合った地域交流拠点事業の活用が求められる。
A	4	イ	【事業の評価が必要】	実際の評価が難しいことは理解しているが、事業評価を定性的、定量的に行う必要がある。
A	4	イ	【参加者の実態把握が必要だ】	当初は地区外からの参加者が多かったということだが、何故そうなったのか理由を知りたい。また参加者の実態を知りたい。
A	4	イ	【修了生の活動の評価が必要】	ご近所イノベータ講座の修了生が、その後芝地区のまちづくり等にどの程度参加しているのかを知りたい。その結果で、評価の判断ができる。
A	4	イ	【慶応義塾大学との連携内容の明確化】	平成20年度から慶応義塾大学との共同プロジェクトとして講座を行っているとの事だが、具体的に学生さんたちがどのように関わっているのかを知りたい。それによって、事業の評価等や方向性も検討できる。
A	4	ウ	【活動への支援が必要】	芝地区には多様で個性的なご近所がある。それぞれに合った内容でのイノベータによる活動支援があると良い。そのためにもイノベータへの支援が必要である。
A	4	ウ	【SNSの活用の重視】	講座等を案内する際には、SNSを使って幅広く呼び掛けるようにすると良い。
A	4	ウ	【活動内容の可視化】	QRコードやフェイスブックを使って一人一人のイノベータの方の活動が見えるように、広く可視化できるようにすると良い。
A	4	ウ	【芝地区在住者の参加意識はどの程度か知りたい】	芝地区在住者に500件のダイレクトメールを発送し、5人の応募者があったとのことだが、芝地区の住民がどの程度参加意識があるかの一つのバロメータである。
A	4	オ	【今後の取組のアイデア】	地域事業4の認知度を高めるためにも芝地区や港区在住の著名人や企業内の人材にお願いして、例えば起業・創業等についての単発セミナー等を行うことを提案する。

4 ご近所イノベーション学校

<Bグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
B	4	ア	【リーダー育成の需要がある】	事業が長期間続いているので、需要があると考えらる。
B	4	ア	【リーダー育成は良い】	芝地区の居住者の中でリーダーを育成するのは良い。
B	4	ア	【リーダー育成は良い】	リーダーを育成するのは良い。
B	4	イ	【修了生の活動の評価が必要】	講座の受講生が、終了後に芝地区でどのように関わっているかが評価では重要だ。
B	4	イ	【修了生の活動の評価が必要】	イノベーター講座の修了生のイベント内容を知りたい。
B	4	イ	【修了生の活動の評価が必要】	受講生が講座の修了後に芝地区とどのように関わっているのか、説明してほしい。
B	4	イ	【地域事業4、5の違いが分からない】	地域事業4も5も、人と人のつながりを目的としていて、違いが分からない。
B	4	オ	【参加方法を簡単にすることが必要ではないか】	地域事業4も5も、参加の仕方が良く分からない。Web上等で参加できるようにしたらどうか。

5 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト

<A グループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	5	ア	【事業内容は評価できる】	休み時間に立ち寄り、ちょっとした作業もできるし、また事業が継続していることは評価できる。
A	5	ア	【事業継続が可能な理由を知りたい】	何故継続できているのか、その理由も知りたい。
A	5	イ	【新規利用者の発掘が必要】	芝の家の利用者はリピーターが多く、利用者が徐々に限定されてきていることが懸念される。新しい利用者を発掘するために、何らかのPRをする必要がある。
A	5	イ	【営業時間の改善が必要だ】	芝の家のカレンダーからは11日間の休日となっているが、費用対効果からは如何なものか検討すべきである。
A	5	イ	【営業時間の改善が必要だ】	芝の家のカレンダーからは11日間の休日となっているが、子どもたちが利用できるように改善すべきである。
A	5	イ	【中に入るまでの敷居を低くする工夫が必要だ】	芝の家もご近所ラボ新橋も、初めて利用するには勇気がいるし、また何らかのきっかけがないと利用しない。そうした点から、誰でも参加しやすい、やさしいイベントを行うと良い。
A	5	イ	【芝の家の空間的改善】	芝の家についてこの会議で初めて知って、訪れたが間口が狭いため、空間的に入りづらい。
A	5	イ	【地域の課題に合った活動内容であるべきだ】	地域の本質的課題にあった講座のテーマ設定、そしてそれに見合った地域交流拠点事業の活用が求められる。
A	5	イ	【事業の評価が必要】	事業評価を定性的、定量的に行う必要がある。実際の評価は難しいことは理解している。
A	5	イ	【利用者数減少の理由】	芝の家の利用者が平成29年度9,045人から平成30年度7,681人と減少しているが、その減少した理由を知りたい。
A	5	イ	【事業への疑問点】	平日夜間と休日の稼働率が低いのはなぜか、いきいきプラザとの違いは何か、費用対効果等の測定方法は何かを明らかにしてほしい。
A	5	イ	【効果の検証が必要】	地域事業5の予算は他の事業と比較して3～4倍である。事業実績等から費用対効果の検証が行われる必要がある。
A	5	イ	【効果の検証が必要】	芝の家・ご近所ラボ新橋の稼働状況と予算等から費用対効果を検証する必要がある。
A	5	ウ	【事業の方向性の検討が必要】	ご近所ラボ新橋は、平日は人がほとんど居ないか、閉まっていることが多い。場所的にはいろいろな人がいて、横断的なテーマで何かをすれば人が集まる。事業費的な妥当性も踏まえて今後の活用の方向性を検討する必要があるのではと考える。
A	5	オ	【今後の取組のアイデア】	地域事業5の認知度を高めるためにも芝地区や港区在住の著名人や企業内の人材にお願いして、例えば起業・創業等についての単発セミナー等を行うことを提案する。

5 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト

<Bグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
B	5	イ	【貸切にできず利用しにくい】	貸切にできないので、イベント利用ができない点を使い勝手が悪い。
B	5	イ	【コミュニケーションをとるまでの敷居が高い】	芝の家に興味があるが、どんな人がいて、どんな雰囲気なのかが分からないため、初めての人には敷居が高い。
B	5	イ	【コミュニケーションをとるまでの敷居が高い】	芝の家に興味があるが、そこに来る人と初対面で会話をするのに勇気が必要だ。
B	5	イ	【中に入るまでの敷居が高い】	芝の家の場所を何となく知っていても、入口が分かりづらいので、周辺の道路に案内板等の掲示があると良い。
B	5	イ	【中に入るまでの敷居が高い】	芝の家の前を通るが、外見からは中でのどのような活動をしているか分からないので、外からでもわかるようにした方が良い。
B	5	イ	【中に入るまでの敷居が高い】	芝の家に興味があるが、イベント等のきっかけが無いと、中に入りづらい。
B	5	イ	【利用しにくい営業時間の設定だ】	居住者は昼間は地域に居ないことが多いのに、昼間しか空いていないのは、利用しにくいのではないか。
B	5	イ	【利用しにくい営業時間の設定だ】	居住者は平日は地域に居ないことが多いのに、日曜祝日が休みなので、休日もオープンしていた方が良いのではないか。
B	5	オ	【参加方法を簡単にすることが必要ではないか】	地域事業4も5も、参加の仕方が良く分からない。Web上等で参加できるようにしたらどうか。
B	5	オ	【中に入るまでの敷居を低くする工夫が必要だ】	イベントが無いと中に入りづらいので、訪問のきっかけとなるようイベントが無い日でも何かネーミングを付けてはどうか。

6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち 芝～

<Aグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	6	ア	【事業内容は評価できる】	事業としては意味があり、面白い。
A	6	イ	【事業内容は評価できる】	今後いつまで継続していけるか、また発表の場をどうするかが課題となる。
A	6	ア	【事業内容は評価できる】	アートに親しむ事業はとても良いことである。豊かな文化の証明でもある。
A	6	ア	【事業内容は評価できる】	トランスボックスへのアート作品の掲示により少しでも落書きが防げると同時にアートに接するという観点からも評価できる。
A	6	ア	【事業内容は評価できる】	毎年度300万円の予算での事業だが、子どもアートスクールや芝色物語等は港区の事業として参加者が無料ならとても良い事業だと評価できる。
A	6	イ	【事業と習い事のすみ分けが困難だ】	子どもアートスクールと個人の民間の絵画教室との関係性をどう判断するかは悩ましい。
A	6	ア	【事業目的が明確】	芝アートフェスティバル、トランスボックスへのアート作品の掲示など事業の目的と実際行われているイベントが目に見えて良い。
A	6	イ	【展示場所の拡大】	アートを展開する場所を問題のある場所だけでなく、あらゆるパブリックスペースへ展開すると良い。
A	6	イ	【PRが必要】	区民の事業に対するなじみが薄いように思う。もっとPRをすると良い。
A	6	イ	【企業等の参加促進が必要】	企業等も参加できるようにすると良い。
A	6	イ	【先ず街路樹をきれいにする】	道路の植込みへの不法投棄等も見られ、アートの街というには、先ず植込みを清掃し、草木・樹木を大切に育てることを優先してほしい。
A	6	イ	【表現対象の拡大】	芝地区の歴史や文化的特長を表現したアート作品を掲示できると良い。
A	6	イ	【多様なテーマのアーティストイベントの開催】	広いスペースを使って、多様なテーマを持った内容のアーティストイベントを開催すると良い。

A		6	イ	【制作者の紹介も必要だ】	障害者が描いた絵は、その背景が分かるような紹介があるととっと身近に感じられる。パラリンピックとアートとを結びつける上でも大切である。
A		6	イ	【制作者の紹介も必要だ】	作品の作者紹介をすることによって、見る人も理解が深まり、作品に対する感じ方も変わってくるので良い。
A		6	イ	【作品展示場所の案内が必要】	どこの場所に、どこに行ったら当該事業の作品があるのかが分かる情報を提供すると良い。
A		6	イ	【コンペ入賞者への過大な活動支援】	ワークショップからの提案で芝アートフェスティバルの入賞者への活動場所の提供や居住場所の提供は、お金の使いすぎではないか。
A		6	イ	【ワークショップの詳細が見えない】	そもそも、芝地区を色で表現したい、芝色を作りたいといった人は誰か。普通の区民からは思いつかないことだ。もう少し説明、解説が必要である。
A		6	ウ	【効果の検証が必要】	費用対効果を明瞭にすることが大切である。
A		6	エ	【一過性ではない事業展開が必要】	アートによって芝地区が美しくきれいな街になることが大前提だが、今後2019ラグビーワールドカップや2020オリパラに向けた一過性の事業でなく、長期的な視点に立ち港区全体としてのアート事業として展開し、東京都とも連携する事業へ発展することを望みます。
A		6	オ	【今後の取組のアイディア】	この事業の活動のシンボルとなるランドマーク的な作品があるととっと活動が広がると思う。
A		6	オ	【今後の取組のアイディア】	アートで、街中での歩行者のルール違反の規制を喚起させるようになると良いし、この事業からその可能性が生じるようにすると良い。
A		6	オ	【今後の取組のアイディア】	区民祭り等大きなイベントで、1つブースを借りて、幅広い区民への参加型のこの事業を行うと良い。
A		6	オ	【今後の取組のアイディア】	この事業の対象が絵画や彫刻といったものだけでなく、音楽、プロジェクトマッピング等対象となるアートの定義をもっと増やし、そうしたアートに関わる著名な港区民の協力を得て、対象を広げると良い。
A		6	オ	【今後の取組のアイディア】	芝地区の特徴としてコンピューターを活用したアートの展開もあるし、eスポーツのようなものを展開するのも良い。

6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち 芝～

<Bグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨	
B		6	ア	【事業の需要がある】	事業が長期間続いているので、需要があると考えられる。
B		6	ア	【街にアートがあるのは良い】	街にアートがあるのは良いことだと思う。
B		6	ア	【落書きに対して効果がある】	芝地区で落書きを見かけないので、効果が出ているのではないか。
B		6	ア	【街にアートがあるのは良い】	街にアートをもっと増やすべきだと思う。
B		6	ア	【街にゆとりを感じる】	アートにお金を掛けられる自治体はゆとりがあって良いと感じる。
B		6	ア	【障害のある子どもの自信向上につながる】	障害のある子どもにとっては、自分の絵が公共の場に飾られることが、評価につながって嬉しく感じるものなので続けてほしい。
B		6	ア	【現状維持で良い】	芝地区は治安が良いので、現状維持でも良い。
B		6	イ	【絵以外のアートを取り入れても良い】	絵以外のアートがあっても良いのではないか。
B		6	イ	【アートに共通テーマがあると良い】	掲示するアートに、だまし絵や影絵等の共通テーマがあると良い。
B		6	イ	【PRが必要】	事業を知らない人が多いので、絵が掲示されている場所をPRすることが必要だ。
B		6	イ	【絵を飾る場所を増やしても良い】	絵を掲示する場所を、暗い場所以外に実際に事件の起きた場所も選定しても良いのではないか。
B		6	イ	【事業の目標が分からない】	事業の単年度ごとの目標が分からない。
B		6	イ	【事業の目標が分からない】	この事業の最終的な目標が分からない。
B		6	イ	【事業の目標が分からない】	事業の目的が複数あり、どこに重点を置いているのかが良く分からない。

B	6	イ	【場所に合わせたアートを設置すべきだ】	ビジネス街は幾何学的な絵、裏通りの庶民的な場所はほんわかした絵を飾るなど、場所が持つ雰囲気に合わせて飾るものが変化した方が良い。
B	6	イ	【場所に合わせたアートを設置すべきだ】	場所の雰囲気に合ったプロの絵を設置しても良いのではないかな。
B	6	イ	【場所に合わせたアートを設置すべきだ】	素人の絵は場所の持つ雰囲気に合わず、浮いてしまうこともあるのではないかな。
B	6	イ	【作家を幅広く選択しても良い】	作者を子ども・障害者に限定せず、もっと幅広く集めた方が良い。
B	6	ウ	【目的、テーマと場所に違和感がないことが重要だ】	アートのテーマと場所があっていることが重要だ。
B	6	ウ	【目的、テーマと場所に違和感がないことが重要だ】	場所とアートの内容に統一感があることが重要だ。
B	6	ウ	【なるべく多くの人がかかわる事業である方が良い】	この事業に関わる人が多い方が良い。

20 その他（進め方など）

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	20		【検討会の進行方法】	このワークショップの進め方は疑問である。
B	20		【事業検討にあたっての情報提供方法】	今日の説明では、概要はわかるが具体的に何をやっているのかが分からないので、評価のしようが無い。
B	20		【事業検討にあたっての情報提供方法】	地域事業4も5も、具体的な活動内容がよく分からない。
B	20		【事業検討にあたっての情報提供方法】	例えば講座の卒業生等、当事者の話を聞かないと、実際の取組内容が把握できないのではないかな。
B	20		【事業検討にあたっての情報提供方法】	事業の内容が把握できていないので、どのように評価したら良いか分からない。
B	20		【事業検討にあたっての情報提供方法】	事業当初の目的と現在の事業内容が同じなのか、変化があったのか等を説明してほしい。

芝地区版計画推進部会 第5回 グループワーク記録

●地域事業	●意見の分類
7 アロマからはじまる～ 高齢者セーフティネットワーク	ア 評価点
8 高齢者の買い物支援	イ 改善点
9 芝 BeeBee's プロジェクト	ウ 重視すべき点
10 芝・ネイチャー大学校	エ 次計画の方向性
	オ その他
20 その他（進め方など）	

7 アロマからはじまる～高齢者セーフティネットワーク

<Aグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	7	ア	【事業に関わった人の評価が必要】	アロマセラピーハンドマッサージに係る講座の事業の評価は、実際に関わった人の意見をもとに行うのが良い。
A	7	ア	【事業内容は評価できる】	アロマセラピーハンドマッサージボランティア養成講座は楽しそうに行われているので、評価できる。
A	7	ア	【ボランティア活動の初歩として有効】	アロマセラピーハンドマッサージは、家族の人に、また他人とも直接触れ合うことができるという点で、ボランティア活動の取り掛かりとしては最適である。
A	7	イ	【フォローアップの効果検証】	①のアロマセラピーハンドマッサージボランティア養成講座を対象に②のアロマセラピーハンドマッサージフォローアップ講座が行われていると思うが、どのような効果検証が行われて、フォローアップ講座に繋がっていくのかが分からない。
A	7	イ	【男性の参加者を増やすことが必要だ】	男性の参加者が少ないが、この事業を継続していくとすると男性参加者を増やすことを検討する必要もある。
A	7	イ	【男性の参加者を増やす工夫】	アロマセラピーハンドマッサージの講座には男性参加者が少ないということで、男性参加者が増えるコンテンツが必要なら、普通のマッサージを実施することも考えられる。
A	7	イ	【地域高齢者見守り講座の受講者数が少ない】	地域の高齢者数に対し、事業者の受講者数約50名は少ない。
A	7	イ	【事業内容の明確化】	ボランティア養成講座と事業者向けの講座とが混じっていて、事業として分かりづらい。
A	7	イ	【事業目的の明確化】	事業者が④の地域高齢者見守り講座に参加する意図は何か、またその効果を知りたい。

7 アロマからはじまる～高齢者セーフティネットワーク

<Bグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
B	7	ア	【高齢者向け事業として評価できる】	ハンドマッサージ講座とフォローアップ講座は高齢者への事業として良いので、引き続き取り組んではどうか。
B	7	ア	【スキニップは認知症に有効】	マッサージ等のスキニップは、認知症の方々の反応を引き出す効果があるので、他分野でも取り入れてはどうか。
B	7	ア	【スキニップは認知症に有効】	タンゴ等マッサージ以外のスキニップの方法を取り入れても良いのではないかと。
B	7	ア	【見守りに事業者が参加するのは評価できる】	地域で事業を展開している事業者が見守りに対応することは良いことだ。
B	7	イ	【PRが必要】	高齢者を介護しており、受講対象だが、事業のことを知らなかった。広報が必要だ。
B	7	イ	【アロマやマッサージ以外の方法での高齢者施策を検討すべきだ】	アロマやマッサージ以外の方法で高齢者の見守りやセーフティネットを考えても良いのではないかと（例えばカフェ事業等）。
B	7	イ	【事業者向けの講座は不要だ】	郵便局等、見守りに自主的に取り組んでいる事業者は存在するので、事業者向けの取組は不要ではないかと。
B	7	イ	【事業者向けの講座は不要だ】	事業者向け講座は受講者数が少ないので、不要ではないかと。

B	7	イ	【受講後に受講者が自主的に継続していく環境があるのか懸念がある】	アロマの材料は高いので、個人で継続できるか不安だ。材料が安い取組の方が継続しやすい。
B	7	イ	【受講後に受講者が自主的に継続していく環境があるのか懸念がある】	アロマのオイルを自分で購入する、または自作することができないのであれば、受講後継続することは難しいのではないかな。
B	7	イ	【受講後の活動人数を増やすために、追跡調査をすべきだ】	活動人数を増やすためには、受講者が受講後にどのような活動をしているかを調査して、事業内容を検討すべきだ。
B	7	イ	【受講後の活動人数を増やすために、追跡調査をすべきだ】	マッサージを受けた高齢者の延べ人数を把握して、受講後の効果を検証した方が良い。
B	7	イ	【受講者の少ない講座は取組を再検討すべきだ】	介護アロマ技術講座は受講者が少ないので、取組を再検討した方が良い。
B	7	イ	【受講対象は高齢者でなくとも良い】	50歳以上を対象にしているのはなぜか。活動人数を増やすには対象を広げる必要があるのではないかな。
B	7	イ	【受講対象は高齢者でなくとも良い】	孫が自分の祖父母のために学ぶ方が、高齢者が喜びそうだ。対象を広くすべきだ。
B	7	イ	【セーフティネットに関係の無い取組ではないか】	アロマはセーフティネットとどのような関係があるのかが分からない。
B	7	イ	【セーフティネットに着目して事業内容を再検討】	高齢者のセーフティネットは必要だが、事業内容がアロマやハンドマッサージで良いかは再検討が必要だ。
B	7	イ	【他人に直接触れるためには配慮が必要】	ハンドマッサージは、肌に触れられて不快なこともあるので、施術される側の感情にも充分配慮が必要だと思う。
B	7	イ	【マッサージにはクオリティが必要】	マッサージはプロが施術した方が気持ちが良いので、施術の質の向上やクオリティの維持が必要だ。
B	7	イ	【予算増の理由を明確にすべきだ】	平成30年度以降、予算が50万円ずつ増えている。予算増の理由を知りたい。
B	7	イ	【予算増の理由を明確にすべきだ】	毎年予算が増えているが、受講者が増えた等、予算増加の理由を知りたい。
B	7	ウ	【アロマ講座受講後の取組人数を増やすための取組が重要だ】	アロマは受講者の半分以上が登録するような方法を考えるべきだ。
B	7	ウ	【アロマ講座受講後の取組人数を増やすための取組が重要だ】	アロマ講座の受講者や施術を受ける人の属性を把握して、受講後に活動する人数を増やすべきだ。
B	7	ウ	【高齢者のセーフティネットは重要だ】	高齢者のセーフティネットは大切なので継続した方が良いが、アロマ事業は人数を増やさないと効果がない。
B	7	ウ	【高齢者のセーフティネットは総合的に検討すべきだ】	高齢者のセーフティネットは他の高齢者向け事業と合わせて総合的に実施すべきだ。
B	7	ウ	【見守りの提携先をよく検討すべきだ】	見守りは必要だが、既に独自に実施している企業以外と提携すべきだ。

8 高齢者の買い物支援

<A グループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	8	ア	【事業の認知度が低い】	面白そうな、また意義ある事業のようだが、知らなかった。
A	8	ア	【事業の継続が必要】	事業状況の予約販売や代行運搬等の実績は減っており、また今後の地域での店舗数が増えることも予想されるが、買い物が困難な高齢者がいる限り、事業の継続を望む。
A	8	ア	【事業の必要性があるのか疑問】	お金持ちが多い地域でもあり、この事業を本当に必要とする人が多くいるとは思えない。本当に事業の必要性があるのか疑問である。
A	8	イ	【いきいきプラザの利用者の実態把握が必要】	いきいきプラザの利用者は増えているが、他の地区の人が芝地区のいきいきプラザを利用しているのではないかな。利用者の利用実態を明確にして評価の議論をする必要がある。
A	8	イ	【効果の検証が必要】	対象エリアの高齢者は減少している中で、こうした事業が果たして効果があるのか疑問である。
A	8	イ	【販売件数等の実績減少の理由】	事業状況の予約販売件数、代行運搬件数の実績が減少しているが、その理由を知りたい。

A	8	イ	【地域の実情と利用者のニーズの把握が必要】	最近マルエツ等の新たな店舗も地域内にできているが、高齢者もそちらのお店を利用する人が増えることとなり、この事業自体の必要性は薄れてくると思われる。しかし、それらのお店の品揃えの質や種類等から、買い物で困っている人に伝えられるものになっているのかは疑問である。
A	8	イ	【地域の実情に合った事業内容であるべき】	本当に買い物に困っている人がこの地域にどれくらいいるのか。例えば西新橋1丁目～6丁目迄の地域には一世帯しかないし、神明いきいきプラザでの代行運搬実績も近年はゼロである。この事業の本来の趣旨と地域の実態とが合っていない。
A	8	イ	【利用料を取る必要性はあるのか】	事業が本当に買い物に困っている人にとっての事業になっているのであれば、利用料を取る必要性はないと思う。しかし、事業が買い物に困っている人にとっての事業になっているのかは疑問である。

8 高齢者の買い物支援

<Bグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
B	8	ア	【物産展は評価できる】	物産展の企画は意味があるので続けてほしい。
B	8	イ	【外出できない高齢者を対象とすべきだ】	来店できる高齢者ではなく、来店できない高齢者を対象とした支援に変更してはどうか。
B	8	イ	【外出できない高齢者を対象とすべきだ】	外に出られない高齢者に利用してもらう方法を検討すべきだ。
B	8	イ	【買物支援は不要ではないか】	ネットショッピングがあるので、この事業は不要ではないか。
B	8	イ	【買物支援は不要ではないか】	高齢者の買物を支援する方法は他にもあるのではないか。
B	8	イ	【買物支援は不要ではないか】	この事業はシルバー人材センターの利益になるだけで、事業の効果自体は無いのではないか。
B	8	イ	【買物支援は不要ではないか】	購入目的の来店者がほとんどいないので、買い物支援は不要ではないか。
B	8	イ	【クオリティが良ければ意味がある】	買物自体が大切な楽しみなので、質や価格が適切であることが望ましい。
B	8	イ	【需要を再検討すべきだ】	周辺の居住者層とサービス内容が合っていないのではないか。居住者の年齢等を調査すべきだ。
B	8	イ	【他のサービスと競合しているのではないか】	民間のサービスと競合して負けているのではないか。販売品の価格を検討すべきだ。
B	8	イ	【人の手を借りたいときに使えるサービスとすべきだ】	買物以外にも、人の手を借りたいときに借りられるサービスとすべきだ。
B	8	イ	【物産展の規模を拡大すべきだ】	物産展は提携先を増やした方が良いのではないか。
B	8	イ	【民間の買物支援サービスを使えない人をサポートする事業とすべきだ】	インターネットを使えない人や、他人に頼みごとをすることに心理的な負担感を感じる人もいる。このような人が民間の買い物支援サービスを利用できるように、支援を行う形に変更してはどうか。
B	8	ウ	【今の買物支援の改善が必要だ】	現時点での方法は効果が無いので改善すべきだ。
B	8	ウ	【今の買物支援の改善が必要だ】	現在の取組内容とは異なる方法もあるのではないか。
B	8	ウ	【今の買物支援の改善が必要だ】	現在の取組内容は、民間の取組と比較し勝てる点が無いので、魅力ある内容とすべきだ。
B	8	ウ	【買物が楽しくなるような場所に同行すべきだ】	高齢者向けの施設以外で、買物が楽しくなるような場所（マルシェ等）に同行できるような支援策が良いのではないか。
B	8	ウ	【支援のターゲットを変更すべきだ】	代行依頼が負担になる層を対象とした事業を実施すべきだ。
B	8	ウ	【多様なツールを活用した支援策とすべきだ】	インターネット等のデジタルを有効活用した支援策とすべきだ。

9 芝 BeeBee's プロジェクト

<Aグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	9	ア	【事業内容は評価できる】	事業の趣旨や目的に適った実績が展開され、また自然との関わりもしっかり伝わり良い事業である。

A	9	ア	【事業内容は評価できる】	はちみつの養蜂に関わると、蜜を絞り出すことから内検作業、そして屋上緑の手入れ等いろいろな作業に係る段階がある。一人一人の力、能力、技量等に合った多くの人が関わられる事業である。
A	9	ア	【事業内容は評価できる】	子どもにとっても良い事業であり、子どもにとっても安全であることを広く伝え、事業を継続してほしい。
A	9	イ	【緑化基準等に植栽の基準を追加してはどうか】	建物を建てる際に緑化基準が適用されるが、緑化の基準の中にただ緑だけでなく蜂に必要な花を確保する等の基準を設けたらどうか。また、街路の歩道等のプランターにもなるべく蜂にとって必要な花を植えるようにすると良い。
A	9	エ	【芝地区を代表とする事業として展開すべき】	はちみつ養蜂事業は銀座の屋上でも行われているが、芝地区は公園もみどりも多い地区である。人や地域団体との地域交流を通じて、この事業が芝地区を代表とする事業として展開すべきである。

9 芝 BeeBee's プロジェクト

<Bグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
B	9	ア	【BeeBee'sの取組は評価できる】	BeeBee'sの取組は良い。
B	9	ア	【BeeBee'sの取組は評価できる】	BeeBee'sの取組を通じて自然と触れ合えるのは良い。
B	9	ア	【BeeBee'sの取組は評価できる】	生き物を育む活動は良い。
B	9	イ	【活動内容を拡大してはどうか】	ミツバチ単体の育成ではなく、ミツバチの習性等を学び、花が咲く、草木を増やす活動につなげてはどうか。
B	9	イ	【子どもが多い方が良い】	子どもの参加人数が多い方が良い。
B	9	イ	【自然環境についての学習もあると良い】	ミツバチの世話だけでなく、自然について考える学習も必要ではないか。
B	9	イ	【はちみつの商品化を進めるべきだ】	はちみつの商品化を進め、活動を拡大した方が良い。
B	9	イ	【はちみつの商品化を進めるべきだ】	はちみつの収穫量を増やし、規模を拡大してはどうか。
B	9	イ	【目標を変えるべき】	はちみつの育成が目標ではなく、自然を大切にす、自然を増やすことを目標とした方が良いのではないか。
B	9	イ	【他のプロジェクトと比較して良い点を取り入れる】	類似事例を比較し、良い点を取り入れてはどうか。
B	9	ウ	【環境問題が学べる場とすべきだ】	単なる育成から、環境問題等が学べるような場に内容を拡充すべきだ。
B	9	ウ	【規模を拡大すべきだ】	規模を拡大すべきだ。
B	9	ウ	【小学生を増やす努力をすべきだ】	小学生を増やすため、チラシを学校に配布するなど、募集方法を工夫すべきだ。
B	9	ウ	【多世代交流と自然学習の2つを目標とすべきだ】	多世代交流だけでなく、自然学習も行うべきだ。
B	9	ウ	【プログラムの質の向上を図るべきだ】	類似の取組と情報交換を行い、プログラムの質の向上を図るべきだ。

10 芝・ネイチャー大学校

<Aグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	10	イ	【受益者の予算額・受益額のバランスに配慮が必要】	参加できる子どもの数と事業費からは、高齢者買い物支援事業等と比較すると一人当たりの受益額が高額になっていると思われる。高齢者対策と子どもの対策のバランスという観点からの配慮が必要ではないか。
A	10	イ	【定員枠の拡大が必要】	定員枠を拡大するのが良い。
A	10	イ	【募集時期の改善が必要】	中学生にとっても良い事業なので、中学生も参加できるように募集時期、募集方法の工夫が必要と思う。
A	10	イ	【募集条件を変更し、多くの人が参加できるようにすべき】	一人の人が5回連続して参加するようになっているが、応募者も多いので、活動内容によっては別の人が参加できるようにすると良い。
A	10	エ	【事業内容は評価できるので継続すべき】	港区には畑もないし、また漁業体験等子どもにとっても良い事業です。事業の継続から拡大を望みます。
A	10	オ	【物産展での販売等の他事業との連携】	「芝・ネイチャー大学校」での成果物(野菜・魚等)を「高齢者の買い物支援」の事業に提供する等、他事業との連携が図れると良い。

10 芝・ネイチャー大学校

<Bグループ>

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
B	10	ア	【色々な体験ができるのが良い】	色々な体験ができるので、子供には良いことだと思う。
B	10	ア	【自然と触れ合えるのが良い】	農業体験等、自然に触れ合えるのは良い。
B	10	イ	【区内でも自然学習を行うべきだ】	区内でも自然学習を行うべきだ。
B	10	イ	【参加人数を増やすべきだ】	子どもが自然と触れ合うのは大切なので、予算を増やして参加人数を増やしてはどうか。
B	10	イ	【参加人数を増やすべきだ】	抽選をするほど人気があるので、参加人数を増やした方が良い。
B	10	イ	【事業名が内容と異なっている】	「大学校」という言葉と事業内容に乖離があるのではないかと。事業内容または事業名のどちらかを変えた方が良い。
B	10	イ	【宿泊を伴う体験があると良い】	阿見町でホームステイができると良い。
B	10	イ	【自力で体験できない層に絞ってはどうか】	普通の家では、自力で類似の体験ができるので、自力では難しい貧困層のみを対象としてはどうか。
B	10	イ	【自力で体験できない層に絞ってはどうか】	一般家庭は親が自力で類似の体験を自分の子どもに体験させるべきで、区が取り組むべき事業ではない。
B	10	イ	【相互交流があると良い】	阿見町の子どもを芝地区に連れてきて相互交流があっても良いのではないかと。
B	10	イ	【対象者の幅を広げてほしい】	親子ではなく、祖父母と孫でも参加できるようにしてほしい。
B	10	イ	【費用対効果の検証が必要だ】	自然を育む活動としては良いが、子ども一人当たりの費用が高額なので、効果を検証した方が良い。
B	10	イ	【類似事業の比較が必要だ】	他地区の類似事業と比較し、良い点を取り入れてはどうか。
B	10	ウ	【事業費を見直すべきだ】	一人当たりの費用が他の事業と比較して高額ではないかと。
B	10	ウ	【対象者を絞るべきだ】	生活保護世帯等、自力で体験が難しい世帯を対象を限定すべきだ。
B	10	ウ	【多様な世帯と交流できる場とすべきだ】	対象を貧困家庭に絞ってしまうと、同じような属性の家庭としか知り合えなくなってしまう、色々な背景を持つ家庭と知り合うチャンスとすべきだ。
B	10	ウ	【多様な世帯と交流できる場とすべきだ】	養護学校の児童生徒も参加できるように、対象を広げるべきだ。
B	10	ウ	【港区の自然も体験の対象とすべきだ】	港区の自然にも触れられるようプログラムを構成すべきだ。

20 その他（進め方など）

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
B	20		【区営住宅の入居基準の厳格化が必要】	区営住宅の所得制限を超えている人が入居しているようなので、入居基準の厳格化が必要だ。
B	20		【事業検討には活動内容について詳細なデータが必要だ】	毎回の活動人数等が分からないと事業の評価ができない。
B	20		【費用対効果の考え方の検討が必要だ】	お金が活きる事業の在り方を考えるべきではないかと。

●分野Ⅰ かがやくまち

- (1) 人にやさしい安全・安心なまちづくり
- (2) 地域防災力の向上
- (3) 区民との協働によるまちづくり
- (4) 地球環境に配慮したまちづくり

●分野Ⅱ にぎわうまち

- (1) 地域をつなぐ多様な主体の支援
- (2) 地域をつなぐ機会と場の充実
- (3) 地域の魅力の発掘・発信

●分野Ⅲ はぐくむまち

- (1) 子どもがのびのびと健やかに育つ環境づくり
- (2) いつまでも健康的な生活を送ることのできる環境づくり
- (3) 誰もが気軽に学び楽しめる環境づくり

●意見の分類

- ア 修正点（方向性）
- イ 重点的に取り組むこと
- ウ 追加するキーワード
- エ 新たに取り組むこと
- オ その他

20 その他（進め方など）

分野Ⅰ かがやくまち

(1) 人にやさしい安全・安心なまちづくり

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	I	(1)	提言	ア	道路もバリアフリー化が必要だ	施設のバリアフリー化だけでなく、道路の段差をなくす等のバリアフリー化も必要だ。
A	I	(1)	提言	イ	安全歩行空間の確保が必要だ	安全歩行空間の確保が最重要なことだと思う。
A	I	(1)	提言	イ	自転車・歩行者の通行マナーを改善すべきだ	自転車・歩行者の通行マナーを重視して欲しい。スマホのながら通行は危険なので禁止にすべきだと思う。
A	I	(1)	提言	イ	低炭素社会の実現をめざすべきだ	低炭素社会の実現をめざして、重点的に取り組み、強化してほしい。
A	I	(1)	提言	ウ	通行不可の場所は情報提供が必要だ	再開発に伴い、工事が至る所で行われているため、工事中で通れない道も多くある。通行不可の場所は日々変わるため、通行不可の場所を随時確認できるように情報提供してほしい。
A	I	(1)	提言	オ	通行不可や危険な場所の情報提供が必要だ	通行できない場所や通行が危険な場所等をスマホ等で確認できるウォーキングハザードマップが必要だ。
A	I	(1)	防犯	現況追加		安全安心なまちづくりのために、警備のパトロールを強化してもらいたい。
A	I	(1)	交通安全	現況追加		交差点の道路は段差があり、特に雪の日等はとても危険だと思う。
A	I	(1)	交通安全	現況追加		虎ノ門ヒルズの前の通りを参考に、道路をシンプルにすべきだ。
A	I	(1)	ウォーキングコース	現況追加		ウォーキングコースのイメージが分かりにくい。
B	I	(1)	バリアフリー	ア	(方向性の修正)	寺社→不特定多数の人が集まる場、と修正 寺社と限定すると問題だが、不特定多数の人が集まる場所での配慮事項としては良い。
B	I	(1)	提言	イ	啓発活動の強化	マナーや心がけ（啓発）が大切ではないか。
B	I	(1)	交通安全	現況追加		車道を走っている自転車が、交差点では歩道を使って右左折するため危険だ。
B	I	(1)	交通安全	現況追加		歩道を通る自転車の通行する方向を一方通行にすべきだ。

B	I	(1)	交通安全	現況追加		歩道上では、歩行者と自転車のスペースを分離すべきだ。
B	I	(1)	ウォーキングコース	削除		芝地区内のウォーキングコースというよりは、運河沿いの芝浦港南地区の話ではないかと思われる。芝地区の課題ではないと考え、削除して良い。

(2) 地域防災力の向上

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	I	(2)	提言	イ	災害時の避難場所を想定した事業計画が必要だ	再開発事業を進める際には、災害時の避難場所となる場所の想定を組み込んでほしい。
A	I	(2)	提言	イ	状況に合った帰宅困難者対策	帰宅困難者は、主に会社員と観光・買い物客の2つが考えられるが、特に観光・買い物客の帰宅困難者対策を考えた方が良い。
A	I	(2)	提言	ウ	停電対策の検討が必要	災害時の停電対策を考えた方が良い。
A	I	(2)	帰宅困難者対策	現況追加		不特定多数の人が集まる場所では、災害時に帰宅困難者をどの程度受入可能なのかわかりたい。
A	I	(2)	帰宅困難者対策	現況追加		虎ノ門ヒルズ等の商業施設は、災害時に帰宅困難者の受入可能人数を情報として公開すべきだと思う。
A	I	(2)	帰宅困難者対策	現況追加		災害時に帰宅困難者の受入可能場所と受入可能人数の情報等を公開しているアプリが欲しい。
A	I	(2)	防災	現況追加		防災無線は何を言っているのかわかり取れないことが多い。もっと鮮明に聞こえるように品質の良いものを使うべきだ。
A	I	(2)	防災	現況追加		避難場所を知らない人がいるので、周知させた方が良い。
B	I	(2)	提言	イ	普段からの人的交流が必要	安否確認できるような人的交流を行うことが重要だ。
B	I	(2)	提言	イ	交流を望まない人は自助努力が必要	近隣や地域との交流を望まない人もいる。そのような人は、防災等の勉強を自主的に行い事前に備える等の自助努力を行うことが重要だ。
B	I	(2)	提言	イ	自助努力のための情報提供が必要	区は区民に対し、防災に関する情報提供を行うことが重要だ。
B	I	(2)	防災	現況追加		新住民の属性を自治会や隣近所が把握できていないため、安否確認ができない。

(3) 区民との協働によるまちづくり

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	I	(3)	提言	イ	引きこもりのお年寄りを外に連れ出すことが必要だ	地区内にも色々な場所はあるが、お年寄りにはなかなか来ないと思う。どうやって来てもらうのが大事だと思う。
A	I	(3)	提言	ウ	キャンプ場の整備を検討すべき	協働で管理して、公園でのキャンプ等ができように整備してほしい。
A	I	(3)	提言	ウ	様々な世代の人が集える場所が必要だ	豊島区役所の近くにある南池袋公園のような、世代を超えて様々な人が集える場所があると良い。
A	I	(3)	公共施設の利用方法	現況追加		子どもが身近な場所でキャンプ等の体験ができると良い。
A	I	(3)	公共施設の利用方法	現況追加		ボーイスカウトと連携して芝公園でのキャンプ等ができると良い。
A	I	(3)	様々な世代の人が集える場所	現況追加		芝地区内には芝の家のような人々が集まる場所はあるが、まだまだ知らない人も多いと思う。
B	I	(3)	提言	イ	協働に向けた区と区民の話合いの場づくり	区民と行政の間の話合いの方法が分からないので、話合いの場や方法が区民に分かりやすくすべきだ。
B	I	(3)	提言	イ	提案方法の多様化が必要	SNSや匿名での意見等、区民が行政に意見を言いやすくなるような工夫が必要だ。
B	I	(3)	提言	イ	法改正に合わせたタバコルール改正が必要	来年は喫煙ルールが強化されるので、タバコルールに力を入れるべきではないか。
B	I	(3)	公共施設の利用方法	現況追加		集会場の利用方法を、利用料金を無料化する、区民優先とする等、再検討してほしい。

B	I	(3)	芝地区ク リーン キャン ペーン	現況 追加		クリーンキャンペーンは、要請されるから参加するが、実施の目的がはっきりしない。何のために行うのか。
B	I	(3)	公共施設 の利用方 法	現況 追加		公共施設の運営にあたっては、年に数回、利用者からの意見を聞いてほしい。

(4) 地球環境に配慮したまちづくり

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	I	(4)	提言	イ	外国人にもごみの捨て方を周知させるべきだ	外国人店員のモラルがないように思う。ごみの捨て方についてルールを順守させるべきだ。
A	I	(4)	提言	イ	飲食店のごみ対策が必要だ	事業者（特に飲食店）の出すごみについて、地域住民が注意することは難しいので、関係機関が対応を強化し、罰則化してほしい。
A	I	(4)	提言	イ	ごみの捨て方は条例等の罰則化すべきだ	事業系ごみの捨て方について、ルールが守れない場合の対応として、条例等での罰則化が必要だ。
A	I	(4)	提言	イ	飲食店のごみ対策が必要だ	事業系（特に飲食店）のごみ対策を重点的に取り組むべきだ。
A	I	(4)	提言	イ	企業も道路の緑化や清掃活動に取り組むべきだ	芝地区は昼間人口が多く、住民は少ないので、企業が道路の緑化や清掃活動等に取り組むべきだ。
A	I	(4)	ごみ減量意識	現況追加		大門エリアは飲食店が多く、道路まで店のごみが見られ、まちを汚している。
A	I	(4)	環境美化	現況追加		街路樹等のすぐ近くにある樹木名や解説のプレートに工夫をすることで、興味が湧き、愛着が持てると思う。
A	I	(4)	環境美化	現況追加		街路樹等のすぐ近くにある植物名や解説のプレートを子どもと一緒に作ることで、子どもが植物について学習するきっかけづくりになる。
B	I	(4)	提言	イ	プラスチックごみに着目すべき	プラスチックごみについて、何を発信していくか考えるべきだ。
B	I	(4)	提言	イ	緑化に付加価値を持たせるべき	緑化の推進は大切だが、単に増やすだけでなく、防災的にも効果のある方法を考えるべきだ。

分野Ⅱ にぎわうまち

(1) 地域をつなぐ多様な主体の支援

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	Ⅱ	(1)	提言	イ	新たなコミュニティ形成における方向性の検討が必要だ	新たなコミュニティ形成における方向性の1つとして、「環境」をキーワードにペットボトルを使わない子どもたちの取組を活かすことは考えられないか。
A	Ⅱ	(1)	提言	イ	若い人のコミュニティ参加へのきっかけづくりが必要だ	区内在住で在勤の若い人へのコミュニティ参加のきっかけづくりとしては、楽しくご飯を食べたりする機会を作っておくことだ。
A	Ⅱ	(1)	提言	イ	町会・自治会役員へのデジタル化対応への支援が必要だ	町会・自治会の役員にはパソコンやスマホ等のデジタル対応に弱い人が多く、区としても研修等の支援があれば、少しでも地域のコミュニティ形成に役立つ。
A	Ⅱ	(1)	提言	イ	コミュニティ形成の目的は歴史文化の継承が重要だ	芝地区でのコミュニティ形成の目的には、芝地区の歴史文化を継承することを重点にする。
A	Ⅱ	(1)	提言	ウ	目標を明確にしたコミュニティづくりが必要だ	防犯・防災・子育て等の目標を明確にした上でのコミュニティづくりが大切である。
A	Ⅱ	(1)	提言	オ	区民の居住の有無を把握	この地区は高層住宅に住んでいる人が多く、居住者の変化が激しい地区であり、コミュニティについて議論する前に、居住者の動向、構成を把握することが先ず重要だ。
B	Ⅱ	(1)	提言	イ	団体と個人のマッチング制度が必要	人手が足りない団体と、手伝いたい個人を結びつけるマッチングの仕組みがあると良い。
B	Ⅱ	(1)	既存のコミュニティ	現況追加		町会は敷居が高い。自然に参加ができるようなお祭りや振る舞い酒等があると良い。

B	Ⅱ	(1)	既存のコミュニティ	現況追加		地域のコミュニティに参加したいという気持ちの人が見ることができる、区が公認するような「怪しくない」地域コミュニティの一覧をネットで見られると良い。
B	Ⅱ	(1)	既存のコミュニティ	現況追加		自治会の役員会の実態を把握し、参加しやすい団体となるよう改善が必要だ。

(2) 地域をつなぐ機会と場の充実

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	Ⅱ	(2)	提言	イ	阿見町との連携を強化すべきだ	さらなる阿見町との連携を強化していくことが重要である。
A	Ⅱ	(2)	提言	イ	大使館との交流・協働の強化をすべきだ	大使館との交流・協働を強化することによって、さらなる賑わいづくりを図ることが重要である。
A	Ⅱ	(2)	提言	エ	大使館の人たちに地域コミュニティへの参加を促すべきだ	大使館の人たちがもっと地域のコミュニティに参加するような取組を検討することが必要である。
A	Ⅱ	(2)	賑わいの捉え方	現況追加		賑わいとは、多くのいろいろな人がいて、そこにはいろいろな考えを持った人がいる。そうした人たちの交流によって賑わうことになる。
B	Ⅱ	(2)	提言	イ	施策目的、ねらいの明確化が必要だ	地域内の人的交流を深めるのが目的か、それとも外部から人を呼んで経済的にメリットのあるイベントを開催したいのか、施策の目的を明確にする必要がある。
B	Ⅱ	(2)	提言	エ	地区全体で取り組める「何か」が必要だ	例えば「尼崎ではみな阪神が好き」等、芝地区で皆が一つのことに取り組めるような何か、サポーターのモデルがあると良い。
B	Ⅱ	(2)	既存のコミュニティ	現況追加		町会同士なら、区が仲介をすればすぐに交流ができるはずだ。
B	Ⅱ	(2)	既存のコミュニティ	現況追加		町会の発信力の強化が必要だ。

(3) 地域の魅力の発掘・発信

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	Ⅱ	(3)	提言	イ	芝地区でアートを根付かせる理由や目的を明確化すべきだ	芝地区でアートを根付かせる理由、また背景を明確にしてほしい。
A	Ⅱ	(3)	魅力発信	現況追加		地域の魅力の発信として地域の歴史・文化名を紹介した案内板を整備することが必要である。
A	Ⅱ	(3)	魅力発信	現況追加		地域の魅力の発信として、子どもと一緒に案内板を製作し、街中に整備すると良い。
A	Ⅱ	(3)	魅力発信	現況追加		地域の魅力を深く知ってもらうために、案内板にQRコードを付けて港区や芝地区の事をもっと深く知ってもらう。
A	Ⅱ	(3)	魅力発信	現況追加		江戸末期、明治、大正と昔の街の写真を、その場所に掲示すると地域の歴史を効果的に発信できる。
B	Ⅱ	(3)	提言	エ	今の街の景観改善が必要だ	ビルの景観形成に取り組んだ方が良い。過去ばかりでなく、今現在のまちも大切にしたい。
B	Ⅱ	(3)	歴史まちづくり	現況追加		今のままでも十分に充実している。ガイドツアーも数多くあるし、街中で撮影会等も行われている。

分野Ⅲ はぐくむまち

(1) 子どもがのびのびと健やかに育つ環境づくり

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	Ⅲ	(1)	子どもの施策	ア	(方向性の修正)	施策の「子どもが」を「全ての子どもが」に修正してほしい。

A	Ⅲ	(1)	提言	イ	子どもの貧困対策を重視すべきだ	子供の貧困対策を重視する必要がある、貧困対策として行われている子ども食堂は地域のコミュニティにおいても意義があることだ。
A	Ⅲ	(1)	提言	オ	「貧困」という言葉を別の表現にすべきだ	「貧困」という言葉に変わる適切な言葉があると良い。
A	Ⅲ	(1)	子どもの育つ環境	現況追加		近年、子どもの事件、事故に係るニュースが多く、今後社会的格差が広がることを想定すると、憂慮せざるを得ない。
B	Ⅲ	(1)	提言	ウ	食育が必要だ	子ども食堂のようなものがあると良い。友達等大勢の人と食べる機会を設けることが重要だ。

(2) いつまでも健康的な生活を送ることのできる環境づくり

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	Ⅲ	(2)	高齢者施策	ア	(方向性の修正)	「いきがづくり」というよりは高齢者の趣味の拡充。拡張といった言葉に修正するのが良い。
A	Ⅲ	(2)	提言	ウ	引きこもり、孤独老人対策が必要だ	引きこもり老人、孤独老人に対する取組方針を言葉として明確に示すことが必要である。
A	Ⅲ	(2)	提言	ウ	引きこもりとデイサービスの中間的な取組みの検討が必要だ	例えば、江戸という言葉キーワードとした老人カフェなど、引きこもりの老人とデイサービスを利用する老人との間を埋めるような施策を検討する。
B	Ⅲ	(2)	提言	エ	若年層への取組が必要だ	若い時から健康に気を遣うことが大切で、若者を施策のターゲットにすべきでないか。
B	Ⅲ	(2)	心身の健康	現況追加		健康に対するアドバイスが必要ではないか。

(3) 誰もが気軽に学び楽しめる環境づくり

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	Ⅲ	(3)	⑤	ア	(方向性の修正)	⑤の東京2020オリンピック・パラリンピックの施策を計画に乗せることは、計画期間を勘案して再考する必要がある。
A	Ⅲ	(3)	生産年齢人口	イ	生産年齢人口を対象とする意図の明確化が必要だ	生産年齢人口をターゲットにしている施策の意図を明瞭にする必要がある。
A	Ⅲ	(3)	区の施設利用の基準の再検討	現況追加		区の施設利用の基準を下げ、より地域に開かれた施設運営を。
B	Ⅲ	(3)	提言	イ	施策対象の明確化	他で学ぶチャンスが無い人向け等、のターゲットを明確にすべきだ。
B	Ⅲ	(3)	提言	イ	施策目的の明確化	学ぶと楽しむを両立させるには、楽しさとスキルアップの両方が必要ではないか。
B	Ⅲ	(3)	提言	イ	誰もが気軽に申し込める方法の検討が必要だ	「誰もが気軽に」であれば、予約せずに、あるいはネットで申込みができる等の工夫が必要だ。
B	Ⅲ	(3)	提言	オ	魅力あるPR方法が必要だ	企画の意気込みが見えるようなPRが必要だ。
B	Ⅲ	(3)	⑤	削除		⑤オリンピックは来年なので、施策は終了して良い。

全体にかかること

グループ	分野	施策	テーマ	分類	見出し	意見要旨
A	全体		提言	イ	地区の特徴を踏まえた 施策対象の検討が必要 だ	施策で対象を検討する際には、 昼間人口が多いという特徴を 踏まえて、平日と休日を分けて 対象を検討した方が 良い。
A	全体		提言	イ	地区の特徴を踏まえた 施策対象の検討が必要 だ	施策で対象を検討する際には、 日本人と外国人を分けて 対象を検討した方が 良い。
A	全体		提言	エ	SDGsと計画の該当項目 の一覧表が必要だ	SDGsに掲げられている環境目標と 芝地区の計画に当て嵌めた ような一覧表があると 良い。

芝地区版計画推進部会 第7回 グループワーク記録

●地域事業	●意見の分類
1 芝地区事業者向け防災セミナー	ア 部会の評価への追加
2 地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト	イ 次計画の方向性への追加
3 もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議	ウ 重点的に取り組むこと
	エ 追加するキーワード
20 その他（進め方など）	オ 新たに取り組むこと
	カ 取りやめた方がよいこと
	キ その他
	提言 提言として文章化されたもの

1 芝地区事業者向け防災セミナー

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A		1 イ	アンケートによる効果測定が必要だ	セミナーのアンケートからセミナーに対する効果測定をすべきだ。
A		1 イ	港区のBCPを公開すべきだ	港区役所のBCPを事業者が参考にできるように公開してはどうか。
A		1 イ	BCPの導入状況を発表して良い所は表彰すべきだ	BCPの導入状況を調査し、優良な事業者を表彰すべきだ。
A		1 ウ	被害のあった場所の事例を把握すべきだ	例えば災害被害のあった他地域の事例を情報提供する等、BCPに活用できる情報を整理し公開すべきだ。
A		1 ウ	ブラッシュアップが必要だ	セミナーの内容については、現状に沿ったブラッシュアップを行うべきだ。
A		1 エ	アンケートでBCPの実態調査を行うべきだ	アンケートはWEB回答にして、より多くの企業のBCP策定状況を把握するべきだ。
A		1 エ	現状に合わせたフォローが必要だ	アンケートにコメント欄を設け、コメントに対してフォローをする必要がある。
A		1 エ	必要に応じてヒアリング調査をすべきだ	BCPの策定状況を詳しく把握するため、必要であれば企業に対してアンケートに限らずヒアリングも行うべきだ。
A		1 オ	企業トップを対象としたBCPセミナーも実施すべきだ	BCPを策定するためには、企業のトップに対してアプローチが必要だ。トップの意識を高めるために、トップ同士の会議を開催すべきだ。
A		1 提言		芝地区の全企業に対して、BCPの策定状況についてアンケート調査を実施し、実態を調べる必要がある。
A		1 提言		アンケートによる実態調査から、業種別のBCP策定内容等の分析が必要だ。
A		1 提言		他地域の事例や、区内の実態調査の結果をWEBで最新の情報として提供し、事業者が取り入れられるようにすべきだ。
B		1 ア	事業者の責務もセミナーで伝えるべきだ	区が提唱している事業者の責務（帰宅困難者対策、地域への貢献、施設設備の安全確保）について、地区内事業者が取り組むよう、セミナーで明確に伝えるべきだ。
B		1 イ	4. 事業者の責務が伝わるようなプログラムとすべきだ	区が提唱している事業者の責務（帰宅困難者対策、地域への貢献、施設設備の安全確保）を盛り込む必要がある。
B		1 ウ	受講者を増やすことが必要だ	受講者を増やすことが、帰宅困難者対策等の事業者の責務に取り組む事業者を増やすことに繋がる。
B		1 提言		策定者を増やしつつ、企業の責務としての地域貢献を盛り込み、芝地区に適したBCPが策定されるようにすべきだ。

2 地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A		2 ウ	避難所運営についての具体的な検討が必要だ	事業者と協働で避難所運営をする場合、平日であれば事業者の若手社員に協力を依頼する等、具体的に検討する必要がある。
A		2 エ	防災士をコアに事業運営すべきだ	町会や自治会の高齢化が進み体力が無いいため、事業を運営していくためには、防災士をコアにすることも方法として検討するべきだ。

A	2	オ	運営マニュアルの標準的な事例やひな型を作成すべきだ	地域ごとの自主的な作成を促すため、運営マニュアルの標準的な事例やひな型を港区として作成すべきだ。
A	2	提言		町会・自治会と事業者の協働による協働運営マニュアル、避難所運営マニュアル等、成果として残るものを作成すべきだ。
A	2	提言		事業者との協働だけでなく、マンション管理組合等との協働も必要だ。
B	2	エ	意見交換会ではなく、防災訓練を一緒にやるべき	防災訓練は、町会も事業者もそれぞれ独自に開催しているの、合同で開催すれば、交流もできるし、それぞれメリットが明らかになる。
B	2	エ	事業者・町会へのインセンティブが必要だ	現時点では、事業者がこの地域事業に関わるメリットが見えないので、事業者が参加するインセンティブ（区の施設利用の優遇、イメージアップ等）が必要だ。
B	2	オ	専門家を挟んだ方が効果が上がる	推進のためのテコ入れが必要で、コーディネータ（区、コンサル等）が町会と事業者の間を取り持たないと、進捗しないと思われる。
B	2	カ	現状のままでは効果が出ないので廃止	今の取組のままでは効果が上がらないので、現状のままであれば廃止、あるいは地域事業1と合体させた方が良い。
B	2	カ	町会も今のままでは問題だ	町会が高齢化が進み、保守的でもあるため、新しい事柄に取り組むのは今のままでは難しい。
B	2	提言		推進のための第三者（区、コンサル等）を交えた活動が必要だ。
B	2	提言		現状のままでは廃止、または他事業への統合が必要だ。
B	2	提言		事業を推進するなら、事業者・町会が取り組みたくなるようなインセンティブが必要だ。

3 もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	3	イ	若い人向けのテーマが必要だ	若い人がもっと参加しやすくするためには、若い人向けのテーマ設定が必要だ。
A	3	イ	企業と連携すべきだ	BCPや防災といったテーマ等、企業との連携を図っていくべきだ。
A	3	ウ	防災のテーマを重点化すべきだ	部会での扱うテーマで、防災のテーマは重点的に取り組む必要がある。
A	3	提言		活動が長期間にわたっており、内容に現状の社会課題とのズレが見られるようになってきた。現状に合わせるため、目的を明確化して部会のカテゴリーテーマを見直す必要がある。
A	3	提言		地域事業3の知見は、他の地域事業に活用できるはず。芝会議に参加しているメンバーで地域事業全体の戦略会議を行う等、他地域事業との連携を促進させるべきである。
A	3	提言		活動は、「戦略」を作成しているのではなく、具体的な「事業」を行っているのが実態である。地域事業として残すのであれば、名称を変更すべきだ。また、カテゴリーの見直し、他地域事業との連携、企業等との連携等、在り方を見直す必要がある。
B	3	ウ	取組内容を分かりやすく公開することが必要だ	誰のために、どんな取組をしているかが外部に見えないので、情報発信の方法を改善し、ネットで情報を検索した際に引っかかるようにする必要がある。
B	3	ウ	イメージギャップを少なくする取り組みが必要だ	「まちの魅力を発信」の「まちの魅力」の内容自体に、世代間のギャップがある。子育てママは子育てに関する生活情報が多いことがまちの魅力であり、他の世代では歴史等がまちの魅力である等、差があることを認識し、様々な「まちの魅力」を把握することが必要だ。
B	3	エ	情報公開をサポートするサポーターが必要だ	既存の会員では、ネットでの公開方法に限界があるため、学生等ウェブ上での情報公開に慣れている人を、活動のサポーターとして取り込む必要がある。
B	3	提言		若い世代にネットで検索されやすいPR方法が必要だ。
B	3	提言		取組内容やターゲットを少し広げて、芝会議メンバーと若い世代の間にあるイメージやギャップを改善する必要がある。

芝地区版計画推進部会 第8回 グループワーク記録

●地域事業	●意見の分類
4 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～	ア 「部会からの評価」への追加 イ 「次計画の方向性」への追加
5 もっと地域をつなぐ！ 交流の場づくりプロジェクト	ウ 重点的に取り組むこと エ 追加するキーワード
6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～	オ 新たに取り組むこと カ 取りやめた方が良いこと キ その他
20 その他（進め方など）	提言 提言として文章化されたもの

4 ご近所イノベーション学校～芝に幸せをよぶ人づくり～

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	4	ア	修了生の活動が続いているのか疑問だ	ご近所イノベーション学校の三回生で、色々な事を企画してやってみたが、続かずに挫折してしまった経験がある。
A	4	ア	事業の運営に係る地域の人は育っていない	運営の実態は、大学の先生が中心となって行っていて、また、その大学の学生たちも多く参加していた。地域に住んでいる人は残らなかったため、事業を運営できる地域の人は育っていないと思う。
A	4	ア	情報媒体はSNSを活用すべきだ	運営にあつての情報媒体は、“紙”より “SNS等”が良い。
A	4	イ	次計画の方向性と実態には乖離がある	次計画の方向性は文章としては良く出来ているが、実態とは掛け離れているように思う。
A	4	ウ	修了生が主体的に活動できる仕組みづくりが必要だ	地域の人を幅広く捉え、運営をする人をどう選ぶか、またどう育てるかが重要である。
A	4	ウ	運営内容の再検討	運営の在り方、運営方法、運営内容等根本的に再検討することが必要である。
A	4	エ	通勤、通学者も運営にかかわるべきだ	通勤、通学の人も“地域の人”であり、通勤、通学の人々が運営にかかわることが望ましい。
A	4	提言		ご近所イノベーション学校の運営において、連絡等はSNS等を利用しているが、情報の流し方が一方的で、情報も沢山あり、不要な情報も流れてくるため、個人個人にそれぞれ必要な情報を提供した方が良い。
A	4	提言		地域のそこの中に多くの“ご近所イノベーション学校”が、また“ご近所イノベーション学校のような仕組み”があると良い。
A	4	提言		新橋・芝地区は再開発等によって住んでいる人は高齢者ばかりである。ご近所イノベーション学校に参加している学生や若い人が将来この芝地区に戻り住んで、そしてご近所イノベーション学校で学んだ事を活かせるとう良い。
B	4	イ	在勤・在学者を追加	1. 地区内からの参加者の増強→1. 地区内住民や在勤・在学者からの～ ・を一つ追加→「・昼間人口が圧倒的に多い芝地区では、在勤・在学者の参加者を増やすことも必要だ」
B	4	ウ	修了生の活動実績が見える工夫が必要	修了生を応援してあげたいと思うような情報が欲しい。取組を発表する場や、芝地区の様々な会議に出席して意見を述べる等の取組があると良い。
B	4	ウ	修了生の活動実績が見える工夫が必要	修了生の活動を、量的に見られるような情報提供が必要だ。
B	4	ウ	修了生の活動を応援できる仕組みが必要だ	修了生へのフォローアップを実施して、卒業後に修了生同士がつながりを保てると良い。
B	4	ウ	修了生の活動を応援できる仕組みが必要だ	修了生同士が活動を助け合う、横のつながりがあると良い。卒業後に定期的に同窓会や交流会等。開催するのは、コミュニティに自分たちが主体的にかかわっていくという意識で、区ではなくOB等が良い。
B	4	提言		修了生の活動を発信することが必要だ。
B	4	提言		修了生へのフォローアップや、活動を応援する仕組みが必要だ。

5 もっと地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A		5 ア	「芝の家」と「ご近所ラボ新橋」の特長に合った使い方をすべきだ	「ご近所ラボ新橋」は新橋のオフィスで働く人がフラッと来て弁当を食べたりして帰っている。「ご近所ラボ新橋」は位置的には新橋で働く人と住んでいる人との交流の場として良い。また「芝の家」と「ご近所ラボ新橋」とは建物の違いからその使われ方にも違いがあるように思う。それぞれの特徴に合わせた使い方ができると良い。
A		5 ウ	開室時間の延長	夜間や日曜日でも利用できると良い。
A		5 ウ	いきいきプラザとの違いを明瞭にすべきだ	いきいきプラザとの違いを明瞭にし、利用者や利用方法等は“地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト”の方が多様性があることを強調するべきだ。
A		5 ウ	「ご近所ラボ新橋」と町会との結びつきが必要だ	「芝の家」は町会との結びつきがある。「ご近所ラボ新橋」はそれほど町会との結びつきはない。「ご近所ラボ新橋」と町会の結びつきがあれば、4階のカラオケ利用者も立ち寄って利用すると思う。
A		5 オ	「芝の家」のセキュリティの向上	「芝の家」はフラッと入れて自由に利用できて良いが、セキュリティが大丈夫か心配である。
A		5 オ	研究・学術的評価を知りたい	地域交流拠点は慶応大学の実験の場となっている面もある。交流の場として評価できるので、住んでいるものとしては大学としての研究・学術的評価を知りたい。
A		5 キ	「芝の家」、「ご近所ラボ新橋」での一時預かりサービスが必要だ	「芝の家」も「ご近所ラボ新橋」も場所は便利な位置にあるので、運営上の規則からは難しいのかもしれないが、一時預かりが出来ると思う。
A		5 提言		「芝の家」と「ご近所ラボ新橋」と他の施設との違いを明瞭にして、「芝の家」と「ご近所ラボ新橋」の施設の利用目的をもっと明確にする必要がある。そして何のための施設であるかを区民や芝地区で働く人にアピールする必要がある。
A		5 提言		地域交流拠点の利用者を含めて、運営等の考え方やニーズについての話し合いの場があると良い。
B		5 ウ	この事業の効果をきちんと検討すべきだ	事業費が大きいため、この事業を続けることでどのような効果が出ているのかをきちんと把握すべきだ。
B		5 ウ	開室時間や開催日の再検討が必要だ	平日昼間しか開室していないので、子どもと高齢者しか実質上参加できないのではないかと。新規利用者を増やすために、開室時間や開催日を再検討すべきだ。
B		5 ウ	事業の役割を明確にすべきだ	昭和30年代のようなコミュニティというが、何を目指し、再生して何をしたいのかが分からない。今の時代に合ったコミュニティの形成が必要ではないか。
B		5 エ	ボランティアの方の意見を聞く場を設ける	運営に参加しているボランティアの意見を聞いて、運営方法を改善した方が良い。
B		5 エ	イノベータが運営を担うべきだ	イノベータを育てて、彼らに運営を担ってもらうことで、現在800万円程度かかっている人件費を削減できるのではないかと。
B		5 カ	特定の人のみの交流であるなら事業は不要	利用者が固定しているように思われる。常連の人のみが交流する事業であれば、事業は不要だ。
B		5 提言		昭和30年代のようなコミュニティではなく、今の時代に合ったコミュニティの形成が必要ではないか。
B		5 提言		新規の方が参加するための敷居を下げ、気後れせずに場に入れる環境を作るべきだ。

6 芝 de Meet The Art ～アートに親しまち、芝～

A		6 提言		活動結果等は港区のHPでは紹介されているが、それ以外の場所ではあまり見かけない。例えば区民祭りで報告する等、区民への報告、告知するPRを徹底することが必要だ。
B		6 ウ	目的を絞った方が良い	最初の目的である治安上の理由でアートを飾るに限定し、アートへの理解を深める等、現時点で取り組まれている様々な事業の目的は、別の事業として取り扱った方が良い。
B		6 ウ	定期的に更新すべきだ	アートが汚れるので、定期的に更新をした方が良い。
B		6 エ	アート情報を掲示する	飾ったアートの情報は、調べたい人が調べられるように、情報提供は行った方が良い。
B		6 エ	飾るものは自由に決めれば良い	飾るものは、子どもや障がい者といった対象を限定せずにその都度自由に決めれば良い。
B		6 エ	企業にアートを設置する場所を貸してもらおう	治安上の理由でアートを設置する場所は、公共の用地以外にも周辺の企業等にも協力してもらえると良い。
B		6 提言		事業の目的を治安上の理由のある場所にアートを置くことに絞った方が良い。
B		6 提言		アートの選定には、周辺住民の意向を聞くプロセスがあると良い。

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	6	ア	子どもとアーティストとの繋がりが良い	ワークショップでの人と人との繋がり、子どもとアーティストとの繋がりが良いこと自体良いことである。
A	6	イ	芝地区の「市民文化」として位置付けるべきだ	街をきれいにすることと落書き防止等の治安対策とが両立する関係性をもった事業として、芝地区の市民文化として位置付けるのが良い。
A	6	ウ	実績を増やすべきだ	今の2か所の実績だと治安対策として本当に効果的かどうかは疑問である。高架下を利用する等設置箇所を拡大し、実績を増やす必要がある。
A	6	キ	神社をきれいにすべきだ	歴史ある神社の境内をもっときれいにした方が良い。
A	6	キ	配電盤を利用することは安全なのか疑問だ	配電盤等の配電機器を利用するのは安全なのか。東電の施設を利用することは難しいのではないか。
A	6	提言		事業の起源はアートなのか落書き対策なのか。最初は落書き・治安対策で始まったのであれば、目的として強調したほうが良い。
A	6	提言		事業の性格から見て、目標、ゴールを設定するのは難しいように思う。また事業目標を数量的に設定することは難しい。

芝地区版計画推進部会 第9回 グループワーク記録

●地域事業	●意見の分類
7 アロマからはじまる～ 高齢者セーフティネットワーク	ア 「部会からの評価」への追加 イ 「次計画の方向性」への追加 ウ 重点的に取り組むこと エ 追加するキーワード オ 新たに取り組むこと カ 取りやめた方がよいこと キ その他 提言 提言として文章化されたもの
8 高齢者の買い物支援	
9 芝 BeeBee's プロジェクト	
10 芝・ネイチャー大学校	
20 その他（進め方など）	

7 アロマからはじまる～高齢者セーフティネットワーク

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	7	ア	参加費高く参加者の減少が心配だ	参加するのに費用が掛かり、その為参加者が減っていると聞いているので心配である。
A	7	ア	地域との繋がりが増えて良い事業だ	受講者の数が増えれば、地域の人との繋がりが確実に増える事業である。
A	7	イ	対象の事業者を増やすことが必要だ	事業者向け地域高齢者見守り講座の対象を郵便局、警備会社だけでなく、例えば介護施設関係の事業者等、対象を増やすことが必要である。
A	7	ウ	参加に必要な費用を抑えるべきだ	事業を継続させるためには、参加するに必要な費用を安くする方向性を検討する必要がある。その為にも港区及び「公」の支援が必要である。
A	7	エ	専門職の方々と協力して見守りするべきだ	整体師や理容師等の専門職の方々の協力を得て、地域高齢者の見守り等に取り組むことも検討する必要がある。男性に触られることに抵抗を示す方もいるので、アロマセラピーに限らず、いろいろな専門職の方々とネットワークづくりが必要である。
A	7	提言		地域が繋がる上で意味のある事業であり、一過性でなく、修了後も参加者が活動を継続させるために「公」の支援が必要である。
A	7	提言		講座修了者の、終了後のボランティア活動の場を広げる必要がある。
B	7	ウ	高齢者の身体状況についての理解促進が必要だ	若い人に参加してもらえれば、高齢者の身体状況への理解が深まるだろう。
B	7	ウ	事業者向け講座開催よりも、セーフティネット構築につながる取組が大切だ	事業者向け講座は、高齢者の見守り、セーフティネット構築につながるように道筋を考えるべきだ。
B	7	オ	アロマ以外の取組でも良い	事業はどんどん推進すべきだが、アロママッサージだけに固執する必要はなく、肩たたき、話相手といったものでも良いのではないかと。
B	7	オ	事業者との見守りに関する協定の締結	区は郵便局と見守りに関する協定を結ぶべきだ。
B	7	カ	フォローアップ講座ではなく、実践の場が必要	フォローアップ講座ではなく、実際にアロママッサージを高齢者に施術する場を準備すべきだ。ふれ愛まつり等の場で実践できると良い。
B	7	提言		アロマと事業者による見守りは目的が異なるので事業を分けるべきだ。
B	7	提言		事業は推進すべきだが、ターゲットを若年層に絞り、アロマにはこだわらず、習得した内容の実践の場を設けるべきだ。

8 高齢者の買い物支援

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A	8	オ	高齢者の買い物支援の内容は時代遅れだ	神明いきいきプラザでは、代行運搬の実績はゼロであり、虎ノ門いきいきプラザも実績は減少している。高齢者の買い物支援事業は平成24年から始まったが、当時は近くにスーパーもなくそれなりに需要もあった。その後開発も進み地域の変化もあり、時代遅れになっている。
A	8	オ	他の調達・配達システムを活用した高齢者の買い物支援をすべきだ	スーパーやコンビニでも商品の配達を行っている店舗がある。こうした配達システムと協力して、高齢者の買い物支援の事業を展開する方向で検討するべきだ。
A	8	オ	ネット等を活用したコンビニ宅配システムの利用を支援すべきだ	コンビニ宅配システムがあることについての情報を流し、またネットを活用してその場で代行注文できるようにするべきだ。
A	8	カ	物産展の見直しが必要だ	物産展を実際に動かし、店を開くことには費用が掛かることであり、その費用対効果も高くはないのではないかと。根本から見直す必要がある。

A	8	カ	事業以外で物産展を行うべきだ	高齢者の買い物支援という点からの物産展でなく、区等が開催するイベント等に併せた物産展の開催等は意味がある。
A	8	提言		「高齢者の買い物支援」というタイトルは良いが、事業の内容を抜本的に再検討する必要がある。
B	8	ウ	キャッシュレス時代に対応できるよう支援が必要だ	キャッシュレスに対応したサービスを提供すべきだ。ネットが使えない人に対して、ネットを使えるようにする支援と、買い物に外出するにあたって支援が必要な人へのサービスが考えられる。
B	8	ウ	ネットを使う準備への支援が必要だ	ネットを使えるようにするため、スマホやPCの購入にあたっての支援、ネット回線を引く手続き等の支援から必要ではないか。
B	8	ウ	ネットの使い方講座が必要だ	買物するためのネットの使い方講座が必要だ。
B	8	提言		テーマと内容が合っていないので、現在の事業自体に意味がない。内容を再検討すべきだ。
B	8	提言		物産展は単なるイベントなので、買い物支援とは異なる。事業を分けた方が良い。

9 芝 BeeBee's プロジェクト

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A		9 ア	多世代交流や環境学習として意味のある事業で評価できる	毎年319万円の事業費に対して、はちみつ販売からの収入は微々たるものである。しかし多世代交流、環境学習という観点からは意義ある事業である。
A		9 イ	評価できる事業なので拡大すべきだ	良い事業として定着してきた。今後は、例えば小学校への宣伝をしていく等して、参加者を拡大する方向で検討すべきである。
A		9 ウ	活動内容の周知が必要	はちみつを採取し販売すると直ぐに完売するという事だが、活動内容をもっと区民に知ってもらわなければならない。
A		9 ウ	環境学習や芝地区の環境の視点からの普及活動が必要だ	多世代交流の視点に加え、環境学習や芝地区の環境といった視点からの普及が求められる。例として赤坂TBS屋上では、環境学習ということで養蜂を行っており見学会等も開催されている。
A		9 オ	都の公園・緑地関係機関との協力を進めるべきだ	蜂がどこの公園や緑地から蜜を採取しているか、またどの花や樹木から採取しているかを調べる等して、そのことを宣伝にも使うようになると良い。その為にも都の公園・緑地関係機関との協力が必要である。
A		9 提言		区民への情報提供、講座開催、小学校での講義等の機会を増やし、区民や子供たちの参加の機会を増やすことが必要である。
B		9 ウ	学校を巻き込んで取り組むべきだ	学校にBeeBee'sへの参加を呼び掛けるチラシを配布する、学校ごとにBeeBee's係をつくる等、学校を巻き込んだ取組とすべきだ。
B		9 オ	学校を巻き込んで取り組むべきだ	木曜日15時からの開催は、子どもに参加してもらうには早すぎる。学校はまだ授業中だ。
B		9 オ	多様な関わり方があると良い	会員制度を色々設けても良いのではないかと。親子会員、はちみつ収穫会員、蜂が立ち寄る花の維持会員等。
B		9 オ	はちみつを参加者募集に使ってはどうか	子どもの蜂に対する恐怖心を取り除くため、はちみつで客寄せをしてはどうか。
B		9 オ	ネットを使って参加者募集をしてはどうか	「ピアッツァ」のようなネット掲示板にグループを作って情報をアップしたら子育て世代も集まるのではないかと。
B		9 オ	はちみつのイベントも行いたい	他の養蜂事業で取れたはちみつを食べ比べできるイベントがあると良い。
B		9 提言		子どもの参加を増やす具体的な方策を検討すべきだ。

10 芝・ネイチャー大学校

グループ	地域事業	分類	見出し	意見要旨
A		10 ア	事業名と実態に乖離がある	港区では体験できない自然環境のもとでという事での港区の“芝・ネイチャー大学校”という名称だが、事業主体の実態は阿見町やいわき市ではないのか。事業名の看板と実態が違っていると思う。
A		10 イ	方向性を絞り込むべきだ	事業の今後の方向性として、拡げていくのか絞っていくのか不明確である。例えば、事業の内容を充実させ宿泊まですると費用面から対象者は絞られるし、また自然との触れ合いの機会を増やすという事であれば港区内の自然との触れ合いを増やすということで限定される。
A		10 オ	港区内の自然学習を行うべきだ	港区の“芝・ネイチャー大学校”ということであれば港区内にある芝離宮、古墳、白金自然教育園、高輪の森公園等港区内にある自然と触れ合う事業にした方が良い。その方が交通費も安く、参加しやすくなる。
A		10 オ	他事業との一体化	自然との触れ合いに関わる事業は港区の他の事業でも、大学等でも行われている。自然環境に触れながらまた一般家庭への自然環境への教育機会の拡充という事であれば、こうした他の事業と一体化していく方向が良い。こうした方向での事業であれば区民自らが出来るし、事業主体にもなる。
A		10 提言		事業の方向性を踏まえた名称の再検討が必要である。
B		10 エ	漁業体験の場所の再検討が必要だ	漁業体験をいわき市で行うには日帰りでは遠いのではないかと。目の前にある東京湾での漁業体験の方が、生活の延長上で海を大切にすることにつながるのではないかと。
B		10 エ	学校教育との連続性が合っても良い	学習のカラーを強めるなら、教育委員会の学習方針も確認した方が良い。

B	10	エ	他事業との重複感は避けるべきだ	区の他の事業との重複感がある気がするので、重複しているなら差別化を図った方が良い。
B	10	オ	自然の幅を林業まで広げても良いのではないか	農業、漁業があるなら林業体験をしても良いのではないか。
B	10	オ	他事業との連携が合っても良い	応募人数が多いので、落選した人にはBeeBee'sを紹介する等、事業間の連携が合っても良いのではないか。
B	10	提言		良い事業なので拡大すべきだが、体験する場所は再検討が必要だ。

●3本柱

- 分野Ⅰ かがやくまち
- 分野Ⅱ にぎわうまち
- 分野Ⅲ はぐくむまち

●地域事業

- 1 芝地区事業者向け防災セミナー
- 2 地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト
- 3 もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議
- 4 ご近所イノベーション学校
～芝に幸せをよぶ人づくり～
- 5 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト
- 6 芝 de Meet The Art
～アートに親しむまち、芝～
- 7 アロマからはじまる～
高齢者セーフティネットワーク
- 8 高齢者の買い物支援
- 9 芝 BeeBee's プロジェクト
- 10 芝・ネイチャー大学校

●意見の分類

- ア 提言への追加・修正
- イ 検討会での議論内容への追加・修正
- ウ 事業実績への追加・修正
- エ 部会の評価への追加
- オ その他

分野Ⅰ かがやくまち

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
A	I	ア	1【安全・安心な歩行空間の確保】	4	「歩行者の通行マナーの改善」に「歩きスマホの条例化等」と具体例を追加
A	I	ア	1【安全・安心な歩行空間の確保】	4	「啓発活動の強化」に「警察と協力する等」と具体例を追加
B	I	ア	4プラスチックごみ～	見出し	「プラスチックごみを含めたごみ全体の減量～」に修正
B	I	ア	4プラスチックごみ～	2	「～進めるとともに、繁華街も含めごみの捨て方ルール～」に修正
B	I	オ	欄外		プラスチックごみについて、なぜ考える必要があるのかの注記、コラムを追加

分野Ⅱ にぎわうまち

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
B	Ⅱ	ア	1 既存コミュニティ～	2～3	「デジタル化対応支援」→「デジタル化ではなく情報発信への支援が必要」に変更 デジタル化に代わる言葉は事務局が提案

分野Ⅲ はぐくむまち

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
A	Ⅲ	ア	全体への追加	新規追加	屋間人口との協力や在勤者も取り込んだ視点で提言を修正してほしい
B	Ⅲ	イ	心のバリアフリー		・を一つ追加 「様々な障害を持つ人への対応も必要だ」
B	Ⅲ	オ	欄外		心のバリアフリーについての解説、コラム風に入れる

1 芝地区事業者向け防災セミナー

修正なし

2 地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
A		2 ア	2. 事業対象者の変更の検討	新規追加	「(～の促進)を図るためのプロセスの構築(ルールづくりやシステムづくりなど)が必要」と追加
A		2 エ		新規追加	・を一つ追加 「予算をもっとつけるべきだ」

3 もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
A		3 ア	2. 活動が多くの人～【参加しやすい工夫】	2	「公開する等の工夫」に、具体的な工夫例を追加
A		3 ウ	◆まちの魅力発掘部会	新規追加	概要だけを紹介しても活動内容が伝わらないため、もっと詳しく具体的に活動内容を記載してほしい

4 ご近所イノベーション学校～芝に幸せをよぶ人づくり～

修正なし

5 地域をつなぐ!交流の場づくりプロジェクト

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
A		5 ア	2. 地域の人が～ ・入りやすい入口～	新規追加	ご近所ラボ新橋は芝の家よりもっと場所が分かりにくいので、ご近所ラボについても言及すべきだ
B		5 ア	1. 今の時代に合った～	新規追加	「交流の場を増やすべきだ」を追加

6 芝 de Meet The Art～アートに親しむまち、芝～

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
A		6 ア	2. 多くの人が～	新規追加	・を一つ追加 「展示場所の拡大」
B		6 ア	1. 芝地区の市民文化～	新規追加	下記追加 ・通りの左右で全く異なるアートを展開するのではなく、芝地区のアートのまちづくりとしてのトータルコーディネートが必要だ

7 アロマからはじまる～高齢者セーフティネットワーク

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
B		7 ア	1. 事業者に向けた～	全文	提言の並び順の変更。新しい並び順は下記の通り 1. アロマボランティア養成講座における対象者の増強 2. アロマのボランティア養成講座にける取組内容の検討 3. 事業者に向けたセーフティネット構築のための取組の強化

8 高齢者の買い物支援

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
A		8 ア	1. 買い物環境の～	2	「介護の方で同様の事業を実施しているため、」を追加
B		8 イ	評価できる点	新規追加	・を一つ追加 「買い物支援という考え方自体は良いことだ」

9 芝 BeeBee's プロジェクト

修正なし

10 芝・ネイチャー大学校

グループ	施策/地域 事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
A		10 ア	1. 活動内容の～	新規追加	・を一つ追加 「事業を多様化すべき」 “5回にこだわらず、業態に対応した取組がほしい”と追加

その他

グループ	施策/地域 事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
B	その他			新規追加	SNS・情報を発信という項目は、全ての事業に共通する内容なので、共通項として別途整理した方がよい

● 3本柱

- I かがやくまち
- II にぎわうまち
- III はぐくむまち
- IV 横断的な取組

● 地域事業

- 1 芝地区事業者向け防災セミナー
- 2 地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト
- 3 もっと地域を豊かにする芝地区戦略会議
- 4 ご近所イノベーション学校
～芝に幸せをよぶ人づくり～
- 5 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト
- 6 芝 de Meet The Art
～アートに親しむまち、芝～
- 7 アロマからはじまる～
高齢者セーフティネットワーク
- 8 高齢者の買い物支援
- 9 芝 BeeBee's プロジェクト
- 10 芝・ネイチャー大学校

● 意見の分類

- ア 提言への追加・修正
- イ 検討会での議論内容への追加・修正
- ウ 事業実績への追加・修正
- エ 部会の評価への追加
- オ その他

3本柱

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
A	I	ア	提言1	4	表現の変更 (現) 歩きスマホを規制する等→(新) ながらスマホ等
B	III	オ	コラム	全体	障がい者に対する差別解消に重点がおかれ、LGBTや人種差別のような見えない差別に対するバリアフリーが書かれていないので、見えない差別に対するバリアフリーに重点が置かれている文章に差し替える
A	IV	イ	【情報提供】	1	表現の変更 (現) デジタル機器を使用しない(できない) 情報弱者への対応 →(新) デジタル機器を使用しない(できない) 方などを含めた情報格差への対応
B	IV	オ	デザイン		・「横断的な取組」というタイトルのポイントを大きくする。 ・青色の下地を分野Ⅰ～Ⅲと同じくらい濃くする ・見出し「全ての分野に共通すること」→「分野Ⅰ～Ⅲに共通すること」

地域事業

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容	
A		2	エ	改善を希望する点	4	表現の変更 (現) 十分な取組ができるのか不安である→(新) 十分な取組ができていない
A		3	ア	提言1 ・部会の活動内容の再検討	見出し	表現の変更 (現) 部会の活動内容の再検討→(新) 部会全体の見直し
A		3	ア	提言1 ・部会の活動内容の再検討	1	表現の変更 (現) 芝会議の各部会の取組内容は類似しており、活動の違いがわかりにくい→(新) 芝会議の各部会の活動の違いがわかりにくい
A		3	ウ	実績		講座の実績、イベントの実績等の目に見える数で実績を修正する

A	5	ア	提言1	3	「今後の活用の方向性を検討する必要がある」の前に、「効果測定をして、」を追記する
B	7	ア	提言1 ・男性参加者を～	1	用語の差し替え (現)コンテンツ → (新)内容
B	7	エ	改善を希望する点		二つ目の・を修正 →「男性が参加しやすい講座が必要」
A	8	エ	評価できる点	2	表現の変更 (現)物産展の企画は意味があるので続けてほしい→(新)物産展の企画は面白いので続けてほしい
A	8	エ	改善を希望する点	2	表現の変更 (現)買い物を支援する事業に需要があるのか疑問である→(新)現在の買い物を支援する方法は需要がないのではないか
B	9	ア	提言1 ・既存目標の～	見出	(現)自然学習や環境学習 → (新)自然や環境の学習

その他

グループ	施策/地域事業	分類	修正箇所(見出し等)	行	修正内容
A	20		p.9、p.13、p.17のコラム	出典	URLを追記する
A	20		表紙		表紙のデザインについて、イラストでタワーやお寺を連想して表現するのではなく、増上寺や東京タワーなど実物のイラストを描いて載せてほしい
A	20		語句の統一		町会、自治会の表現がそれぞれの箇所で異なっているため、「町会・自治会」と語句をすべて統一する
B	20		漢字・ひらがなの統一		同じ意味でもひらがなと漢字が混在しているので統一
B	20		写真		ピントが合っていない写真が多い。プライバシーに配慮しつつ明瞭な写真を使ってほしい

港区基本計画・芝地区版計画書の見直しに向けた提言書

令和2年（2020年）3月

港区芝地区区民参画組織・芝会議「地区版計画推進部会」

表紙の絵（増上寺）：© 2018 わげんせ Web

港区芝地区 区民参画組織
芝会議・地区版計画推進部会
